

ドクトル、オクス
フ井ロソフ井一

家永豊吉

鹽澤昌貞

合譯

威氏租稅論 全

東京

丸善株式會社

叙言

方今列國競争ノ世界ニ處シテ立國ノ基礎ヲ鞏固ニシ以テ國勢ヲ振起シ進取ノ實ヲ舉ケント欲スル者深ク心ヲ國家經濟上ノ實力ニ注カサル可ラサルハ固ヨリ吾人ノ發辯ヲ要セサルナリ、經濟上ノ實力ハ國勢隆替ノ一大要素ニシテ其消長如何ハ直チニ邦家民人ノ命運ニ關ス、其扶植培養豈ニ一日モ怠ル可ケンヤ、彼ノ歐米列國カ通商貿易ノ法ニ依リ拓地植民ノ策ヲ施シ以テ次第ニ東洋ノ天地ニ雄飛シ來ルモノ皆主トシテ其經濟上ノ實力ヲ増進スル所以ニ非サルハナク、又其蘊蓄ノ結果ニ依ラサルハナシ、今日列國對峙ノ狀態タル武力ノ競争ト云ハンヨリモ寧ろ産業ノ競争ト稱スヘキハ世人ノ既ニ認メタル所ナラン、

吾人熟々我邦ノ狀勢ヲ查察スルニ維新以降社會百般ノ事物實ニ未曾有ノ變遷ト長足ノ進歩トヲ爲シタルハ蓋シ蔽フ可ラスト雖モ吾人ハ固ヨリ今日ノ有様ヲ以テ満足スヘキニ非ス愈々奮勵シテ國力ノ培養ヲ計リ以テ益々國運ノ發揚ヲ期セサル可ラサルヤ言フ待タス然レモ從來我邦人心ヲ動カシタルモノ多クハ法律政治等ノ問題ニ在リテ世上ノ論客亦權利義務等ノ辯說ニ汲々トシ社會ノ根本的要素タル財政ノ一事ニ至テハ往々深ク注意ヲ惹カサルノ憾ナキヲ得ス法律政治ノ事固ヨリ必要欠ク可ラスト雖モ財政ノ基礎全カラスンハ國勢ノ發達豈ニ夫レ望ム可ケンヤ且ツ夫レ帝國議會ハ既ニ開ケ政局全ク一變シタルモ未タ世人ヲ満足セシムルニ足ルノ實務舉カリタルヲ聞

カス顧フニ是レ論者徒ニ瑣々タル政爭ノ紛議ニ踴躍シテ深ク意ヲ經濟上ノ要務ニ用ヒサルノ弊ナラストセンヤ然ルニ近來ニ至リ經濟財政ノ事漸ク世論ヲ喚起シ益々社會人心ヲ動カサントスルノ趨向アルモノ、如シ是レ實ニ今日世界ノ大勢ニ徴シテ最モ喜フ可キ現象タルノミナラス國家發達上正當ノ順序ニシテ必ス正ニ然ラサル可ラサルモノナリ夫レ然リ而シテ國家實力ノ消長ニ至大ノ關係アルモノ實ニ其財政ニ若クハナシ、抑モ財政ノ事タル政務進行ノ樞機タルハ勿論國家經濟ノ活動ヲ操縦スルモノナリ、財政ノ法一タヒ歩ヲ誤レハ國家機關ノ運轉ヲ阻害スルノミナラス其結果國家ノ財源ヲ枯竭セシメ社會人民ヲシテ塗炭ノ境ニ陥ラシムルノ虞ナシトセス苟モ心ヲ邦

家ノ前途ニ注キ國力ノ鞏固ヲ計ラント欲スル者大ニ其財政ノ適否ヲ講セサル可ラス、特ニ今日租稅革新等ノ問題次第ニ世論ヲ喚起スルアリ、財政ノ研究益々其必要ヲ告クルモノト云フ可シ、然ルニ我邦從來財政租稅ニ關スル參考書タルヘキ著譯甚ク寡ク實ニ寥々晨星ノ感ナキヲ得サルナリ、然ラハ則チ今日ニ於テ其參考書ヲ供給スルハ決シテ無益ノ業ニ非サルヘシ、是レ吾人カ本書ヲ譯述シテ聊カ世人ノ參考ノ一端ニ資セントシタル所以ナリ、且ツ本書ハ現今經濟新學派ノ說ニ基ケルヲ以テ其論スル所嶄新ナルモノアルノミナラス、特ニ我邦目下ノ問題ニ頗ル適切ナルモノ尠シトセス、即チ本書中論スル所ノ獨占事業問題ノ如キ地租問題ノ如キ教育費問題ノ如キ所得稅問題ノ如キ

其他諸種ノ租稅問題ノ如キ一々枚舉ニ違アラス、吾人ハ固ヨリ悉ク其論旨ニ雷同セント欲スル者ニ非スト、雖モ世人之ヲ以テ其參考ノ用ニ供セハ其得ル所少クナラサルヘキハ吾人ノ信シテ疑ハサル所ナリ、

本書ハ米國前「ジョンズ、ホップキンス」大學教授、現「ウヰスコニンシ」

大學教授リ「チャード、テイ、イーリー」(Richard F. Ely)氏著「Taxation in

American States and Cities」ヲ譯述シタルモノニシテ、其原著ハ西曆千八

百八十八年ノ初刊ニ係ル、本著ハ主トシテ米國ノ州市ヲ本トシテ立論シタルモノニシテ、全部ヲ四篇ニ分チ、第一篇ニ於テ租稅ノ大體ヲ概論シ、第二篇ニ於テ米國各州市ノ實驗ヲ舉ケ、第三篇ニ於テ各種ノ租稅ヲ詳論シ、而シテ第四篇ニ於テ租稅ニ關スル

米國各州市ノ憲法及法律ノ規定等ヲ掲ケタリ、然レモ本譯述ノ
目的ハ租稅大体研究ノ參考書ヲ供給スルニ在ルヲ以テ第二篇
及第四篇ノ如キ特別ニ米國ニノミ關係スル部分ハ姑ラク之ヲ
省略セリ、若シ他日必要ノ機會アラハ或ハ之ヲ増補スルコトアル
ヘシ、

イーリー氏ノ本書ヲ著シタル時ハメーリーランド州ボルチモ
ール市ニ在リタルカ故ニ書中往々右ノ州及市ヲ指シテ吾州及
吾市ト稱セリ、讀者乞フ之ヲ記臆セヨ、
譯者中家永ハ嘗テ「ジョンズ、ホップキンス」大學ニ於テイーリー
氏ト師弟ノ關係アリタルヲ以テ本書ヲ譯述スルニ當リ書ヲ氏
ニ贈リテ其許諾ヲ請ヘリ、氏乃チ一書ヲ送リテ序文ニ代フルノ

好意ヲ表セラレタリ、依テ之レヲ譯述シテ次に掲載スルコト、
セリ、

明治二十七年四月

譯者 識

原著者イリリ氏米翰

吾親愛ナル「ドクトル」家永君足下

余ハ曩キニ拙著『經濟學原論』及『經濟學之過去及現在』ノ二書ノ
日本譯ヲ見且ツ絶海遠速ナル足下ノ故國ニ於テ多少ノ感化ヲ
與ヘタルヲ聞キ頗ル歡喜ノ情ニ堪ヘサリキ、貴邦ノ事タル實
ニ大ニ泰西社會ノ人目ヲ聳動スルモノアルノミナラス、余ノ如
キハ誠心誠意以テ其福利ヲ思ハスンハアラス、然ルニ今役々足
下塩澤昌貞君ト共ニ拙著『米國州市租稅論』ヲ譯述シテ拙著ノ日
本譯ニ更ニ一ヲ加ヘントスルノ報ニ接ス、余ノ欣悅其レ何物カ
能ク之ニ若カン、

余ハ固ヨリ欣テ足下カ拙著譯述ノ請ヲ承諾スルモノナリ、何ト

ナレハ足下ノ之ニ從事スル其能ク完成スヘキハ余ノ確信スル所ナレハナリ、
 足下ハ拙著中ノ或ル部分ヲ省略セントスト云ヘリ、余思フニ足下ハ右ノ外貴邦人ニ取リテ必要少ナキ部分モ亦之ヲ節約スルヲナラン、而シテ余ハ貴案ニ對シテ十分ニ同意ヲ表スヘシ、蓋シ少シク之ヲ取捨節約セハ却テ足下カ日本藩ノ價值ヲ加フ可ケレハナリ、

余カ拙著租稅論ヲ世ニ公ニセシヨリ以來余ノ論述シタルト同様ナル租稅以外ノ手段ニ依リテ歲入ヲ得ントスルノ方案愈々次第二世間ノ贊同ヲ博スルモノ、如シ夫レ進歩的邦國ニ在リテハ政府ノ歲入ヲ減削セント欲スルカ如キハ到底爲シ得ヘカ

ラサルノミナラス社會一般ノ利益上却テ之ヲ増加セサル能ハサルヘシ、然ルニ若シ租稅ノ負擔既ニ重キモノアリトスレハ租稅以外ノ財源ヲ利用セスシテ莫ソ他ニ國庫ノ需要ニ應スヘキ好手段アラシヤ、況ンヤ國運日進ノ各邦ニ在リテハ是等ノ財源頗ル多々ナルモノアルニ於テヤ、夫レ然リ是ヲ以テ國家ノ經費ハ益々増進スルニモ關セス其需要ニ應シテ十分ニ租稅以外ノ財源ヲ利用セハ我合衆國ノ如キ邦國ニ於テハ或ハ爲メニ往々其租稅ヲ輕減スルノ結果ヲ見ルヲ得ヘキナリ、其財源トハ他ニ非ス、余ハ勿論所謂自然獨占事業ニシ、巨額ノ報酬ヲ生スヘキ諸產業ヲ指スモノナリ、而シテ是等ノ報酬タル其資本ト勞力トニ對シ既ニ通常相當ノ比例ニ超過スル限リハ決シテ私人ノ

囊裡ニ歸セシムヘキモノニ非サルナリ、

余ハ茲ニ余カ曩キニ唱導シタル方案益々世間ノ賛同ヲ博シツ、アルノ例證トシテ今日合衆國中電燈事業ヲ所有シ且ツ之ヲ經營スル市府二百有餘ニ上リタルノ事實ヲ舉示スルヲ得ヘシ是レ實ニ余カ本著ヲ出シテヨリ既ニ數倍ノ増加ヲナシタルモノナリ、

抑モ新進ノ邦國ニ於テハ大ニ獨占事業ニ注意スヘキヲ特ニ所要ナリトス、而シテ余カ判斷ノ及フ所ヲ以テスレハ貴邦日本ノ如キニ於テハ其所要ナル他ノ幾多邦國ノ比ニ非サルヘシ、余ヲ以テ是ヲ觀レハ此問題タル其國家獨立問題ト相關スル實ニ少小ナラサルモノアリ、若シ貴邦日本ニシテ市内鐵道馬車、電燈瓦

斯、電信、電話及鐵道等ノ各事業ヲシテ私人ノ事業タラシムルヲ許容センカ、其大半ハ恐ラクハ富裕ナル外國人ノ掌裡ニ歸スルノ虞ナキヤ如何、若シ果シテ斯クノ如キ場合アリトスレハ余ハ實ニ是等ノ外國人カ貴邦ニ於テ厭フヘキ大勢力ヲ弄スルニ至ラサラントスルモ得ヘカラサルヲ恐ル、ナリ、何トナレハ一國經濟上ノ實力ヲ左右スル人々ハ亦同シク其政治ヲ左右ス可ケレハナリ、

余ハ敢テ悉ク動産ノ課税ニ反對スルモノニ非サルヲハ既ニ拙著中ニモ述ヘタリト雖モ願フニ尚ホ一層之ヲ力言シテ可ナリシナリ、余カ反對スル所ノモノハ動産ノ種類如何ヲ問ハス一筆無差別ニ之ニ課税スルニ在リ、余ノ考フル所ニ依レハ少ナクモ

我合衆國ノ如キニ於テ課税スヘキ動産ハ只或ル特別ナル種類ノ動産アルノミ、即チ銀行株券等ノ如キ容易ニ課税シ得ヘキ種類是ノミ、又動産ニ於ケル特別相續税ヲ主張シ之ヲ以テ一般動産税ニ更ヘントシ若シクハ其補充トナサントスルノ論者アリ、我合衆國中ニユーヨーク及ミシガンノ二州ニ於テハ近來直系支系ノ相續ヲ論セス凡テ動産ニ對スル特別相續税法ヲ實施セリ、其他支系相續税ヲ課スルモノ七州アリ、夫レ斯クノ如ク足下ハ遺産相續及贈與ニ課スル税法ハ我合衆國並ニ其他世界各国ニ於テ益々好評ヲ博スルノ勢アルヲ見ルヘシ、余ハ此事ニ就テ足下カ千八百九十一年七月刊行ノ「北米評論」(North American Review)ニ掲ケタル余ノ論文、並ニ「相續税論」ト題シ「コロンビア」大學ノ

『經濟、歴史及公法講究録』中ノ一冊トシテ刊行セル余カ友人博士マックス、ウエスト(Max West)ノ好論文ヲ參考セラレンコトヲ望ム、

余ハ尚ホ一言スヘキ事アリ、即チ他ナシ我國近來ノ經驗ニ徴シ且熟考スルニ財産ノ課税免除ニ就テハ余カ曩キニ拙著ヲ草シタル際ニ於ケルヨリモ一層精嚴ナル見解ヲ採ラサルヲ得サルト是ナリ、夫ノ公立教育事業ヲ除クノ外凡テ私立ノ教育事業及教會ニ課税スルカリフォルニア州法ノ如キハ果シテ不得策タルヤ否ヤ余ハ未タ全ク確言スルヲ得ス、殊ニ其州政府カ自ラ充分ナル教育事業ヲ設備セルカ如キ場合ニ於テ然リトス、兎ニ角財産ノ課税免除ニ就テハ深ク注意ヲ加フルト最モ必要ナリトス、

若シ然ラスンハ其免除ノ甚タ大ナルカ爲メ他ノ課税セラル、
財産ニ對スル負擔不當ニ過重トナルノ虞アル可キナリ、

敬具

千八百九十三年十一月二十四日

ウヰスコンシン州マディソン

ウヰスコンシン大學ニ於テ

リチャード、テイ、イーリー

日本東京

「ドクトル」家永豊吉君足下

威氏租税論目次

第一編 緒論	一頁
第一章 租税ノ定義	一
第二章 租税ニ關スル概論	二十一
租税ハ交換ノ報酬ニ非ス	二十一
租税ハ負債ニ非ス	三十一
課税ノ權ハ立法部ニ在リ	三十二
租税ハ秩序アル定期ノ納附ナリ	三十七
一地方ニ於テ租税ト稱スルモノ必スレモ他地方ニ於テ	
租税ト稱スルモノニ非ス	三十九
課税ノ權ハ他ニ委託スル能ハス	四十

第三章 近代租税ノ起原及發達……………四十三

今日吾人ノ解レテ租税ト稱スルモノハ新事物ナル事……………四十三

中古時代ニ於ケル國家ノ歳入……………五十五

租税ハ國家ノ歳計上久シク下位ヲ占メタル事……………六十六

租税ハ最初ニハ獨リ薄弱力ナキ者ノミ之ヲ納メタル事……………八十

初代米人ノ租税ニ對スル見解……………八十五

○現時ノ歳入中ニ於ケル租税以外ノ財源及其比較的説明……………九十二

第四章 租税ノ作用ニ關スル概論……………百九

租税ハ往々通常歳出ヨリモ多額ノ收入ヲ生ス……………百九

○租税ノ趨向ハ區々ナリ……………百十三

租税ト自由……………百十四

租税ト社會改良……………百二十三

第五章 租税ノ種類……………百二十五

租税ノ分類肝要トナレリ……………百二十五

重農學派ノ分類……………百二十六

其他ノ分類……………百二十八

行政上ニ於ケル租税ノ分類……………百五十二

自餘ノ分類法……………百五十四

第六章 直税及間税ノ比較……………百五十九

間税ハ主トシテ貨物ニ課スル租税ナリ……………百五十九

間税ハ平等ノ原則ニ背ク……………百六十一

間税ト貧苦……………百六十六

間税ハ商業ヲ障礙ス……………百六十七

間税ト獨占……………百六十八

間税ハ專制政治及貴族政治ニ適スルモノナリ……………百七十二
 直税ハ善良ノ公民タルヘキ本分ヲ發運ス……………百七十五
 直税間税ヲ巧ニ併用スルヲ得策トス……………百七十八
 直税及間税徴收費ノ比較……………百八十

第七章 租税ノ書類……………百八十七
 租税書類ノ稀乏ナル事……………百八十七
 租税調査委員會ノ報告……………百八十七
 經濟學及財政學諸著作……………百九十
 特別一科ノ著書……………百九十五
 自餘ノ研究材料……………二百

第二編 略ス……………二百三

第三編 租税ノ理論……………二百五

第一章 租税新制度ノ基礎タル可キ原則……………二百五
 第二章 不動産税……………二百二十五
 第三章 不動産ノ州税免除……………二百三十五
 不動産ノ州税免除ニ對スル行政上ノ理由……………二百三十五
 州歳入ノ財源ト地方歳入ノ財源トヲ分離スヘキ他ノ理由……………二百四十

第四章 社會ヲシテ州市ニ於ケル不動産價格增加ノ利益ヲ享有セシムルノ方案……………二百六十三

第五章 自然獨占事業……………二百七十五
 自然獨占事業ノ定義及性質……………二百七十五
 自然獨占事業ノ利益アル事……………二百七十八
 勸告スヘキ諸件……………二百八十

第六章 酒類釀造及販賣ニ課スル租税……………二百九十七

制限禁止法……………二百九十七

高價免許税法……………三百四

第七章 所得税……………三百十一

租税制度ニ於ケル所得税ノ地位……………三百十一

所得税法ニ依ラサレハ租税ノ平等ヲ保ツコ能ハス……………三百十二

所得税ハ善良ナル政府ノ發達ヲ助クルモノナリ……………三百十六

所得税ニ對スル普通ノ反對説……………三百十九

所得税ト動産税トノ對比……………三百二十九

所得税ハ州税ヌラサルヘカラス……………三百三十四

所得税ノ査定……………三百三十六

低廉ナル所得税ヲ以テ足レリトスヘレ……………三百四十三

米國諸州ニ於ケル所得税……………三百四十七

ペンシルヴァニア州ハ特別ナル種類ノ所得ニ限リテ

課税スルノ制規ナリ……………三百四十八

或程度以上ノ所得ハ悉ク課税スヘキモノナリ……………三百五十

累進税對比例税……………三百五十五

第八章 遺産相続税及遺産贈與税……………三百七十一

第九章 營業税……………三百九十一

第十章 蒸氣鐵道及其他ノ會社ニ課スル租

税……………三百九十七

鐵道……………三百九十七

會社……………四百六

第十一章 諸種ノ動産税……………四百十七

家具税……………四百十七

或種類ノ動産ヲ免税スル事……………四百十九

此免税ヨリ生スル利益ノ普及……………四百二十五

第十二章 貯蓄銀行、教會、教育及慈善事業ニ
課スル税法……………四百二十九

貯蓄銀行……………四百二十九

教會堂……………四百三十八

教育及慈善の事業……………四百四十一

第十三章 租税ノ實際ニ關スル詳細及其行政
機關……………四百五十一

官署……………四百五十六

一年ノ經費ハ前年ニ於テ豫メ徵收セサルヘカラス……………四百五十九

租税速納ノ割引……………四百六十

郡ノ租税部組織……………四百七十

市査正官……………四百七十六

ホルチモール市ニ於ケル不動産及借地産ノ評價法……………四百八十一

起訴……………四百八十二

結論……………四百八十六

威氏租稅論

ドクトル、オフ、
フキロツフキ、
ドクトル、オフ、
フキロツフキ、

イーリー 原著

家永豊吉

合譯

鹽澤昌貞

第一編

緒論

第二章 租稅ノ定義

租稅論ノ一書ヲ述作セントスルニ當リ直ニ起リ來ルハ租稅トハ
何ヲセト云フ疑問ナリ、蓋シ租稅ノ實躰ニ付テハ人々多クハ皆ナ
明白ナル知覺ヲ有セリ、然レトモ租稅ノ定義ヲ下シテ眞ニ租稅ト
稱シ得ヘキモノハ悉ク之ヲ包含シ、而シテ眞ニ租稅ト稱シ得サル
モノハ悉ク之ヲ除斥セシメテ試ル者ハ何人モ其極メテ難事ナル
ヲ發見スヘシ、種々ノ財政學者數多ノ定義ヲ出セリ、然レトモ余ノ

見ル所ヲ以テスレハ彼等ノ中ニ於テ箇々細密ノ點ニ至ルマテ能ク精確無謬ナルモノ一モ之アラサルナリ余ハ是レヨリ租税ノ定義中最モ有名ナルモノ數種ヲ引用シテ之レニ簡短ナル批評ヲ下シ、最後ニ余カ自家ノ定義ヲ提出スヘシ、

ハイデルベルグ大學教授クニース (Kneiss) 租税ノ定義ヲ下シテ曰ク、

*此定義ハ余ガ曾テ誌聞セル氏ノ論議筆記ヨリ抄出セリ、

「租税トハ國家ノ必要ナル一般ノ費用ヲ充サンガ爲メ、法律ニ依リテ規定セラレ、且ツ法律ニ依リテ徵集セラル、各人ノ納附ナリト、
此定義タル租税ノ何物タルヤヨリモ寧ロ何物カ道理上宜シク租税タルベキモノナルヤヲ示スモノト云フ可シ、今翻テ實際ノ状態ヲ查察スルニ、吾人ハ往々政府ノ必要ナル費用ノ爲メニ非スシ

テ、却テ無益ナル浪費ニ供センガ爲メニ賦課セラル、租税アルヲ見ル、加之ナラス是等ノ租税ハ常ニ社會全體ノ福利ヲ目的トセスシテ獨リ或種ノ私慾ヲ遂ケンガ爲メニ人民ニ賦課セラル、ト少シトセス、吾人若シ土耳其露西亞ノ如キ國々ノ制度及ヒ其政務ヲ驗スレハ、吾人ハ直チニ其租税ニ關スル實際ノ行爲トクニースノ與ヘシ定義トハ大ニ背馳セルヲ發見スヘシ、

法官クーリー (Cooley) 其著「租税論」中ニ定義ヲ下シテ曰ク、

「租税トハ政府ヲ維持シ其他萬般ノ公用ヲ充サンカ爲メニ、國家ノ權力ニ依リ強制的ニ賦課セラル、人民及財産ノ比例的納附ナリト、

此定義タル一方ニ於テハ租税ノ定義中ニ宜シク含蓄スヘキ概念ヲハ十分明確ニ包括シ得サルノミナラス、他方ニ於テハ其所說亦

精密ヲ欠クカ如シ、吾人若シ公權ノ認許シタル所ナリト云フ單一ナル理由ヲ以テ國庫ノ出費ハ皆ナ公益ノ爲メナリト主張セハイザ知ラス、若シ然ラサル以上ハ租税ナルモノハ只其表面上ニ於テサヘ常ニ公用ノ爲ニ賦課セラル、モノニ非ス、憲法タモ時ニ或ハ私用ニ供スル費用ノ爲メニ條項ヲ設クルコトアリ、ニユーヨーク州憲法第一章第九項ニハ左ノ如キ規定アリ、

「公金若シクハ公有財産ヲ一地方若シクハ一私人ノ目的ニ使用セントスル各議案ハ各立法部ニ撰舉セラレタル議員三分ノ二ノ贊成ヲ要ス」ト、

又ロイド、アイランド州憲法ノ如キモ其第四章第十四項ニ於テ同一ノ規定ヲ有セリ、

「メーリーランド州ノ歴史中ニハ私用ニ供スル目的ヲ以テ租税ヲ

賦課シタル著名ノ例證アリ、管テ「聯邦ノ猛犬」ト稱セラレタルルーサー、マルティン(Luther Martin)ト云ヘル人アリ、メーリーランド州ノ裁判所内ニ於テ廣ク名聲ヲ博センガ、千八百二十年突然中風ニ罹リ已ムナク朋友ノ扶助ニ依頼スルニ至レリ、州内ノ人民之ヲ見テ痛ク哀憐ノ情ヲ起シ憇惜止マス、爲ニ立法部ハ千八百二十二年ニ於テ遂ニ一箇ノ條例ヲ通過シ州内ノ各代言人ヲシテ免許料トシテ毎年金五弗宛ヲマルチンノ消費ノ爲ニ其擔當員ニ支拂ハシムルニ至レリ、

ポール、レロア、ボリユー(Paul Leroy Beaulieu)ハ其著「財政學」中ノ一節ニ於テ租税ノ定義ヲ下シテ曰ク、

「租税トハ唯々政府ノ費用ノ分擔トシテ公民タルモノニ請求スル納附ナリ」ト、

*再版第一卷百
四頁

而レテ又其以下ノ紙上ニ於テ之ヲ敷衍シ、更ニ定義ヲ與ヘテ曰ク、
 『政府ノ費用ニ供センカ爲メニ其國土ノ執權者ヨリ定期ニ公民
 タルモノニ請求スル各種ノ納附即チ之レ租税ナリ』ト、

レロア、ホリユーノ與ヘタル是等ノ定義ニ對スル非難ハ恰モ前項
 ニ述ヘタル所ト同一ナリ、且ツ是等ノ定義ハ彼法官クローリーノ定
 義中ニサヘ含有セシムルヲ得ヘキ課税ノ諸目的ヲモ全ク度外ニ
 付シタリト評スヘシ、蓋シ租税ヲ課スルハ獨リ政府ヲ維持スルカ
 爲メニ止ラス、其他尙ホ諸種ノ目的アリ、即チ人民ヲ獎勵シテ或種
 ノ事業ヲ爲サシメ或ハ之ヲ制シテ或種ノ事業ヲ廢止セシメンガ
 爲メニ徵集セラルトアリ、例セハ彼輸入税ノ如キハ往々人民ニ向
 テ製造事業ヲ獎勵スルヲ目的トシ、其歳入ノ如キハ單ニ偶然ナル
 附帶物ノ如ク見做サル、トアリトス、*

*ジョンス、ホ

フキンス「大
 學史學政治學
 紀要」第二卷
 第五號第六號
 博士ヘンリー、
 カーター、ア
 ダムス著、一
 七八九年乃至
 一八一六年、
 合衆國ノ租税
 參考

イリノイ、ペンシルヴェニア、ミソウタ其他諸州ニ於テ酒類營業者ニ
 課スルニ多額ノ免許料ヲ以テスルモノ其意蓋シ酒類商賣ヲ阻遏
 セントスルニアリ、是等ノ免許料タル素ヨリ莫大ノ歳入ヲ生スヘ
 シ、然レトモ此種ノ課税論者ノ主張スル所ヲ聽クニ此課税ノ爲メ
 ニ國庫ノ享クル所ノ利益ノ如キハ單ニ偶然附帶ノ事柄ニシテ、其
 本來ノ大目的ハ酒店ノ數ヲ減シ、飲酒ノ害毒ヲ殺カント欲スト云
 フニアリ、又々聯邦法律ノ下ニ組織セル國立銀行ニ非サル他ノ銀
 行組合ニ於テ銀行券ヲ發行スル時ハ聯邦法律ニ依リテ各々一割
 ノ租税ヲ課セラル、モノトス、然ルニ此税額タル銀行券發行ヨリ
 生スル利益ヨリモ更ニ高價ナルヲ以テ爲メニ全ク州立銀行ノ證
 券發行ヲ抑止スルニ至レリ、而シテ是レ實ニ其目的トシタル所ナ
 リ、蓋シ我米國法庭ノ判決ニ據レハ課税ノ權利ハ物品ノ價格ヲ破

* クローリー著「租
税論」十、十一
頁註ヲ参ヨ

壞スルノ權利ヲ含有セリ、判事長マーシャル(Marshall)曰ク「課税ノ力ハ破壊ノ力ヲ含ム」ト、又曰ク「若シ課税ノ權利ナルモノ存在スルトセハ是レ其性質上如何ナル制限ヲモ許サ、ル權利ナリ」ト、
次ニ掲クル定義ハ余カ從來許多ノ考慮ヲ費シタルモノニシテ余ノ見ル所ヲ以テスレハ精確ナル租税ノ説明ヲ含蓄スルカ如シ、曰ク

「租税トハ公共ノ負擔ハ一般ノ納附若シクハ喜捐ヲ以テ維持スヘキ者ナリトノ趣旨ニテ政府ノ費用ヲ充サンカ爲メ其國土ノ執權者ヨリ公民併ニ時ニ依リテハ公民ニ非サルモ税權ノ達スル範圍内ニ在ル者ニ請求スル經濟的物件若シクハ勞役ノ單ニ一方ニ移轉スルモノヲ云フ、」

此定義中註釋ヲ要スルモノ數點アリ、以下之ヲ述ヘン、先ツ租税ハ

一方ニ移轉スルモノト説キタリ、是レ全ク相互的讓與ノ意義ヲ除斥センカ爲メナリ、抑モ租税ハ交換ニ非ス、又々報酬ニ非ス、一國ノ主權者ハ公民ヨリ其負擔ヲ請求スルニ當リ其施行スル所ノ勞役ガ公民ニ取リテ果シテ幾何ノ價值アルヤヲ問ハサルナリ、是レ即チ所謂租税ハ保護ノ報酬ナリト云フ古代法律上ノ妄説ヲハ明白ニ棄却シタルモノナリ、元來斯クノ如キ瞭然タル誤謬カ往時世ニ行ハレタルノミナラス、今尙ホ依然トシテ存在セルハ實ニ奇怪ト云フ可シ、思フニ是レ恐ラクハ世ノ法律家タルモノ一般ニ經濟學ニ對シテ相應ノ注意ヲ與ヘス、未タ曾テ租税原理ヲ悟得シタルコトナキカ爲メナラスンバアラス、彼等ハ租税ニ付キ喙ヲ容レサルヲ得サルノ場合ニ遭逢スルヤ、別ニ善良ナル定義ヲ知ラサルヲ以テ法律其者ハ毫モ租税中ニ夫ノ賣買併ニ之ヨリ起ル契約及負債

等ニ適用スヘキ原理ヲ含蓄スルコトヲ許容セサルコトヲ知リツ、尙ホ且ツ租税ハ保護ノ報酬ナリト反復ス、蓋シ已ムヲ得サルニ出ツルナリ、尙ホ納税ノ理由ニ付テハ後章ニ於テ論スル所アルヘシ、

租税ハ經濟學上ノ物件即チ價格アル物品ノ移轉ナリ、而シテ通例之ヲ支辨スルニ貨幣ヲ以テス、去レトモ此事必シモ然ラス、昔シ亞米利加殖民地ニ於テハ租税ノ支辨ニ貨物ヲ受納スルノ普通ノ慣例ナリキ、ニユー、イングランド州ニ於テハ物品ヲ以テ租税ヲ支辨スルカ爲メニ瘦羸セル牝牛ヲ使用シタルノアリト云ヘリ、ロイド、アイランド州ノ如キハ租税トシテ國庫ニ受納シ得可キ諸種ノ貨物ニ對シ各々一定ノ割合ヲ規定セリ、此外尙精密ニ探索セハ最初ノ殖民地十三州中悉クハ皆ナ同様ノ制法アリシトヲ發見ス

ルナラン、

或種ノ目的ニ供スル租税ハ我諸州中勞力ヲ以テ支辨セラル、處多シ、是等ハ主トシテ田舎地方ニ於ケル道路ノ開設及ヒ修繕等ノ爲メニ賦課セラル、モノトス、即チ是等ノ租税ハ拂ヒ出サル、ニアラステ働キ出サル、モノト云フ可シ、是等ハ恰カモ彼舊制度ノ一弊害タル佛國古代ノ「コルヴェ」^{勞力ヲ以テ租税ニ似タリ、而シテ現今合衆國ノ大部分ニ存在スル道路ノ甚々不良ナルハ多少}或ハ此法ニ由リテ成リシ故ナラン、蓋シ市府ノ道路税ハ通例廢止セラレ一嚴ノ租税ヲ以テ之ヲ補フトナレリ、然ルニチヨルチヤ州ノアトランタ市ニ於テハ如何ナル種類ノ租税ヲ問ハス貨幣ヲ以テ之ヲ納メ得サルカ或ハ之ヲ拒ム者アルトキハ其租税ヲ支辨シ了ル迄一日三十五仙ノ割合ヲ以テ市内ニ勞働ヲ命スルモノト

ス、
租税ハ通例公民ニ向テ請求スルモノトス、然レトモ國內居住ノ外國人モ一定ノ期限後ハ大抵ノ租税ニ關シテハ公民ト同様ノ取扱ヲ受ク、又居住者ニ非サル外國人ト雖モ國內ニ財産ヲ所有スル時ハ同シク課税セラル、モノトス、此事タル不動産ノ場合ニ於テ常ニ然リ、又時トシテハ動産ニモ及フコトアリ、抑モ不動産税ハ物ニ對スル租税ニシテ、恰モ其收入ニ於ケル最先ノ賦課タルガ如ク其所有者ノ如何ニ關セス之ヲ賦課スルモノナリ、此租税ノ存在セルカ爲メ實際ニ於テハ財産權ノ幾部分自ラ公有ニ歸セント同一ノ有様ニ至ル、往々之レアリ、英國ノ如キハ會社株式、株券及ヒ公債證書等ニ課スル所得税ハ會社及ヒ利子若シクハ配當金ヲ支拂フ所ノ銀行ヨリ徵集シ、其株券及ヒ公債證書所有者ノ居住者ニ非ザ

ル外國人ナルト否トヲ問ハザルナリ、
人頭税ノ行ハル、諸州中ニハ外國人モ同シク課税セラルヘキヲ明カニ規定セルモノ多シ、チヨルチヤ州會計長ノ如キハ其論達書中ニ外國人モ人頭税ヲ拂フ可キ義務アルノ事實ヲ述ベテ殊ニ收税吏ノ注意ヲ促セリ、
外國人ニ租税ヲ負擔セシムルノ正當ナル理由ハ之ヲ賦課スル政府ノ存在スルガ爲メニ彼等モ多少ノ便益ヲ受ク可シト云フニアリ、此點ヨリ論スレハ此種ノ租税ヲ以テ保護ノ報酬ナリト見做スヲ得ヘシ、何トナレハ公民タルノ義務故ナク外國人ニ歸スト主張スルコト能ハサレハナリ、去レトモ又繼テ思考セハ若シ外國人ニシテ我國政府ノ爲メニ課税セラル、トモ我公民モ亦恐クハ外國政府ノ爲メニ課税セラル、コトアルヘク、且ツ我國政府カ外國人

ヨリ徴集スル額ハ殆ント外國政府カ我公民ヨリ徴集スル額ト租
ホ相同シカルヘント論スルヲ得ン、斯ノ如ク説キ來ラハ課税ノ
事ノ如キ容易ニ其精密ヲ得難キ事柄ニ付テモ租ホ公平ナルヲ得
ヘン、

威力ナル意味モ亦租税ノ中ニ含蓄セラル、ヤ疑ナレ、即チ彼外國
人ノ居住スル場所ニレテ政府ノ費用ヲ負擔センコトヲ強ヒ得ヘキ
位置ニアリトノ單一ナル事實往々課税ノ充分ナル理由トシテ主
張セラル、コトアルカ如キ是ナリ、

公共ノ負擔ハ一般ノ喜捐ニ因テ維持ス可キモノナリ、茲ニ所謂一
般トハ人民ノ或階級若シクハ財産ノ或種類ニ適用スヘキ一定ノ
規則ニ遵フコトヲ意味スルモノニレテ、其規則タル必シモ人民全體
ニ適用スルモノニ非ス、又財産全體ニ適用スルモノニ非サルハ素

ヨリナリ、蓋シ何人モ普通ノ規則ニ由ラスレテ箇々別々ニ選出セ
ラレ、以テ政府ノ維持或ハ公費ノ負擔ヲ命セラル、カ如キコトアル
ヲ得ス、若シ斯クノ如キコトアリトセハ是レ租税ニ非スレテ沒收ナ
リ、合衆國聯邦憲法ノ條項中ニハ相當ノ報償ナクシテ私有財産ヲ
公用ニ供スルコトヲ得ストノ規定ヲ設ケ以テ斯クノ如キコトヲ禁止
セリ、イリノイ州憲法第九條第一項ニハ州會ハ出賣商、輕賣人、仲買
商、呼賣商、小賣商、經紀商、其他數種ノ人民並ニ渡錢ヲ取ル橋梁、渡場、
保險、電信、飛脚事業、及ヒ特許ヲ有セル人民若シクハ會社等ニ對シ
テ一般ノ法律ニ準據シ租税ヲ課スルノ權ヲ有ス、但シ其租税タル
『一階級内ニ於テハ皆ナ均一』ニ賦課セサル可ラストノ規定アリ、諸
州ノ憲法中ニハ往々何種ノ租税ヲ賦課スヘキヤ、或ハ如何ニシテ
之ヲ賦課スヘキヤ等ノ事ヲ規定セル者アリ、例セハメーリーラン

州ノ權利布告令第十五條ノ如キハ州内ニ居住シ若クハ財産ヲ有スル人民ハ其不動産又ハ動産ノ實價ニ準シ政府維持ノ爲ニ各其比例ニ依リ租税ヲ負擔ス可シト規定セリ去レトモ此條タル租税ノ原理上或種ノ動産ニ限リ免稅ヲ可トスルニモ拘ハラズ之ヲ免除スルコト妨グルモノト反論スルヲ得ヘシ、

法官クローリー其著「租税論」中ニ於テケンタツキー州控訴院ノ判決ヲ載ス其判決タル即チ或法律カ市中ノ一部分ニ向テ比類ナキ多費ノ方法ニテ街路改良ヲ施サシメ其費用ハ承諾ヲモ經スレテ近接ノ財産所有者ニ負擔センメタルニモ拘ハラズ他ノ部分ニ對シテ街路改良ヲ命ズルニ當リテハ隣メ之ヲ近接セル財産所有者ノ請願ヲ要スルコトヲタルハ是レ取リモ直サス憲法違反ナリト云フニアリ左ニ記スルハ即チ同法庭ノ意見ヲ摘録セルモノナリ、

「一般公衆ニ租税ヲ課スル法律ノ明白ノ旨意ハ其負擔ヲシテ及フ可キ丈ケ平均ナラシムルニアリテ斯クアリテコソ其正常ノ結果ナリト云フ可キニセヨ、單ニ其望ム所ノ目的ヲ達スル能ハサルノ故ヲ以テ此法律ハ大法ニ違反セリト論スルヲ得ス、然レトモ本件ニ於ケルカ如ク其法律ヨリ來レル結果假令必然ナラズトモ十中八九ハ最も壓制的不平均ヲ生シ、遂ニ少數ノ納稅者ヲシテ自カラ全費用ヲ負擔シテ公共一般ノ利益トナル可キ改良事業ヲ實施セシムルニ至リ、且ツ其事業タル目下一般ニ使シテ同性質ノモノニ比シテ二倍ノ費用ヲ要スルノミナラス、落成後ニ至レハ一般公衆ハ皆テ該費用ヲ負擔セル少數者ト同様ノ便利ヲ享有スルモノナルヲ以テ、此法律ハ其性質取リモ直サス少數者ノ財産ニ對シテ故意ニ權力ヲ濫用シタルモノトナ

ルヘシ、若シ憲法上ノ意義ニ憑リテ之ヲ斷スレハ報償ナクシテ
私有財産ヲ公用ニ供シタルモノトナルナリ、

此判決ハ余カ定義ト其旨意全ク一致セリ、凡ソ公民ニ賦課スル公
共ノ負擔ハ之ヲ租税ト稱スルヲ得ヘシ、然レトモ善良ナル充分ノ
理由ナク只々政權ヲ濫用シテ社會一部ノ公民ヲハ其他ノ公民ヨ
リ分離シ、而シテ獨リ之ニ命スルニ公費ノ負擔ヲ以テスルカ如キ
ハ即チ是レ沒收ト見做スヨリ外ナキナリ、但シ各階級ノ財産ニ悉
ク課税セスレテ或一階級ノ財産ニ限り悉ク之ニ課税スルコトノ如
キハ素ヨリ租税ノ原理中ニ於テ其善良ナル充分ノ理由ヲ發見シ
得ヘシ、不動産ノ所有主タル者夫ノ抵當物、約束手形等ノ如キ動産
ノ所有主ニシテ等シク課税ヲ蒙ラサレハトテ之カ爲メ自己ノ財
産ヲ沒收セラレタリト主張スルコトヲ得ス、何トナレバ彼等カ免税ノ

理由ハ固是レ公共ノ政略ニ基クモノニシテ其便益ハ社會一般ニ
普及スルモノナレハナリ、夫ノ砂糖ノ如キ貨物ノ營業者モ亦然リ、
政府カ自餘ノ貨物ヲ措テ砂糖ニノミ課税シタリトテ之ヲ以テ沒
收ナリトノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス、何トナレハ立法部カ斯ル
税法ヲ設ケタル顯然タル趣旨ハ公共ノ負擔ハ一般ノ喜捐ニテ維
持セサル可ラスト云フニアルヲ以テ、該營業者ハ順次ニ其租税ノ
負擔ヲハ購買者ニ轉移シ以テ之ヲ社會一般ニ散布スルヲ得レハ
ナリ、又六百弗ト云フカ如キ少額ノ收入ニシテ一般ノ所得税ヲ免
セラル、トモ所得税ヲ納ムル者之ニ對シテ苦情ヲ鳴ラスノ基礎
ナレ、何トナレハ各文明國ニ於テ諸税中ノ大部ヲ占ムル夫ノ間税
ノ如キハ其負擔富者及ヒ中等人民ニ於ケルヨリモ寧ロ貧者ニ重
ク、加之ナラス少額ノ收入ヲ有スル者ヨリ所得税ヲ徵集スルトキ

ハ爲メニ過當ノ費用ヲ要シ、其國庫ニ入り來ル金額ヨリモ尙ホ多額ノ租税ヲ納税者ノ囊中ヨリ出サシムルトナルヲ以テ、政府行政機關ノ運轉上自ラ免税ノ理由存スレハナリ、此點ニ付テハ尙ホ詳論スルヲ得ヘキモ以上ハ只説明ノ序テニ陳述シタルニ過サルナリ、要スルニ租税ハ社會ノ良心ニ訴ヘテ公平無私ナラサル可ラス、何トナレハ社會ノ道德心ハ從來租税並ニ其他ノ事件ニ關スル法律ノ判決上ニ重大ナル勢力ヲ有レタルノミナラス、今後モ亦益然ル可キハ蓋シ疑ヲ容レサレハナリ、

第二章 租税ニ關スル概論

租税ハ交換ノ報酬ニ非ス

租税ノ眞ニ何物タルヤヲ一層明白ニ説明セントセハ先ツ何物ガ租税ニ非サルヤヲ詳説スルニ如クハナシ、余ハ是レヨリ進テ第一ニ已ニ前章中ニモ一言シ置キタルカ如ク租税ハ勞役交換ノ一部ニ非スト云ヘル觀念ニ付テ細説ス可シ、
コノ觀念ハ已ニ余ノ定義中ニモ含蓄セルモノナリ、租税ハ物件若シクハ勞役ノ一方ニ移轉スルモノニシテ、其間相互的關係アルニ非ス、公民ノ之ヲ納ムルハ其公民タルカ故ニシテ斯ク爲スハ即チ其義務ナルヲ以テナリ、是レ即チ彼等ハ社會ノ一員ナリトノ事實ヨリ生スル一結果ナリトス、蓋シ人ハ人類トシテ其同胞ニ對シ任務ヲ有ス、而シテ其任務ノ最も重大ナルモノハ文明ノ要素タル政

府ヲ維持スルニ在リ、無政府論者ニ非サルヨリハ決シテ之ニ反スル意見ヲ抱クコトナカルヘシ、苟モ普通ノ人ナランニハ公益ノ爲メニハ獨リ其財産ノミナラス若シ必要アラハ其生命ヲモ抛タサル可ラサルニ至ルモ之ヲ以テ當然ノ事トナス可シ、唯或一定ノ法度ニ準據シテ斯ノ如キニ至ランコトヲ求ムルノミ、公民及ヒ其他凡テノ人一人トシテ政府ノ存在ニ依リ便益ヲ受ケサル者ナシ、而シテ其便益ヲ受ケルハ只其公民タリ又ハ人類タルノ故ヲ以テナリ、故ニ租税ヲ拂フ能ハサレハトテ決シテ公民普通ノ權利ヲ剝カル、コトナシ、獨リ租税ヲ拂ハサルノミナラス却テ社會ノ扶助ヲ仰ク貧民ト雖モ豪富ノ人ト同シク動ス可ラサルノ權利ヲ有ス、或場合ニ際シテハ巨額ノ費用ヲ要スル政府ノ機關ニシテ全ク貧民ノ用ニ供セラル、コトアル可シ、之レヲ以テ吾人ハ從來保護ヲ受ケタル

コトナシト論シテ租税不納ノ辨解ト爲スコトヲ得ス、夫ノ警察又ハ消防部ノ如キ往々誤テ身軀財産ノ保護ヲ全フシ得サルコトアリト雖モ、コノ事實ヲ以テ年々ノ家屋税ヲ除却セラルヘキ正當ノ理由ト見做ス可能ハサルナリ、吾人ハ又法廷ニ出テ、爾後國家ノ保護ヲ求メサルヲ以テ一切課税ヲ免セラレントコトヲ主張スルヲ得ス、租税ヲ拂ハスシテ自ラ其一身ノ保護ヲ司ラントスルカ如キハ決シテ許容セラレサルナリ、*

法官クローリーハ舊時ノ妄説タル租税ハ相互交換ノ意ヲ含ムト云フコトヲ許容シタル後、課税ノ正當ナル理由トシテ更ニ「其區域内ノ人民及財産上ニ於ケル國家ノ最上主權及ヒ管轄權ニ由ル」ト云ヘル一事ヲ加ヘタリ、是レ夫ノ租税ハ「保護ト供給トノ相互交換的義務ナリト云ヘル中ニ含メル」理由ノ不充分ナルコトヲ感シタルニ因

*千八百七十五年
州租
稅調查委員報
告、十頁ヲ見
ル
*租稅論二
頁

ルヤ明白ナリ、余ノ見ル所ヲ以テセハ純然タル法律上ノ見解ヨリ主權ト云ヘル事實ヲ認メテ充分ナル課税ノ理由ト見做スヲ得ヘレ、去レトモ更ニ之レニ加フルニ他ノ理由ヲ以テセントスルカ如キハ却テ思想ノ混雜ヲ招クヲ如何セン、道義上ノ見解ニ至テハ其範圍更ラニ廣大ナリ、即チ租税ハ同胞ニ對スル義務ニシテ時々法律ニ因テ賦課セラル、モノナリトノ一事蓋シ道義上充分ナル理由ナルヘシ、然レトモコノ事タル尙ホ更ニ詳言スルヲ得ヘシ、蓋シ一般公衆ハ政府ナル組織ノ力ニ賴リテ始メテ生産事業ノ一員タルヲ得ルモノニシテ、即チ此資格アルヲ以テ其生産全躰ニ對シテ各其配分ヲ受クルヲ得ルモノトス、何人ニテモ之ヲ疑フモノアラハ若シ假リニ政府ナルモノ存在セザリントセハ從來幾許ノ富ヲ生産シ得タルカト云フ問題ヲ自問自

答セヨ、

政府已ニ生産ニ欠ク可ラサル一ノ要件ナリトセハ是レ實ニ夫ノ天然力又ハ勞力等ト同シク生産ノ一要素タルモノニシテ自ラ富ノ分配ヲ受クルノ權利アリ、而シテ其幾許ノ分配ヲ受ク可キヤハ政府自ラ其主權ニ由リテ決定スル所ニシテ素ヨリ私人交換ノ原理ヲ以テ之ヲ律スヘキニ非ス、元來如何ナル生産ト雖モ社會ノ力ヲ籍ラサルハナク、政府ノ如キモ唯タ社會ノ一顯象タルニ過キス、嚴密ニ個人的生産ト稱シ得ヘキモノ、如キハ到底今日ノ社會ニ存在セサルナリ、若シ夫レ全ク一個人ノ力ニ倚リ果シテ幾許ノ生産ヲ作シ得ヘキヤノ如キハ亞弗利加ノ内部又ハ南米ノ高原或ハ一步ヲ譲リ膏腴ナル北米ノ西部ニ一身ヲ孤立シ全ク他人トノ關係ヲ絶チタル者ニシテ始メテ能ク之ヲ知ルヲ得ン、今日ノ生産ハ

眞ニ皆ナ社會的ナリ、其各人互ニ相依頼セサルヘカラサルヲハ千種萬様ノ事ニ於テ其必要ヲ感ス可シ、蓋シ分業法行ハレ吾人カ他人ノ爲メニ生産ニ從事スル場合ニ於テハ即チ取りモ直サス吾人ハ是等ノ人々ニ依頼スルニ外ナラス、彼等若シ誤テ生産スル能スシハ吾人ハ毫モ互ニ交換ス可キ物品ヲ得ル能ハサルナリ、而シテ吾人ノ中ニ於ケル競争者ノ活潑ナル動作モ亦生産上至要欠ク可ラサルモノナルヲ猶ホ吾人カ將ニ我物品ト交換セントスル目的物ヲ生産スル人々中ノ競争ニ於ケルカ如シ、兎ニ角各人カ今日ノ社會ニ住シテ其惠福ヲ享クルノ事實ハ乃チ社會ニ與フルニ道義上各人ニ對シテ要求ヲ爲スノ權利ヲ以テスル者ニシテ是レ蓋シ自然ノ結果ナリ、*

余ノ所見ヲ以テスレハ右ノ議論ハ亦以テヘンリー、ヂョールヂ(Henry Dechamps)

*千八百八十八年二月發行『第十九世紀』

雜誌教授ハック
クスレー著
『生存競争論』
參照

(George)ガ租税ノ性質ニ付テ抱ケル意見ニ對シ適實ナル一箇ノ答辨トナル可シ、奇怪ニモヘンリー、ヂョールヂハコノ議論ニ關シテハ所謂極端保守論者トモ稱スヘキ者ナリ、何トナレハ氏ハ元來租税ナルモノアルヲ信セス、却テ之ヲ以テ一種ノ掠奪ナリト主張スレハナリ、蓋シ今日一般ニ是認セラル、地代論ノ原理ニ據ルニ土地ガ地代價格ヲ有スルハ其土地ニ加ヘタル諸改良ノ外、別ニ社會全體ノ力アルニ因ラスンハアラス、於是乎ヂョールヂ曰ク社會ニハ其力ニ倚リテ生スルモノ即チ地代ヲ與ヘ以テ其萬般ノ費用ヲ支辨セシム可シ、去レトモ余カ一身ノ力ニ倚リ一箇人ニテ生産シタルモノハ全世界ニ對シ自然ノ權利上全ク我所有物ナリ、然ルニ若シ公共ノ爲メニ其一部分ニテモ取り上ケラレンカ、是レ余ハ掠奪セラレタルナリト、是等ノ言語ハ素ヨリ氏ノ自陳セシモノニ非

ズ唯ダ氏ノ根本的論旨中ノ一ヲ概説シタルモノナリ然レトモ其實デヨールヂノ假定セルカ如キ箇人的生産ナルモノハ毫モ今日ノ社會ニ存在セザルナリ、
試ミニ思ヘ他人ノ幫助ナク我レ一人ニテ果シテ能ク何物ヲ生産シ得タル乎、曰ク無シ、

以上論述セシ外尙ホ他ニ課税ノ理由トシテ必要ナルモノ果シテ之レアル乎、夫ノ交換ノ原則ヲ以テ租税ニ適用セントスル法律上併ニ經濟上ノ諸議論ノ如キハ其結果トシテ必ス思想ノ混雜ヲ生ス可キモ前段ノ所説ニ至テハ悉ク是等ノ弊ヲ免レ得タルニ非スヤ、學問技量天下ノ聲望ヲ博シタル法官クローリーノ如キ拔萃ナル法律家ニ對シテ彼レ是レ批評ヲ試ムルハ顧フニ不遜ノ業ナルヘシ、然レモ以下ニ拔萃セル一節ノ如キハ是レ豈ニ其本質上到底調

和ス可ラサル事物ヲ無理ニ調和セントスルニ當リテ生ス可キ自然ノ結果ヲ示スモノニ非スヤ、

『租税支拂ヲ命セラレタル者其特別ノ負擔ヨリ生スル利益ヲ受ケサレハトテ毫モ其課税ニ對スル非難トハナラス、例セ、ハ教育上ノ目的ニ供スル爲メニ製造會社ニ課税スル場合ノ如シ、然レトモ其實斯クノ如キ目的ニ向テ公金ヲ使用セハ之レカ爲メ幾多ノ利益常ニ流出スヘク、會社ノ如キモ普通人ト同シク其財産併ニ利益ニ對シテ一層ノ安全ヲ得ヘキナリ、』*

然リト雖モ此安全タル果シテ教育ノ結果ナリト云フヲ得ヘキヤハ是レ一問題ナリ、教育ノ普及ハ却テ財産ノ安固ヲ減スルヲ主張スル者往々之レアリ、今ヤ假リニ納税者ハ其租税ノ爲メニ却テ財産ノ安全ヲ減スト自信シ、法官併ニ陪審官ニ至ルマテ亦タ同様

*『租税論』三頁註

ノ自信ヲ抱クト想像セヨ、然ラハ如何、讀者ハ宜シク此事ニ關シク
一リノ租税論十六頁十七頁ノ紙上ニ於ケル所説ヲ參照ス可シ、
茲ニ論スラク、租税ト保護トハ相互交換的ノモノナレハ、是レ唯タ
租税ハ勞役ノ報酬ニシテ一種ノ交換ナリト云フコトヲ換言シタ
ルニ過キス。政府ノ賦課スル租税ハ各人カ其政府ノ保護ニ由リ
テ受クル利益ニ應シテ人民ノ中ニ配分ス可シト、而シテコノ博識
ナル法官ハ直ニ一言ヲ加ヘテ曰ク、然レトモ是レ明カニ出來得可
カラサルヲナリ、生命、自由、及ヒ社會上、家族上ノ權利、並ニ特權等ノ
價格ハ到底金錢ヲ標準トシテ計量スル能ハサルナリト、更ニ又ソ
ロールド・ロージャーズ(Thorold Rogers)氏ノ説ヲ稱賛シテ之ヲ引照
シ、若シ夫レ租税ハ一個人ノ受クル保護ノ比例ニ由テ決定セラレ
、モノトセハ婦女及小兒ハ強壯健全ナル大人ヨリモ尙ホ多額ノ

租税ヲ拂ハサル可ラス、何トナレハ彼等ハ一層多分ノ扶助ヲ要ス
ルカ故ニ法律ニシテ果シテ實効アリトセハ從テ多分ノ保護ヲ受
クレハナリト云フニ至レリ、クリーリーノ説ク所已ニ斯クノ如シ、然
ルニ氏又同一節中ニ附加シテ謂ラク各人ノ受クル利益ニ應シテ
租税ヲ定ム可シト云ヘル假定ハ政府ノ實務上頗ル眞理ニ近キモ
ノナリト、是レ果シテ何ノ意ツヤ、

租税ハ負債ニ非ス

第二ニ租税ハ負債ニ非サルナリ、

租税ハ明文若シクハ黙認ノ契約ニ基ツクモノニ非ス、即チ主權ニ
由テ要求セラレ、負擔ニシテ課税ノ權ハ元來主權ニ附着シ常ニ
之レト相終始スルモノナリ、此故ニ負債ニ適用ス可キ法律ハ素ヨ
リ以テ租税ニ適用スル能ハス、去レハ當時ノ法律ニシテ已ニ租税

*
クローリー
租
税論
十三頁

不納ノ爲メ禁獄ニ處ス可キヲ規定シタル以上ハ假令ヒ負債ノ爲メニ禁獄ニ處ストノ條項廢止セラル、トモ之レト同時ニ租税不納ニ對スル同様ノ條項モ亦廢止セラル、モノニ非サルナリ*

課税ノ權ハ立法部ニ在リ

是レ課税ト人民代議トハ併行スルモノナリト云フニ同シ、抑モ課税ト人民代議トノ併行ナル語ハ決シテ各納税者ハ悉ク撰舉權ヲ有スト云フカ如キ法律上ノ義ニ非ス、其意タル唯タ苟モ人民ノ代議士ニ因リテ成レル立法部ハ其如何ナル方法ニ依テ撰出セラレタルニモ拘ハラズ租税ヲ議決セサル可ラスト云フニ在リ、而シテコノ理由ニ依リ、右ノ格言ハ遂ニ立憲政府ノ定則ノ一トナレリ、蓋レ何ツレノ國ヲ問ハス撰舉權以外ニ除斥セラル、人民常ニ之レアラサルハナキナリ、此事ニ關シテハクローリーノ「租税論」中ニ記シ

*
四十五頁

タル言寔ニ當レリ、曰ク「人民全體ヲシテ悉ク政治ニ參セシムル能ハサル間ハ其參政權許否ノ範圍ハ一般ノ政略ヲ參考シテ決セサル可ラスト、

合衆國諸州ノ憲法ハ租税ヲ賦課シテ歳入ヲ設クルノ權ハ立法部ニ屬スルヲ規定セリ、今其中ヨリ左ノ二適例ヲ摘載セン、曰ク

「議會ハ必要アリト思惟スル歳入ヲ設ク可シ、イリノイ州憲法第九條第一項、

「何等の名義ヲ以テスルモ立法部ノ承諾ナクシテ助金(Grants)手續料(Charge)租税(Tax)負擔(Burden)若シテハ謝金(Fees)ヲ定メ、又ハ之ヲ課スルヲ得ス、メーリーランド州憲法、權利布告令第十四條、

立憲君主政體ノ諸國ニ於テハ尙ホ一層課税ノ權力ヲ制限セルヲ見ル、即チ是等ノ諸國ニ於テハ此權ヲ下院ノミニ限ルヲ以テ肝要

ト見做セルナリ、彼英國女皇カ國會開期ニ臨ミテ降セル勅語ノ形式ハ能ク明カニ此點ヲ表示スルモノニシテ、歷史上ノ發達ヲハ僅カニ數言ノ中ニ偶セン壯麗ナル説明ナリトス、今ヤ千八百八十七年二月九日ニ讀示セラレタル陛下ノ勅語ヲ以テ一ノ例證トナサシコノ勅語ハ曰頭ニ先ツ「我貴族並ニ紳士諸子」ト云ヘル語ヲ以テ始メ、直ニ進テ英國ト諸外國トノ間ニ於ケル外交上ノ關係ヲ論述セリ、而シテ其中ニ於テ「世界ノ平和ヲ維持ス可キ友愛ナル感情ト熱心ナル希望トニ就テ確實ナル保證ヲ得タル」ヲ告ケ、次ニ亞弗汗境界ノ事ニ付キ一言シ、アヒンニヤ、加奈陀、亞米利加其他諸邦ニ關スル「ヲ述ヘタル後、更ニ一步ヲ進メテ曰ク、下院ノ紳士諸子、茲ニ諸子ノ前ニ提出セル千八百八十八年度ノ政費額ハ理財上適當ノ注意ヲ加ヘテ編製シタルモノナリ云々」ト、而シテ其財政ノ問題

ヲ述ヘ了ルヤ、演述ノ躰頓ニ一變シ、更ニ其語ヲ續テ曰ク「我貴族並ニ紳士諸子、諸子カ愛蘭ノ利益ヲ思ヒ非常ノ盡力ヲ以テ前期ノ議會ヲ通過センメン方案ハ云々」ト、夫レ斯クノ如ク英國ニ於テ下院カ財政監督ノ權ヲ掌握セル「ハ其開會ノ勅語ニ用ヒラル、形式ニ於テ已ニ承認セラレタルヲ知ル可シ、吾人ノ祖先カ我合衆國憲法中ニ於テ豫算案ハ先ツ下院ヨリ始ム可シト規定シタルハ固是レ英國ヨリ享受セン慣習ニ出タルヤ疑ヲ容レズ、去レト此條項モ今ヤ其効用定ニ渺キカ如シ、何トナレハ上院ハ其原案ヲ修正スルノ權ニ因リ殆ント下院ト等シキ財政監督ノ權ヲ有スルカ如キ觀アレハナリ、然レトモ今後若シ下院ト上院トノ間ニ於テ曾テ英國ノ兩院間ニ起リシカ如キ激烈ナル長期ノ爭論破裂スル「アラハ、下院ハ上院ノ權力ヲ減殺セン「ヲ企ツ

トハ異ナレリ、是等ノ献金ハ時ニ由リ助金(Grant)ト稱セラレタルモノナリ、威力ニ倚リテ徵集セラル、公債及負擔モ亦同シク此ノ點ニ於テ租税ト差異アリ、何トナレハ是等ノ公債及負擔ノ如キハ非道ナル不時ノ強收ナレハナリ、又古代ノ所謂恩惠献金(Benevolence)ノ如キモ時トシテハ其語ノ如ク純然タル贈與タリ、又時トシテハ不時ノ強奪タルトアリキ、去レト何ツレニスルモ是等ハ租税ニ非ス、何トナレハ租税ハ往々喜テ之ヲ納ムル者アリト雖モ其性質決シテ隨意的供物ニ非サレハナリ、夫ノ助金及ヒ臨時献金等ノ語ハ眞ニ租税ノ意義ヲ以テ用ヒラレタルトアリヤ如何、是レ宜シク注意スヘキナリ、蓋シ是等ノ語ハ其意義已ニ一變シタルモ尙ホ依然トシテ存留シタルモノナリ、去レトモ此事ハ次章ニ至リ更ニ論述ス可シ、又貢獻ナル文字モ時ニ由リテハ租税ト同一ノ意義ニ用ヒ

*
ドールセル著
英國租税及
其沿革、第一
卷百五十六頁
乃至百五十九
頁ノ付コ

ラレタルトアリ、然レトモ此語ハ其通常ノ意義ニ從ヒ戰勝國カ其敗戰國ニ對シ威力ヲ以テ徵集スル負擔ニ限ルト一層適當ナル可シ、

一 地方ニ於テ租税ト稱スルモノ必スシ
モ他地方ニ於テ租税ト稱スルモノニ非
ス

抑モ法律カ如何ナルモノヲ以テ租税ト見做ス可キヤヲ命スルハ多少專斷ニ出ツルモノトス、而シテ法廷カ法文ヲ解釋スルノ實狀モ亦決シテ一様ナラス、假令ヘハイリノイ州ノ如キハ勞力ニテ支辨ス可キ國道徭役ヲ以テ租税トハ認メサレトモ、子ツアダ州ニ於テハ二十一歳乃至六十歳ノ男子ニ課スルニ金四弗若シクハ二日間ノ勞力ヲ以テシ、之ヲ以テ人頭税ト見做シタリ、然レトモ是レ該

* クーリー租
税論の十二頁
第四註

州ノ憲法ニ違反セル租税ナリキ、*

以上ハ法律併ニ經濟學カ租税ノ定義ヲ與フルニ當リ如何ナル範圍マテ專斷ニ出ツルヤ示シタルモノナリ、蓋シ租税ト稱スル物躰ト自餘ノ物躰トノ間ニハ夫ノ馬若シクハ木ト他ノ天然物トニ於ケルカ如キ判然明白ナル自然ノ區別存セサルナリ、要スルニ租税ナル文字ハ多少變化動搖シツ、アル觀念ニ對シテ附シタル專斷的記號ニ過キサルナリ、去レハ斯クノ如キ場合ニ當リ採ル可キ最良ノ方案他ナシ、成ル可ク最良ノ慣例ニ近キモノニ適合セシメ、其意義ヲシテ能ク矛盾スルコトナク簡明ナラシムルヲ努ムルニ在リ、

課税ノ權ハ他ニ委托スル能ハス

是レ今日ノ立憲政府ニ對シテ適用ス可キ概則ナリ、素ヨリ課税ノ

權ハ立法部ニ委托セラル、モノトス、去レトモ一般ノ通則ニ據レハ凡ソ委托セラレタル權カハ被委托者ヨリ更ニ之ヲ他人ニ委托スルコト能ハサルナリ、法官クーリーハ地方自治躰(市町村)ニ於ケル課税權ヲ以テ夫ノ往古以來因襲ノ久シキ暗々若シクハ公然諸州ノ憲法中ニ含蓄シタル課税權ハ州ニ在リトノ通規ニ對スル判然明白ナル一例外ナリト論シタリ、コノ權カモ往々憲法及ヒ法律ニ由テ制限管轄セラル、コトアリ、然レトモ所謂地方自治躰ト雖モ其委托セラレタル權カハ之ヲ他ニ移轉スルコト能ハサルナリ、又或市ノ如キハ其主宰者タル州ニ先チテ存在シ、爾後公然删除セラレサル權カハ今尙ホ依然之ヲ保有セリ、斯クノ如キ場合歐洲ニ於テ甚々多シ、就中獨逸ノ如キハ之ヲ以テ市制ノ原則ト爲セリ、

第三章 近代租税ノ起原及發達

今日吾人ノ解シテ租税ト稱スルモノハ

新事物ナル事

抑モ租税ノ性質ヲ有スルモノ或ハ上古ノ史上ニモ發見シ得サルニ非ス、然レトモ今日吾人カ租税ト稱スルモノハ全ク世界歴史上ノ新事物ナリト云フヲ安全ナリトス、吾人ハ既ニ租税ヲ以テ定期ニ生シ來ル負擔ニシテ一國ノ住民全躰ニ課スルモノト爲セリ、而シテ此租税タル諸政府ニ於テ次第ニ増加スル重費ノ大部分ヲ支辨スルヲ期スルモノナリ、

古代諸國ノ歲入歲出ニ就テ論究スルハ本書ノ主旨トスル所ニ非ス、然リト雖モ茲ニ一言ヲ加ヘ第十九世紀以前ニ存シタル諸國ノ歲計ハ何レモ現今英國、獨逸、及合衆國等ノ歲計ニ比スレハ殆ント

*
ボエツクハ其
著アセンズ
ノ公共經濟
中ニ政府ノ歳
入ハ昔ア二千
「タレント」ニ
超過セズト説
ケリ、

徴々言フニ足ラスト論スルヲ得可シ、史家グロート(Groot)ハベリ
クリーズ(Leijde)ノ隆時ニ於ケルアセンズノ歳費ヲ計算シテ一千
「タレント」ト云ヘリ、即チ金貨一百二十萬弗ニ當ルナリ、蓋シ當時ニ
在リテハ戦争ノ費用ハ皆其掠奪物若クハ貢獻ニ由リテ維持セ
ラレ、戦勝國ノ如キハ戦争ニ由リテ其歳入ヲ得タルモノトス、即チ
夫ノ外國人ノ如キハ歳入ヲ出シシム可キ目的物ト見做サレタル
者ナリ、而シテ力役ノ勞ハ其公民ニ嚴課セラレ、爲ニ苛重ニ堪ヘサ
ルニ至ルヲ往々之アリキ、又官吏ハ後世ニ於ケルト同ク皆所謂
謝金謝金(賄賂)人民ヨリ事務執行ノヲ以テ其報酬ニ充タリ、而シテ當時
ノ官職ハ今日ノ有様ニ於ケルカ如ク費用ノ本タルヨリモ寧ロ往
々純歳入ヲ生スルノ源タリシナリ、
吾人ノ所謂間税ナルモノハ已ニ希臘羅馬ニモ存シタリ、去レトモ

之レ當時ニ在リテハ特權ニ對スル報酬ト見做サレ居タルヤ明白
ナリ、即チ輸入又ハ輸出ノ貨物ハ皆課税セラレタレトモ、此租税ハ
國內ヘ物件ヲ輸送スルノ特權ニ對スル相當ノ報酬ト見做サレタ
ルモノニシテ、恰モ夫ノ入港者ニ對スル入港料、又ハ公共市場使用
ニ對スル市場料ノ如キモノト同一視セラレタルヤ疑ヲ容レサル
ナリ、蓋シ是等ノ輸入税及ヒ輸出税ハ純然タル歳入ノ目的ニ出タ
ルモノナリ、何トナレハ其輸入品ニ對スル課税も其輸出品ニ於ケ
ルモノト同一ナリシノミナラス、其割合タル今日吾人ガ其過寬ナ
ルヲ怪ム程ナリシカ如クナレハナリ、當時輸出入品ニ對シ二分ノ
課税ヲナセシトハ吾人ノ能ク知ル所ニシテ、其割合若シ一割乃至
一割二分ニ達スルトキハ全ク重歛ト見做サレタリキ、然ルニ之ニ
反シテ今日ノ合衆國ノ如キニ至テハ輸入品ニ對シ五割乃至十割

ノ課税アルモ吾人ハ決マテ驚カサルナリ、ボエツク (Boeck) ハアセ
 ンズノ歳入ヲ分テ定期歳入、通常歳入、及不定期非常歳入ト爲レ、又
 其定期歳入ヲ分テ四種ト爲セリ、即チ「第一ヲ税金トシ其一部ハ公
 有財産ヨリ生スルモノニシテ鑛山ヨリ生スルモノモ包含シ、他ノ
 一部ハ海關稅、國產稅 (Excise)、及産業又ハ人民ニ課スル或種ノ租稅
 ヨリ生スルモノヲ含蓄ス、而シテ右最後ノ租稅ハ外國人及奴隸ニ
 モ及ス者トス、第二ハ罰金或ハ裁判手數料及ヒ沒收財産ヨリ生ス
 ル者等ニシテ、第三ハ同盟國若シクハ屬邦ノ貢獻物ナリ、而シテ其
 第四ハ定期「リターチー」(Lithary) (義捐物) ナリトス」*
 然リト雖モ是等ノ歳入ハ一トシテ今日ノ所謂租稅ナル意義ヲ含
 蓄スルモノナレ、若シ夫レ上古及ビ中古諸國ノ歳入ヲ研究セハ其
 當時租稅タルカ如キ觀ヲ爲センモノモ往々公務若シクハ財産使

*
 「アセンスノ
 公共經濟」第
 二篇第一章

用ニ對スル報酬タルニ過キサリシヲ知ル可シ、夫ノ古代ノ十分
 一稅ノ如キハ其一例ナリ、希臘ニ於テ賦課シタル十分一稅ハ皆概
 シテ官有財産若シクハ公共物使用ニ對スル報酬タリシモノニシ
 テ、租稅ト稱スルヨリモ寧ロ地代ト稱セラル可キモノナリシナリ、
 又古代ノ人頭稅ノ如キモ臣服セル外國人ヨリ強收シタルモノニ
 シテ、是レ其臣服ト劣等トノ表章タルニ過キサリキ、語アリ曰ク「土
 地ニシテ租稅ヲ課セラル、トキハ爲メニ其價格ヲ減スルカ如ク、
 人モ亦人頭稅ヲ納ムルトキハ其品位ヲ墮落ス、何トナレハ之レ作
 廢ノ標號ナレハナリ」ト、此語ハ名僧タータリヤン (Tertullian) ノ語中*
 ヨリ抄センモノナレトモ、亦能クカログインヂヤン「朝治世ノ間ニ
 行ハレタル思想ヲ表示スルモノナリ、否獨リ當時ノミナラス實際
 現世紀ニ至ルモ租稅ナルモノハ自由士人ニ課ス可キ品位アルモ

*
 ボエツク
 センズノ公共
 經濟」第三篇
 第一章ヨリ抄
 ス、

ノニ非ストノ思想尙ホ其痕跡ヲ留ムルヲ發見シ難キニ非ラス、蓋シ私領地ニ課スル直税ハ夫ノ人身ニ課スル租税ニ比スレハ其品位ヲ墮落セシムルヲ稍少キモノト見做サレタリキ、去レトモ是等ノ租税ト雖モ尙ホ之ヲ忍フ能ハサリシナリ、而シテホエツクノ如キハ、ペロポニニヤン戦争以前ハ毫モ斯クノ如キ租税アラザリシヲ斷言セリ、蓋シ該戦争以前ニ當リテハ他種ノ歲入、特ニ國有鑛山ヨリ生スル者夥シク充溢シ、其剩餘ヲハアセンズノ公民ニ分配シタル程ナリシハ信スルニ足ルヲナリ、然リト雖モ希臘羅馬共ニ最初ヨリ已ニ租税ヲ徵收シタルヲ論シ、且ツ更ニ一步ヲ進メ必要ノ場合ニ際シ租税ヲ課スルノ權モ已ニ充分ニ承認セラレ居タルヲ主張スル者アリ、此說ノ如キハ其論鋒寧ロ強キニ尖スルニ似タリ、去レトモ希臘羅馬共ニ其初期ニハ租税行ハレタルモ、其

*
第四篇第七章

全盛ノ際ニ至リテ租税免除ノ時期ニ移リ、其後覆亡ノ時代ニ及ンテ復タ租税苛重ノ時期トナルニ至リントノ説信ス可キ道理アルカ如シ、又當時財産ニ課シタル非常税ノ實ニ輕微ナリシトニ付キホエツクハ數多ノ實例ヲ舉ケテ之ヲ證明セリ、即チデモスセニ一ズ(Demosthenes)ノ財産ニ付キ其後見人カ納メタル租税ノ年々平均額ハ僅ニ其財産價格一分ノ五分ノ一ニ止リシカ如シ、是レ殆ント千八百八十七年ニ於ケルニユーヨーク市税率ノ十一分ノ一ニ過キサルモノナリ、夫ノアセンズ人ノ如キハ一分ト一分ノ三分ノ二ノ租税ヲ以テ熟考スル迄モナク重歛ト見做セシナリ、希臘ノ「リターヂー」(Liturgy)(官名)ハ稍、名譽職ニ似タルモノニシテ名譽ノ表章ト見做サレ、而シテ此職ニ就キタルモノハ人民ノ響應若シクハ國防等巨額ノ費用ヲ要スルモノトス、又是等ノ官職ハ強

迫的ニ授與セラレタルモノナリ、去レトモ一タヒ之ヲ領受レタル者ハ概レテ其官職上ヨリ要スルヨリモ一層多キ義務ヲ盡シ其費用ヲ負ハサルハナカリキ、而レテ此官職ノ壓制的負擔トシテ濼忌セラレタルハ獨リ富力衰頽シ愛國心凋落セル時代ノミナリシカ如シ、

「リターヂー」ニ似タルモノハ羅馬ニモ亦之アリキ、而レテ遂ニ公德腐敗ト富豪專權トヲ生スルノ根源トナレリ、即チ夫ノ「エーグイル」(Aedile)(羅馬官名)ノ職ニ就キタルモノハ人民饗應ノ費用ヲ負擔スヘキモノトセラレタリキ、而レテコノ職ハ利益多キ諸州官ニ就クノ階梯タリシ者ナルヲ以テ富豪者ニ非サレハ到底是等ノ州官ニ就クヲ能ハサルニ至レリ、又夫ノ「ニユーヲリーンス」ノ謝肉祭ニ於ケル「レツクス」(Rex)ナル職ハ能ク上古ノ「リターヂー」ニ似タリ、只タ

其異ナル所ハ「レツクス」ノ職ハ其ノ授受強制的ナラサルニ在リ、然リト雖モコノ「レツクス」ナル職ヲ受クルハ世人ノ最モ名譽トスル所ニシテ恰モ夫ノ「アセンズ」全盛ノ時代ニ於テ能ク「リターヂー」タルノ義務ヲ盡スヲ尙ヒタルカ如シ、聞ク其費用ハ一萬弗ヲ要スト、即チ是レ「レツクス」トナリタル一富人ガ公衆ノ饗應ノ爲メニ負擔スルノ額ナリ、又「ニユーヨーク市」ノ警察官ノ職ノ如キモ時ニ或ハ夫ノ「エーグイル」ノ風ヲ想起セシムルノ状態ナキニ非ス、即チ同警察官ハ郊遊會又ハ宴會ヲ催シテ其撰舉區内ニ住スル人民ヲ饗應シ、之カ爲メニ要スル費用亦少々ナラサルナリ、

『日本租税論』ナル近刊ノ一論文ニ據リ同國往時ノ封建時代ニ於テ強迫的公用獻金ヲ爲サシメンカ爲メ富者ヲ選拔シテ特別ナル租税ヲ課シタリシトアルヲ知ルハ興味多キナリ、同論文ニ曰ク、即

*柴四朗著「ホ
ワートン學校
政治學年報」
第一卷九十四
頁

チ政府ハ都會若ノハ村邑ノ富民ヲ強テ政府ノ要求ニ應シ國庫ニ
向テ右ノ如キ獻金ヲ爲サシメタリ其獻金タル英國ノ「チュードル」ス
チユアート(Tudor-Stuart)朝ニ於ケル夫ノ恩惠獻金ト相符合スル者
ナリト此論文ハ更ニ進テ往古歴代ノ間其主要ナル公共負擔ハ勞
力税ト土地ニ於ケル一種ノ地代トニ依リテ維持セラレタルコトヲ
説ケリ而シテ其土地ハ皆少クモ理論上其君主ニ屬シタルカ如シト
云ヘリ蓋シ此租税ノ性質タル夫ノ十分一税ト同一ナリシ者ナリ、
日本ノ租税ハ其起原ヲ究討スレハ西曆紀元前八十七年ノ昔ニ溯
ルヲ得ヘシ而シテ其端ヲ發シタルハ勞力税ニシテ男女ヲ問ハス
中年ノ各住民ニ課シ勞作ノ日數ヲ以テ之ヲ計算シタリ元來斯ク
ノ如キ租税ハ自然ニ貧民社會ヲシテ一層其負擔ノ重キヲ感セン
ムルニ至ル可シ是ヲ以テ夫ノ富者ニ課スルニ特別ナル強迫的負

擔ヲ以テスルハ必竟コノ不權衡ヲ矯メ富者ヲシテ公共ノ負擔ニ
對シテ其公平正當ナル分擔ヲ受ケシメントシタルニアラン歟蓋
シ日本ニ於ケル租税ノ二形狀即チ勞力税及ヒ地租(地代ト稱スル
ヲ一層適當トス)ハ吾人ノ熟知スル亞細亞諸邦中ニハ皆盛ニ行ハ
レタルカ如シ、

シセロー(Cicero)ノ時代ニ當リ羅馬人ノ租税ニ就テ抱ケル觀念ニ
至テハ氏ノ著「デ、オツフ・シニス」(De Officiis)中ノ一節能ク之レヲ
説明セリ、シセロー曰ク、吾祖先ノ際ニ曾テ往々之レアリタルカ如
ク、今復タ國庫ノ欠乏ト戰爭ノ連續トノ爲メニ遂ニ租税ヲ課スル
ノ必要ヲ生スルニ至ルノ恐アルヲ以テ深ク注意セサル可ラス而
シテ其必要ノ生セサルニ先テ豫メ斯クノ如キニ至ラシメサルノ
準備ヲ爲スコト肝要ナル可シ然レモ斯クノ如キ負擔ノ必要已ニ生

シタル以上ハ如何ナル國民ト雖モ余ハ茲ニ我國ナド不祥ノ言ヲ吐カスシテ寧ロスク言ハントスルナリ、又余ノ茲ニ論スルハ獨リ我國ニ就テノミナラス諸國一般ニ通スル事ナリトス其人民全躰ニ諭シテ其安全ヲ得ンガ爲メニ此必要ニ應ス可キヲ了解セシムルコトニ注意セサル可ラスト、財政上ノ思想ニ付キ古代ト現今トノ差違ヲ明示スルモノ夫レ何物カ能ク之ニ如カンヤ、シセローハ租税ノ實際有リ得ヘキモノナルコトヲ説破スルニ躊躇シ、故ラニ意ヲ用ヒテ其所説ハ純然タル一般ノ概論タルニ過キサルコトヲ示スニ汲々タリ、即チ羅馬ニ於テモ他日課税ノ必要アル可キコトヲ豫言スルハシセローニ取リテハ實ニ恐懼スヘク且ツ愛國心ニ乏シキ業ニノ自國ノ將來ヲ確信セサルコトヲ表スルモノ、如ク感セラレタルニ似タリ、シセローノ租税ニ付キ戰々競々タル恰モ今日世

人カ此現在社會ノ秩序ハ遠カラス社會主義ノ爲メニ破壊セラレ可シト豫想スルヲ懼ル、ニ異ナラズ、吁嗟是レ何事ゾヤ、然レトモ願フニシセローカ其胸裏ニ想像シタルハ羅馬ノ事ナルヘシ、只其口ニ發スルニ臨ミテ不本意ナル立論ヲ爲シタルナランノミ、何トナレバ、プルターク (Plinius) ノ言果シテ信ヲ置クヲ得バ紀元前四十三年即チシセローノ「テ、オツフ」著シタル翌年ニ於テ租税已ニ賦課セラレタレハナリ、尤モ初メ羅馬人ハ諸戰勝ノ爲メ殆ント一百二十餘年ノ間租税ヲ要セサリシコトハ素ヨリ疑フ可ラサルナリ、

中古時代ニ於ケル國家ノ歲入

中古時代ノ初ニ當リテハ國家ニ關シ家産的思想行ハレ、主權者ハ國家ヲ以テ自己ノ所有物ト見做シ、時ニ或ハ恰モ一部ノ私有財産

タルカ如ク遺言ヲ以テ隨意ニ之ヲ處置スルノ權利アリト稱シ、尙ホ甚レキハ隨意ニ之ヲ賣渡スノ權利アリト稱スルニ至リタリ、夫ノ後ニ普魯西トナリタルブランデンブルグ領ノ如キハ其一例タルニ足ル可シ、即チ同王オットー懶王(Otto the Lazy)ハ第十四世紀ニ當リ負債ノ爲メニ已ムナクブランデンブルグノ領主タルノ權利ヲ舉ケテ二十萬フロリンニテ之ヲ賣却スルニ至レリ、而レテ其後ブランデンブルグハ或ハ抵當物トナリ、或ハ分割セラレ、或ハ賣却セラレ、其轉移セラル、一恰モ私有地ト同シク千四百十五年ニ及ンテ遂ニ「ホーヘンツォルエルン」(Hohenzollern)家普魯西王家ニ歸スルニ至レリ、斯クノ如キ思想行ハル、ノ世ニ當リテハ君主ヲレテ其政府ノ全費用ヲ支辨セシムルニ至ルハ是レ自然ノ理數ナリ、何トナレハ公

費ト私費トノ間毫モ區別ナケレハナリ、即チ是等ノ費用ハ悉ク皆君主自身ノ費用タリシモノニシテ、夫ノ主權者ニ屬セル官吏ハ其君主ノ家事ノ爲メニ役シ若シクハ其公務ノ爲メニ勞スルヲ問ハス、恰モ皆其君主ノ隸僕タリシカ如シ、故ニ彼等ハ皆「フユールストリヒ、デ井ー子ル」(Fürstliche Diener)即チ君僕ト稱セラレタリ、而シテ夫ノ「スターツ、デ井ー子ル」(Staatsdiener)即チ國僕ナル語ノ使用セラレ、ニ至リシハ稍々近代ノ事ニシテ、此時ニ及ヒ初メテ君僕、國僕ノ語ハ夫ノ「ホツフ、デ井ー子ル」(Hofdiener)即チ宮僕ト相區別セララル、ニ至レリ、*
當時主權者ノ爲メニ廣大ナル領地ヲ別置シテ其公私ノ費用ヲ維持スル「トントタリ、去レ」其公私ノ資格ノ如キハ二者相混同シテ其區別判然タラサリキ、而シテ君主ニアラサル者即チ一私人ニ對

*千八百三十八年
ハンプブルグ
發刊クレメン
ス、テオドル、
ヘルケズ著
「普魯西國務
論」ヲ看ヨ、

スレハ必ス私收入タル可キ歳入モ當時ノ君主ニ對シテハ公私兩様ノ制ヲ爲シタリキ、王子ノ私有財産ハ其王位ニ登ルト同時ニ悉ク官有財産トナルヘントハ當時法律上、實際上ノ常套說ニシテ、佛國ノ如キハ千六百七年ニ法律ヲ以テ此事ヲ公布スルニ至レリ、夫レ斯クノ如クナルヲ以テ今日ニ於テモ財産ノ公私ヲ區別スルハ非常ニ困難ノ業トナレリ、而シテ之レカ爲メニ種々ナル紛雜ヲ來シタリ、又往々沒收ナルモノヲ以テ政府カ管テ或目的ノ爲メニ一時放棄シ置キタル財産ヲ取り上ケタルモノト見做シ、其財産ハ從來常ニ政府ニ屬シ居タルモノナルニ過キスト爲スカ如キハ即チ之ヨリ起レルコトナリ、又土地ハ皆封建的借地法ニ由リテ維持セラレタルモノナリ、即チ其名義上ノ所有者モ其實借地人タルニ過キスレテ王室ニ對シ納租ノ義務ヲ負ヒタリキ、蓋シ當時ノ歳入ハ種

々ナル謝金、税金及ヒ其他「リガリヤ」(Regalia)ト稱セラレタル王室ノ特權等ヨリ生スルモノヨリ成リシナリ、英國ニ於テハ猶太人ヲシテ王室費維持ノ爲メニ格別ニ重擔ヲ負ハシメタリ、即チ彼等ハ王室ヨリ特別ノ保護ヲ受クルモノト想定セラレタルモノトス、博士「チャールズ・グロツス」(Charles Gross)ノ「中古時代ニ於ケル在英猶太人ノ財府」ト題セル興味アル一篇ハ此點ニ關シ貴重ナル消息ヲ與ヘタリ、蓋シ當時歐洲大陸ノ諸市カ猶太人ヨリ歳入ヲ徵收シタルトハ其主權者ノ爲セシヨリモ一層屢々ナリシカ如シ、日耳曼ニ於テハ王室ハ其特權ノ大半ヲ失フト同時ニ次第ニ衰運ニ傾ケリ、而シテ夫ノ猶太人ヲ監督シ之ニ課税スルノ權ノ如キモ亦其特權中ノ一ナリキ、日耳曼ノ諸府民カ往々其國王ニ請求シテ其許容ヲ得タルハ實ニ猶太人監督ノ權ヲ其掌裏ニ握ルトニシテ、斯クノ如

*グロツス著書
四頁

クシテ彼等ハ猶太人ノ充滿セル囊中ヨリ金錢ヲ借り出スヲ得タルナルヘク、兎ニ角重税ヲ迫取スルヲ得タリキ、之ニ反シテ英國ノ王室ハ猶太人ヲ監督シ、彼等ニ課税スルノ權并ヒニ其他ノ王室特權ヲ固守シ、敢テ之ヲ放棄スルコトナカリシナリ、^{*}

抑モ猶太人ヨリ徴收シタル歳入ハ之ヲ四種ニ分ツヲ得ヘシ、即チ「レリーフ」(Relief)「エスチキート」(Tithing)「ファイン」(Fine)「タルレーヂ」(Tallage)是ナリ、「レリーフ」ハ一種ノ相續税ニシテ其額概シテ其相續土地價格ノ三分ノ一ナリキ、然ルニ「エスチキート」ハ罪狀ノ眞偽ニ關セス犯罪ニ對スル沒收ニシテ、耶穌教徒殺傷、貨幣截剪、贗造、其他同類ノ罪ヲ犯セン者ニ課シタルモノナリ、而シテ國王ノ財庫空乏ヲ感シ其補充ヲ要スル時ニハ猶太人ニ對シテ故意ニ誣告ヲ起スヲ以テ其好方便トシタリト云ヘリ、「ファイン」ハ其廣汎ノ意義ニテ使

用セラレタルモノニシテ吾人ノ所謂謝金ナルモノヲ包含セリ、即チ是レ結婚ノ認可、或ハ甚シキハ結婚セサルノ認可、又ハ轉居ノ特許ニ對シテ課セラレシモノナリ、タルレーヂ「ハ單ニ租税ノ稱タルニ過キスレテ、時ニ由リ或ハ人頭税ヲ稱シタリ、去レトモ概シテ資産ノ多少ニ比例シテ課シタル租税ナリキ、博士グロツスハ「タルレーヂ」ノ年々平均額ヲ算シテエドワード(Edward)第一世ノ朝ニハ五千磅ニ超過スルコト多カラスト云ヘリ、去レトモ當時王室ノ歳入總額僅ニ六萬五千磅許リニ過キサリシナリ、依是觀之、當時猶太人ノ上納シタルモノヲ合計スレハ是等ノ歳入ノ十分ノ一以上ニ出タルコト明白ナリ、^{*}

夫ノ「三十年戰爭」ノ際「フランクフォルト、オンゼ、メーレン」ニ於テ賦課セラレタル強迫的公債ニ關スル興味アル一話説ハ獨リ當時ノ猶

*グロツス著書
二十五頁乃至
二十九頁

太人ニ對スル取扱ヲ説明スルノミナラス、又能ク中古時代ニ於ケル財政作用ノ有様ヲ表示スルモノナリ、今余カ茲ニ此話説を抄出セル一論文ハ往時ノ原記録ニ基ツキテ記述シタリトノリニテ、千八百八十八年正月一日ノ「フランクフォルト新聞週報」ニ出タル者ナリ、左ニ之ヲ説明セン、

抑モバラチチーフト領地ヲ有シボヒミヤ撰帝侯タルフレアリツク (Frederick) 第五世ハ日耳曼皇帝ノ爲メニ破ラレ、走リテ和蘭ニ遁レ、更ニ其將エルンスト、フォン、マンズフェルト (Ernst von Mansfeld) ト共ニ進テ敵ニ向ヘリ、其次第ニフランクフォルトニ近ツクヤ令ヲ同地ノ猶太人ニ傳ヘテ曰ク、王ハ曾テ汝等ノ守護者ニ任セラレ居タルヲ以テ年々徵金ノ權利ヲ有シタリレモ從來數年間之ヲ賦課セザリキ、然レトモ今ヤ其必要アルヲ以テ汝等ハ六千「ターレル」

ノ外更ニ從來未納ノ分共悉ク之レヲ納メサル可ラスト、猶太人ハ曾テ右ノ如キ守護職ノ事ニ付キ毫モ聞知スル所ナカリシヲ以テ之ヲ聞キ大ニ驚ケリ、去レトモ彼等ハ敢テ之ヲ拒絕セス、唯々種々ナル辭柄ヲ設ケテ支拂ノ期限ヲ猶豫シタルノミ、此時ニ當リブルンスウ井ツクノクリスチヤン (Christian) 王ハ他ノ方面ヨリ進テフランクフォルトニ迫リ來リテフランクフォルトヨリ一萬「グルデン」ノ出金ヲ要求シ、若シ其額ヲ出サハ同地ノ猶太人ヲ苦シメサル可キヲ告ケタリ、蓋シ同王ハ猶太人ヲ以テ戰爭ノ際ニハ之ヲ抄掠シテ正當ナル一種ノ賞品タルニ過キサカ如ク見做シ自己ノ要求ノ是ナルヲ認メシナリ、其後是等ノ二王遂ニ敗亡スルニ及シテ皇帝フェルデアインンド (Ferdinand) 第二世ハ猶太人カ其敵王ノ爲メニ一萬「ターレル」ヲ其市ノ財庫ニ納メタリト揚言シ、之レカ爲メ

ニ伴リ債リテ更ニ一萬ターレルヲ已ニ納メントヲ要求シ遂ニ之ヲ得タリ、

己ニシテ主權者ナル職ハ單ニ公共ノ信託タルニ外ナラスレテ國王ハ神權ニ依リテ統治シ、財産ノ所有主トシテ然ルニ非ストノ思想次第ニ其根據ヲ得ルニ至レリ、是ニ於テ政府ヲ維持スルカ爲メニ人民ノ助力ヲ嚴命スルハ自然ノ理數ナリトスルニ至レリ、何トナレハ人民ハ其政府ヨリシテ實益ヲ享ク可キヲ望ムヲ得レハナリ、然ルニ彼ジャーン、ボダーン(Jean Bodin)スラモ第十六世紀ノ後半期ニ當リ其著『共和政治論』ニ於テ政府維持ノ費用ニ供スル歳入ハ官有物ヨリ生スルモノヲ以テ自餘ノモノニ優ルトナセリ、而シテ其租税ノ事ヲ説クヤ人ヲシテシロノ風ヲ追懷センメタリ、氏曰ク耶蘇教國ノ君主ハ及フ可キ限り租税ニ依頼ス可ラスト、モンテ

スキュー(Montesquieu)モ亦其著『萬法精理』ニ於テ歳入ハ官有物ヨリ生スルモノ最モ可ナルトニ付キ同様ノ意見ヲ述ヘタリ、ブラウンシュアイグ、ウオルフエンビュンテス(Braunschweig-Wolfenbittel)ハ千六百五十三年ニ於ケル往時ノ日耳曼國會ニ於テ公言シテ曰ク租税ナルモノハ國家ノ性質ト相容レズ、何トナレハ凡ソ人ノ國家ニ屬シテ其一員トナルハ其財産ヲ保護センカ爲メニシテ、其之ヲ取リ去ラレシカ爲メニ非サレハナリト、蓋シ往時租税ニ代用セラレタル措辭ノ如キハ其意最モ味フ可キナリ、何トナレハ是レ當時租税ハ果シテ如何ナルモノト見做サレ居タルヤヲ示スモノナレハナリ、往時ニ於テ眞ニ租税タリシモノハ皆助金、臨時獻金^{*}又ハ恩惠獻金ト稱セラレタリ、而シテ是等ハ不時不定ナルモノニシテ他ノ歳入ノ補充トシテ賦課セラレ、國內ノ人民カ好意ヲ以テ獻納シ

*千八百八十八年
中ノコメリー
開査委員報告
ラント州租税
制法機關
看ヨ、

タルモノナリキ、

租税ハ國家ノ歲計上久シク下位ヲ占メタル事

抑モ租税ハ久シク第二流ノ位置ヲ占ムルニ過キサレモノト見做サレタリ、而レテ之ヲ賦課セントスルニハ先ツ第一ニ自餘ノ歳入ノミニテハ國家ノ須要ヲ充スニ不充分ナルコトヲ示サ、ルヲ得サリキ、夫レ現今ノ歳計案ニ就テ之ヲ見ルモ收入及支出表ト稱レ租税ハ尙ホ下位ニ立ツモノ、如レ即チ現今ノ歳計案ニ據ルニ第一ニ支出ヨリ計算レ、次ニ所得既定ノ財源ヨリ生スル歳入、特ニ國家若レクハ自治市又ハ自餘ノ自治團體ノ所有セル生産的財産ヨリ生スル歳入ニ及ヒ、而レテ最後ニ至リ其不足ヲ充サシカ爲メニ直税ヲ賦課スルモノトス、然ルニ今ヤ此不足額ハ諸國中大抵他ノ

カール、ルト
ウ、ハ、フ、オ
ン、ハ、ル、レ、ル
著『國家學復
興論』并ニ『ロッ
ン、エ、ル、著』財
政學』見ヨ、

*千八百八十
七年ボルトモ
一、府米國經
濟學協會發行
ウ、オ、ル、シ、ン、ト
ン、著『ベ、ン、シ
ル、ベ、ニ、ヤ、州、財
政沿革史要』
ニ於ケル余ノ
緒言ヲ見ヨ、

財源ヨリ生スル歳入ニ超過スルヲ遙ニ多レ、而レテ直税ニ加フルニ更ニ間税ヲ以テスルモ官有財産及ヒ公共事業ヨリ生スルモノ尙ホ其歳入ノ大部分ヲ占ムルハ現今ノ諸國中願フニ只僅ニ日耳曼中ノ四邦アルニ過キサレナリ、即チ租税ハ曾テ單ニ補充物ト見做サレ、現今ニ於テモ歳計案上ニテ往々下位ニ屬スルモノ、如ク處理セラレ、「アリト雖モ歳入全躰ノ上ニ於テハ其大部分ヲ占ムルモノトス、然レトモ舊態ハ尙ホ依然トシテ存セリ、千八百九十年ル近世ニ於テサヘ、「マ」「イ」「ヤ」「ル」ノ副署セルナツツ「王」「國」ノ一勅令ハ租税ハ獨リ官有財産及ヒ王室特權ヨリ生スル歳入ヲ消費レ盡レタル後ニ於テ其不足ヲ補充スル爲メニ賦課ス可ントノ原則ヲ承認セリ、ウ、ユ、ル、テ、ン、ベ、ル、グ、憲法ノ第百九條ハ第一ニ國家ノ須要ニ付テ述ヘ、第二ニ王室御料地ヨリ生スル歳入ノ事ニ及ヒ、第三

ニ至リテ國家ノ支出上必ス充備ス可キ不足ノ事ニ付テ記載セリ、
 日耳曼ノ大家セツケンドルフ (Seckendorff) 説テ曰ク官有財産ヨリ、
 生スル歳入ハ第一ニ王族ノ維持、第二ニ官吏ノ支給、第三ニ使節費、
 第四ニ城郭、砲臺、街路等ノ費用、第五ニ寺院、學校ノ費用、第六ニ遊歡
 嬰應ノ費用ニ供スヘキモノナリト、*
 夫レ今日ノ國家ハ支離滅裂ナル權力ヲ團結聚合レテ發達シ來リ、
 タルモノニレテ、常備軍ハ夫ノ亂暴ナル諸侯伯ノ軍隊ニ代リ、貨幣
 支拂并ニ貨幣交換ハ夫ノ物品交換ト交迭シ、而レテ夫ノ佛國往時
 ノ「コルヴヰ」ノ如キ強迫的徭役モ今ヤ之ニ酬ユルニ給料ヲ以テ
 スルトナリタリ、是ヲ以テ國家ノ須要ハ常ニ増加シ、舊時ノ歳入
 ノ財源ニテハ到底不充分ナルト、年一年ニ明白トナレリ、諸國ノ君
 主ガ其富資ヲ消耗シ盡シタルト、如キモ租税ノ必要ヲ増加シタ

＊
 ロッセル著
 『財政學』第
 一卷第一章第
 九節ヲ看コ、

ル原因中ノ一トノ之ヲ舉ゲサル可ラス、貧弱ナル諸君主カ其公私
 ノ財産ヲ蕩盡セシトハ恰モ合衆國人民ノ今日ニ於テ爲レツ、ア
 ルカ如クナリキ、又國會ノ已ニ成立セル諸國ノ強大ナル君主ト雖
 モ其歳入ヲ得ントスルニハ租税ニ依頼スルヨリモ寧ロ其官有財
 産ヲ賣却スル方一層容易ナルヲ感シタリキ、蓋シ封建的情義ハ已
 ニ廢絶シ、舊時ノ借地人モ亦自由所有者トナレリ、而シテ多數者ハ小
 數者ノ爲メニ盜奪セラル、トトナレリ、之ニ加フルニ豪族ノ盜奪
 ノ如キハ益々官有地ノ減少ヲ來サシメタルモノニシ、恰モ夫ノ英
 蘭、蘇蘭等ノ貴族又ハ其他ノ人々カ我國ニ來リテ莫大ナル金穴ヲ
 盜掠シ、アルニ異ナラス、然ルニ不注意無頓着ニノ腐敗セル我
 國會ハ瑣々タル紛議無用ナル黨爭ノ爲メニ其時間ヲ徒消シ、正廉
 有識ノ公民カ異口同音ニ贊成シタル、公有地保護法律ヲハ拒絕シ、

之ヲ通過セシメサリシナリ、夫レ然リ斯クノ如クニシテ租税ノ徵收次第ニ頻繁トナリ、遂ニ毎定期ニ起リ來ル負擔トナルモノトス。而シテ曾テ一タヒ多少隨意ノ性質ヲ有シタル負擔モ變シテ強迫的負擔トナルニ至レリ、古語アリ曰ク人三タヒ之ヲ與フレハ遂ニ己ニ對スル要求ノ權利ヲ生スト、コノ語財政上ニ於テ能ク其眞ヲ穿テル者ナリ、ニューヘヴン州ニ奇異ナル一例證アリ、曰ク千六百四十四年ノ秋、當府ハ「ハーヴァード」大學ニ在學セル貧書生ヲ維持センカ爲メニ年賦ノ法ヲ創始セリ、而シテ其寄贈物ハ「小麦」一「ベツク」又ハ其代價ヲ以テシ、特志者ヨリ之ヲ出サシメタリ、然ルニ後ニ至リ其贈與モ隨意的性質ヲ變シテ一種ノ租税ト見做サル、ニ至レリ、而シテ同植民地政治ノ終リニ至ルマテ右大學寄贈穀類ノ徵收者ハ府吏トシテ毎定期ニ撰舉セラレタリ、*

リヴァーモー

ア著ニユーヘ
ン共和政治
論七十七頁

同年ニ於ケルニユーイングランドノマツサチユーセツツ灣植民地ノ記録中ノ興味アル一節ハ同植民地ニ於テモ同様ノ請求ヲ爲セシメアルヲ示セリ、同地法庭ノ記録ニ曰ク「總代ハ該委員會カ說明シタルモノニシテ他ノ或植民地ニ於テ已ニ實行サレタル方針ニ就テノ宣言書ト共ニ左記ノ件ヲ諸都府ニ傳達ス可シ、諸都府ノ長老ハ之ニ付キ補助ヲ與ヘラルベシ、即チ毎戶穀物一「ベツク」又ハ金十二「シリング」又ハ他ノ物品ヲ出シ之ヲ會計官ニ送り、以テケンブリッヂ大學校又ハホストン若シクハチャールスタウンノ内ニテ會計官ノ指定セシ學校ニ寄贈セシムル」是ナリ、ト是等ノ寄贈タル隨意的性質ヲ含蓄ス可キモノナルト固ヨリ顯然タリ、然レトモ實際ニ於テ果シテ隨意的分子ヲ含ミタリシヤ聊カ疑ナキヲ得ス、夫ノ義務ニ付キ嚴肅ナル思想ヲ有シ不良ノ人ニ對シテハ激

第二卷八十六頁

烈ナル絶交ヲ加フルヲモ辭セサリレ「ビュリータン」宗ナル我祖先輩ノ事ナレハ願フニ當時其負擔ニ異議ヲ唱ヘタル者ヲレテ萬事最モ不快ヲ感セレメタルナラン、

右ニ述ヘタル事項ニ付キ更に少ク注意スヘキモノハ千六百五十年ナル「メーリーランド州會」ノ奇異ナル一條例ナリ、同條例ハ「貧民救助令」ト稱レタルモノニシテ、セント、メーリー郡ノ住民ニシテ不具者、跛足者、盲目者ニ特志ノ惠與ヲ爲サ、リレ者ニ對シ、均一ナル附加税ヲ賦課ス可キヲ命レタルモノナリ、*

メーリーランド州ノ舊政府ハ千七百七十四年六月ノ公會ニテ之ヲ引繼キ、翌年ニ至リ「會議條款」ヲ基礎トシテ假政府ヲ設ケタリ、而シテ此假政府ハ其後二年間即チ千七百七十七年迄繼續シ、其間ニ於ケル政府ノ費用ハ所謂隨意的負擔ニ由リテ維持セラレタリ、然

*千八百八十八年「メーリーランド州租税調査委員報告」中ノ「メーリーランド租税制法要覽」ノ部百二十七頁、

レトモ左ニ摘録セル「メーリーランド州租税制法要覽」中ノ一節コソ能ク同地ニ於ケル財政ノ發達ヲ明示セルモノナリ、曰ク「各郡ニ於テ其住民ニ附スルニ負擔名簿即チ寄附名簿ヲ以テセリ、何人ニテモ其負擔ヲ謝絶スルトキハ直ニ其姓名ト其拒絕ノ事實トヲ記入セラレ、而シテ其結果タル當時ニ在リテハ租税公賣處分ヨリモ一層甚シキモノナリキ、或郡ニ於テハ謝絶者ノ姓名ヲ記録ニ存シテ永ク後世ニ傳ヘシメ、又々或郡ニ於テハ郡會ノ決議ヲ以テ公然亞米利加ノ敵ナリト宣言シテ此旨ヲ「メーリーランド」ガゼット新聞ニ公告シ、視察委員等ニ通報セシメタリ、若シ智慮ナクシテ不運ニモ怠納者ト報告セラレシ者ノ如キハ一徹ニ不信用ト嫌疑トノ標的トナリ、而シテ遂ニ自ラ王黨ナリトノ嫌疑ヲ受ケ逮捕、追放、沒收等ノ如キ重大ナル結果ヲ生スルニ至リタリキ、是ヲ以テ是等ノ

*千八百八十八年
ラント租税調査委員報告
百十一頁

手段ハ夫ノ強迫的課税ト同様ノ効果ヲ擧クルヲ得タルモノナル
ト蓋シ容易ニ信スルニ足ル可レト、
往昔ニ於テハ政府ノ定期通常ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ献金ス
ルト現今ニ於ケルヨリモ尙ホ一般ニ行レタルハ素ヨリ疑ヲ容レ
ス、然ルニ現今ニ於テハ特別ノ目的(多クハ純然タル公共事業)ノ爲
ニ献金スルト往昔ヨリモ尙一層盛ナルハ事實上又疑フ可ラサル
ナリ、ウヰルスコンペン州マディソン府ノ市民ハ行客ニ誇示スルニ
僅ニ一萬二千弗ヲ費シテ造營セル壯麗ナル市廳ヲ以テス可レ、而
シテ如何ニシテ斯クノ如キ少額ヲ以テ斯クノ如キ美麗ナル建物
ヲ建設スルヲ得タルカヲ詮索セハ是レ兎ニ角其一半ハ夫ノ一文
ノ徒費モナク見事ニ落成センメントヲ期シタル一紳士カ自ラ無
報酬ニテ斡旋シタルニ歸スルヲ知ル可レ、蓋シ是レ地方的誇揚心

ニ出タルニ外ナラス、同様ノ例證ハ實ニ屢々見ル所ニシテ夫ノ公
共ノ德義心ニ付テ疑ヲ抱ケル者ノ多數カ信スル如ク稀有ナルモ
ノニ非サルナリ、

ロード、アイラント市ノ市民ハ往昔其政府ヲ維持スル爲メニ隨意
的負擔ヲ爲シタルヲアリキ、

ベンジャミン、フランクリン (Benjamin Franklin) ハ一千磅ノ基本金
ヲ貽シテ一口六十磅以下ニ限リ新婚ノ壯年ニ貸與セシムルト
セリ、即チ氏ノ思案ニテハ百年ヲ經レハ其基本金十三萬一千磅ニ
達ス可ク、而シテ其時ニ至リ其内三萬一千磅ヲ分テ市團躰一般ノ
改良事業ニ供スルニ在リキ、氏ハ又其差引十萬磅ヲ以テ次期百年
間ノ終リ迄新婚ノ壯年ニ貸付シ以テ之ヲ保存ス可キヲ指示セ
リ、氏ノ見込ニテハ斯クノ如クセハ其元金四百万磅以上ニ達ス可

ク、是時ニ及ンテ其全額ヲハ州ト市トノ間ニ分配セントスルニア
 リキ、今ヤ此基本金ハ已ニ七萬三千三百二十一弗ニ達セリト云フ、
 又ボストン市ニ於ケル同様ノ基本金モ已ニ三十一萬五千弗以上
 ニ達セリト云フ、夫ノスチーブン、ヂラールド (Stephen Girard) カフヲテ
 ルフヤ府ノ爲メニ莫大ノ遺産ヲ貽レタルカ如キ、其目的中ノ一ハ
 同市ヲ改良シ且ツ課税ヲ減少セントスルニアリナリ、
 此種ノ實例ハ今日ニ至ルモ尙ホ未タ絶ヘス、合衆國ノ公債ヲ減少
 センカ爲ニニユー、ジエルジー州ノジョン、エル、リウ井ス (John L.
 Lewis) カ貽レタル遺産ハ千八百八十三年六月三十日ヲ以テ終結
 セル年度ノ財政報告ニ據ルニ其額九十五萬弗ナリトス、又彼ブル
 ンスウ井ツク公 (Duke of Brunswick) は數年前瑞西ノゼ子ツア市ノ爲
 メニ巨額ノ金錢ヲ貽レ以テ同市ノ市債ヲ償還シ且ツ同公ノ爲メ

*千八百八十七
 年ボルチモ
 ル發刊アリ
 ソン及ペン
 ース著フキ
 ラデルフキヤ
 自治市發達史
 一六八一年乃
 至一八八七年
 第三章ヲ書ヨ、

ニ紀念像ヲ建テ併ニ壯麗ナル樂劇場ヲ設ケレムルノ資ニ供セリ、
 是等ノ例證ハ唯々説明ノ序テニ述ヘタルニ過キス、若レ夫レ是等
 ノ寄贈ニ就テ一々精密ニ其真義ヲ叙述シ諸般ノ經費全躰トノ比
 例ヲ舉示セントスルカ如キハ深ク探究ヲ經タル上ニ非サレハ爲
 レ能ハサルナリ、

中古時代ニ於テハ公務ノ報酬トシテ之ニ與フルニ土地ヨリ生ス
 ル利益ヲ以テスルヲアリキ、而シテ官職ヲ受ケタル者ニシテ其官
 職遂ニ廢止セラレ、カ若シクハ他人ニ轉移スルニ至ルモ其官職
 ニ屬シタル土地ハ之ト共ニ轉移セシメスシテ自ラ之ヲ占有シタ
 ル場合往々之レアリシト云フ、蓋シ官有財産ノ次第ニ減少スルニ
 至リタルハ是レ斯クノ如キ事情アリシヲ以テナリ、夫ノ英國ノ寺
 院ニ對スル寄進地ノ如キハ現時ニ至ルモ尙ホ未タ絶ヘサルナリ、

又中古時代ニ於テハ歲入ヲ得ンカ爲メニ官職ヲ賣却セシメテアリキ、此事タル實際ニ於テハ往々年金ノ資格ヲ賣却スルニ均シカリシモノトス、何トナレハ其官職ノ如キハ多クハ尸位素餐ニ過キサルヲ以テナリ、リシエリユー(Richelieu)ハ古來賣却セシメカ爲メニ設ケ置キタルカ如キ十萬ノ官職ヲ廢止セリ、夫レ古來斯クノ如キ制度アリシカ爲メニ佛國ノ文官ハ次第ニ無用トナリテ更ニ新文官ヲ設クルノ必要ヲ生シ、當時同國ハ二種ノ官吏ヲ維持セサルヲ得サルノ狀ナリキ、即チ尸位素餐ノ散官及ヒ實務ヲ有スル官吏是ナリ、

爵位賣却ノ如キモ歲入ヲ得ントスル方便中ノ一トシテ舉クルヲ得ヘシ、此事ハ英王ジョージ一世(James)一世ノ盛ニ行ヘルモノニシテ男爵ハ一萬磅伯爵ハ一萬二千磅ヲ以テ之ヲ賣却シタリ、當時封

* ウォーカー著『經濟學』第六部第十五章第十六章及ウキルソン著『國家豫算論』第一章、

* ルイジヤナ州ハ千八百八十六年ニルイジヤナ富強會社ヨリ四萬弗ヲ徵收セリ、ケンタッキー州ハ富強稅ヨリ一年四千弗ヲ得テワシントン州モ賭博免許

建諸稅トシテジョージ一世王ニ納メタルモノ其歲計總額四十五萬磅ノ内十八萬磅ニ達シタリ、此時ニ當リ王室御料地ヨリ生スル地代ハ三萬二千磅アリタレトモ、其後上リテ八萬磅トナレリ、又往時我國ニ於テハ州若シテハ地方ノ經費ノ一端ヲ支辨センカ爲メニ往々富強ニ依頼セシメテアリキ、而シテ我國ノ或二州ニ於テハ今日モ尙ホ同目的ノ爲メニ之ヲ行ヘリ、ルイジヤナ州ノ富強ハ我國中最モ著名ナルモノナリ、又普魯西其他ノ歐洲諸國ニ於テモ尙ホ富強ヲ存置セリ、而シテ或地方ニ於テ全ク私人ノ富強ヲ禁壓セシメカ如キハ其一理由タル國家ヲシテ獨占ノ利ヲ舉ケシメントシタルニ外ナラス、

今日吾人ノ所謂租稅ト稱スルモノニシテ莫大ナル經費ノ大部分ヲ支辨スヘキ定期通常ノ財源トシテ依頼セラレ、ニ至リシハ全

ク後世ノ事ニシテ其日尙ホ淺キ實ニ一驚ヲ喫セサルヲ得ス、英國ニ於ケル間税ハ之ヲ追究スレハ第十二世紀ノ昔ニ溯ルヲ得ヘキモノナルモ、チャールス二世ノ世ニ至リ初メテ重要ナル租税ト爲サレタリ、此事ハ後章ニ至リ了知スヘシ、而シテ現今ノ公債ハウヰルリヤム(William)及メリー(Mary)ノ朝ニ於テ始メテ起リタルモノニシテ、顧フニ英國現今ノ財政方法ハ大略千七百年頃ニ起リタリト云フヲ得ヘシ、

租税ハ最初ニハ獨リ薄弱力ナキ者ノミ之ヲ納メタル事

アダム・スミス(Adam Smith)ハ説ヲ爲シテ封建時代ニ當リテハ薄弱ニシテ抵抗スルノ力ナキ者ノミ獨リ租税ヲ課セラレ、而シテ貧民社會ハ常ニ其薄弱ナルノ故ヲ以テ(後節ニ於テ明カナルカ如ク

甚シキハ今日ニ至ル迄モ)不相當ナル租税ノ分擔ヲ受ケサルヲ得サルニ至レリト云ヘリ、然リト雖モ今日ニ於テハ租税ハ其能力ニ比例シテ賦課セサル可ラストノ原則已ニ一般ニ承認セラレ、モノトス、而シテ此原則ニ就テハ種々數多ノ解釋アレトモ其今日ニ於テ貧民カ他ニ比シ一層重キ負擔ヲ受クル所以ノモノハ畢竟租税制度ノ不適當ナルト行政法ノ不整備ナルトニ歸スヘク敢テ判然明示セル原則如何ニ因ルニ非ス、蓋シアダム・スミスカ以上ノ説ヲ爲センハ特ニ佛國ニ就キテノ事ナル可シ、即チ佛國ニ於テハ僧侶ハ其祈禱ニ由リ、貴族ハ其武力ニ由リ、平民ハ其上納セル租税ニ由リ、以テ各々其國ヲ護ル可シトノ原則一般ニ行ハレタルヲ以テナリ、然レトモ斯、ル古代ノ制規ノ如キハ佛國革命ノ爲メニ已ニ全ク一掃セラレタリ、而シテ現世紀ニ於テハ納税義務ノ一般ナル

ヘキコハ政治學上ニ於テモ將々又實際上ニ於テモ洽子ク是認セラル、一箇ノ原則トナレリ、夫ノ歲入ヲ得ルノ目的ヲ以テ使用セラレタル或種類ノ租税ノ如キハアダム、スミスノ所説ヲ確證スルモノナリ、即チ夫ノ人頭税ハ古來頻リニ行ハレタルモノニシテ、是等ノ租税タル往々各人ニ要求スルニ悉ク均一ノ額ヲ以テセシモノナルカ故ニ特ニ苛斂ニ流ル、ヲ免レザリキ、リチャード二世ノ朝ニ於ケル夫ノワット、タイラー(Wat Tyler)ノ一揆ノ如キハ人頭税ノ爲メニ起レルナリ、近來歐洲及ヒ米國ニ於テハ一般ニ是等ノ租税ヲ廢止セリ、メーリーランド、オハヨー兩州ノ憲法ハ特別ニ人頭税ヲ禁止セリ、然レドモ我諸州中ニハ是等ノ租税尙ホ野蠻ノ遺物トシテ存レ未ダ其跡ヲ絶タザル處アリ、

* ウェルソン著
『國家豫算論』
第一章ヲ看ヨ

窓税及ヒ窓戶税ハ特ニ苛斂ナルヲ免レザリキ、窓戶税ノ如キハ窓戶ノ數ト共ニ増課セラレタルモノナルヲ以テ人多ク之ヲ避ケンカ爲メニ其窓戶ノ數ヲ減シテ自ラ日光ノ利用ヲ失フニ至レリ、此税ノ作用ニ就テハフヰールデフング(Frieling)氏ノ著「トム、ジョーンス」(Tom Jones)中ノ一節能ク之ヲ説明セリ、同小説中ノ一女戶主カ陸軍ノ一士官ニ向テ述ヘタル言トシテ記シテ曰ク、敵軍速カニ亡ビテ戰爭終リヲ告ケ、隨テ租税ノ負擔モ輕減スルニ至ラントハ實ニ妾等カ當然ノ望ミナリ、妾等カ今支拂フカ如キ租税ヲ納ムルハ實ニ恐ロレキコトナリ、何故ゾト問フ勿レ、目下窓戶ノ光明ノ爲ニ納ムル租税ハ四十、ソルリングヲ超ユ、之トテモ及フ可キ限り節約シテノ事ニテ實ニ妾等ハ屋内ヲハ殆ト暗黒ニセルナリト、
租税ハ薄弱ニシテ抵抗スルノ力ナキ者之レヲ納メタリト云ヘル

近代租税ノ起原及發達

* トム、ジョー
ンス、ナル小
説ハ千七百五
十年ニ出ツ、
此税ハ千八百

アダム、スミスノ論斷ニ付キジエームス、ラッセル、ローウエル(James Russell Lovell)ノ演說『民主政治論』中ニ奇異ナル例證アリ、即チ氏ハ千五百四十六年ニ於ケル下部塊西利ノ諸州ノ事ヲ説キタルモノニレテ當時其住民ニ五種アリタリ、即チ僧侶、豪族、貴族、都民及ヒ農民是ナリ、而レテ氏ハベエルナード、ナヴァジエロー(Bernardo Navarero)ノ言ヲ引用レテ農民ハ國會内ニ於テ全ク議權ヲ有セザリシヲ以テ彼等ノ利害ノ如キハ毫モ齒牙ニ掛ケラル、一ナカリシト云ヘリ、氏ハ更ニ語ヲ續テ曰ク、『農民ヨリモ下層ニ尙ホ更ニ憐ムベキ階級即チ卑賤ナル農業勞力者アリシトヲ忘ル可ラス、ベエルナード、ナヴァジエローハ更ニ吾人ニ告クルニ當時非常税ナルモノアリテ農民カ其財産ニ比例レテ納メタル税額ハ夫ノ豪族、貴族及ヒ都民等ノ納メタルモノ、合計ニ殆ント二倍シタルトヲ以テセ

*千八百八十七年
年ホストン發
刊ジエームス、
ラッセル、ロ
ウエル著
『民主政治論』
并其他諸演
說』十二頁

リ、加之ナラス上流社會ハ皆自家カ評定セル財産價格ニ由リテ其租税ヲ賦課セラレタレトモ夫ノ毫モ議權ヲ有セザリシ農民ノ財産ニ至ツテハ上流社會カ專斷ヲ以テ其價格ヲ定メタルモノナリト、

初代米人ノ租税ニ對スル見解

課税ノ權ハ亞米利加ニ於テダモ常ニ承認セラレサリキ、我合衆國史ノ始マリレハ極メテ近代ノ事ナリト雖モ尙ホ且ツ然リトス、千七百九十六年ニ大藏卿ウオルコット(Volcott)カ國會ニ提出シタル諸州ノ租税制度ニ關スル報告中ニハニューヨーク州ニ於テハ千七百八十八年以前ニ曾テ直税ヲ賦課セザリシ事及ヒ同年以前ニ在リテハ法律ヲ以テ課税スベキ事物ヲ定メタルトモナク又價格評定ニ關スル何等ノ原則モ規定セラレザリシ事ヲ記載セリ、當時

該州ノ信用及ヒ資産ハ豊富ナリシヲ以テ是等ヨリ生スル收入充分餘裕アリ郡又ハ一地方ノ目的ニ供スルノ外ハ租税ニ依頼スルノ必要ヲ見サリシナリ千七百八十八年ニ於ケル同州ノ租税ハ總計六萬弗ニ達シタリ而シテ其千七百九十六年ニ於ケル政費年額ハ七萬五千九百弗ニシテ更ニ之ニ加算ス可キハ大學校高等中學校普通學校病院等ニ對スル下附金及ヒ其他ノ臨時不定ノ經費ナリキ、

*米國政府記
録「財政ノ部
第一卷

ロード、アイランドニ於テハ同殖民地創立後暫時ノ間定期ノ租税ニ依頼セス種々ナル一時ノ手段ヲ運ラシテ其政府ヲ維持セントノ計畫ヲ爲シタリキ、フ井ラデルフ井ヤハ第十八世紀ニ至テモ尙ホ未タ課税ノ權ヲ有セサルノ故ヲ以テ大ニ困難ヲ感シタリ而シテ千七百十年ニ至リ當市ノ維持取締及ヒ施政ヲ一層完整センガ

爲メニ命令ヲ發シ且ツ其細則ヲ定ムルノ權ヲ市會ニ與フルノ條例ヲ制定センコトヲ州會ニ請願スルノ決議ヲ爲シタリ夫ノ千七百一年ノ特許狀(Charter)ノ條中ニハ課税權ニ似タルモノハ毫モ存在セサリシカ如シ而シテ都府ノ課税權ノ如キハ假令ヒ全ク存在シタリト云フヲ得ルニモセヨ其性質タル法律上最モ制限セラレタルモノトス且ツ又國王并ニ地主モ決シテ斯ル權利ヲ許與スル能ハサリシナリ當時歲入ノ主要ナル財源ハ罰金謝金特許料市有財産及ヒ富籤等ナリキ、罰金ハ市費ノ須要多キ爲メニ遂ニ苛重トナリ之ト同時ニ波止場市場及ヒ其他ノ市有財産ハ市ノ成長發達ト共ニ益々其收入ヲ増加セリ而シテ人民カ租税ヲ監督スルコトハ千七百十二年ノ條例ニ由リテ始メテ確定セラレ、ニ至レリ、
ペンシルヴェニヤ州ハ千七百八十五年ニ於テ初メテ直接州税ヲ

*アリソン及ベ
ンローヌ著
「フ井ラデルフ
井ヤ」二十二頁
乃至二十九頁
ヲ看コ、

賦課セリ、其租税ノ年額ハ七萬六千九百四十五磅ニシテ千七百八十九年ニ至ル迄賦課シ、同年遂ニ廢絶セラレ、而シテ之ヲ徵收スルニ當リ其如何ニ寡少ナリシヤハ千七百九十五年ニ於ケル經費不足額一萬四千五百六十弗ニ達シタルノ事實ニ據リテ之ヲ知ルヲ得ヘシ、諸種ノ州税法ニ關スルウオルコットノ報告中ニハ同州政府ノ經費年額ハ十三萬弗ナリシト記載セリ、當時同州ノ歳入ハ右ノ額ニ超過シタリキ、是ヲ以テ同州ハ郡部ノ目的ニ供スルノ外ハ蓋シ永ク課税ノ必要ヲ避クルヲ得タルナラシト云ヘリ、ペンシルヴェニア州ハ現世紀ニ至リ課税ヲ全廢セントセリ、尤モ現世紀ノ初ニ當リテ租税ヨリ生シタル歳入ハ其全歳入中ノ一小部分ヲ占ムルニ過キサリシナリ、千八百十年ニ於ケル同州ノ歳入ハ三十五萬三千九百六十五弗八仙ニ達シ、此全額ノ内州ノ事業ヨリ生スル

*米國政府記
録「財政ノ部
第一卷

利益十三萬四千八百八十七弗九十五仙ニシテ、土地ヨリ生スルモノ九萬三千六百四十四弗四十二仙及ヒ租税ヨリ生スルモノ八萬三千六百五十八弗二十五仙ナリキ、而シテ其全經費ノ人頭割ハ七十三仙ニシテ其租税ノ人頭割ハ十三仙ナリキ、千八百二十五年以前ニ當リテハ銀行配當金税ハ姑ク措キ其他些々タル例外アリシノミニテ免許料トシテ徵收セルモノ、外ハ毫モ州税ナルモノアラザリシナリ、千八百二十七年ニ當リ州會ノ豫算委員會ハ州會ニ報告スルニ爾來歳入ノ種々ナル經常財源次第ニ増加シタル事、是等ノ歳入ヲ以テ州政府ノ一般經費ヲ支辨スルニ充分ナル事、及ヒ數年來ニ生セル剩餘金ハ州債償却費ニ供スベキ事ヲ以テシタリ、

抑モペンシルヴェニア州ノ財政歴史ハ夫ノ未タ租税ヲ課セラレ

*千八百八十七
年五月米國經
濟協會發行
ウオルコット
ン著「ペンシ

タルナキ人民若シクハ未ダ之ニ慣熟セザル人民中ニ租税ヲ設クルノ實ニ至難ナルヲ證明スルモノナリ即チ同州ノ人民ハ何種ノ課税ヲ問ハス悉ク之ニ服スルヲ拒否シタリ而シテ公共事業ニ由リテ維持セル經費負擔ハ益々増加シテ止マサリレニ拘ハラス之ヲ人民ニ訴ヘ彼等ヲ促カレテ彼等自己ノ所有財産ノ保護安全ニ供ス可キ金錢ダモ之ヲ支出セシムル能ハサリキ是レ實ニ夫ノ鐵道會社ノ株主カ何等ノ目的ニ出ツルヲ問ハス其所有株ニ對シテ附加金ヲ課セラル、コトヲ拒否スルト一般ニシテ其愚定ニ笑フ可キモノナリ右ノ如ク人民カ課税ニ服スルヲ好マサルノ故ヲ以テペンシルヅエニヤ州ハ巴ムナク其公共事業(運河掘削ヲモ包含ス)ヲ拂下クルニ至リ斯クテ同州ハ大ニ損失ヲ蒙リタリ、メーリーランド州ノ財政歴史モ亦同一ノ事實ヲ證明スルモノト

ス同州ニテハ現世紀ニ際シテモ千八百四十一年以前ハ州税ヲ課シタル事例實ニ乏シカリキ而シテ同州ノ人民カ租税ニ對シテ嫌忌ノ情ヲ起スニ至リレハ即チ同年頃ヨリノ事ナリトス同州ニテハ州内ノ改良工事ノ建設ヲ補助スル爲ニ其信用ヲ濫用シタルアリキ然ルニ其豫期ノ目的全ク失敗ニ歸シタルヲ以テ其財政大ニ困難ニ陥リタリ而シテ當時人民カ如何ナル種類ノ課税ヲ問ハス頑然之ニ抵抗シタルハ夫ノ課税ヲ行フヨリモ寧ロ斷然州債ヲ放棄ス可シトノ說公然主張セラル、ニ至リタルヲ見テモ知ル可シ然レトモ斯、ル激論ハ到底採用セラレヌンテ更ニ温和ナル意見重キヲ占メメーリーランド州ノ現行課税法ハ千八百四十一年ヲ以テ制定セラル、ニ至レリ、
要スルニ以上説述セル所ニ付テ吾人ノ須ラク念頭ニ銘ス可キ重

要ナル點ハ既ニ一タヒ課稅權ヲ不用ニ處セシメタル人民中ニ租稅ヲ再設スルノ如何ニ困難ナル可キヤ是ナリ此事タル特ニ現時ニ於テ最モ肝要ナルモノトス、

現時ノ歲入中ニ於ケル租稅以外ノ財源 及其比較的說明

租稅ハ現世紀ニ當リテ異常ノ増加ヲ爲シタレトモ現今諸國ノ歲入中ノ大部分ヲ占ムルモノハ今尙ホ租稅以外ノ財源ヨリ生スルモノナリトス、元來國及市等ニテ發表セル歲計案ノ如キハ歐洲ニ於テスラモ實ニ不完整ニシテ其要點ニ付キ充分満足ナル消息ヲ得ルヲ甚タ難シ、而シテ右ニ付キ米國ニ於テ蒐集シ得ヘキ消息ノ如キハ更ニ一層區々ニシテ整然一躰ヲ爲セル者ナシ、此點ヨリ察スレハ近時諸國ノ歲計ハ或點ニ於テ却テ古代ノ歲計ノ情態ヲ具フ

ルノ傾向アリト云フ可シ、數多ノ國又ハ市ノ歲計案ヲ見ルニ租稅ハ稍重要ナラサルノ位地ヲ占ムルノ狀アリ、是レ其原因タル或ハ鐵道、電話、電信等ノ如キ公共事業ヲハ國若シクハ市ノ所有ニ歸シ、或ハ官林事業ヲ擴張シ、或ハ市團躰ノ職務ヲ擴張シテ其例少ケレトモ夫ノ市内鐵道、馬車鐵道、電氣鐵道、又ハ屢、實行セララル、如ク夫ノ水道、瓦斯、及電燈事業等ヲ買收若シクハ造設シ以テ其收入ヲ增加セルニ歸セス、ハアラズ、近來英國諸市ニ於テ財政上ノ歎聲ヲ聽クノ趣アルカ如キ亦同シク此理由ヲ以テ説明ス可シ、英國ニ於テハ嘗テ地方債急速ニ増加シタルヲ以テ一時ハ大ニ驚愕ヲ惹起シタルモ、今日ニ及ンテハ是等諸市ノ多數ハ其經費ニ對シテ多額ノ收入ヲ有スルヲ發見スルニ至レリ、合衆國ニ於テハ僅ニ右ノ如キ狀勢ノ初步ヲ窺フヲ得ヘシ、即チニューヨーク州ハ已ニ林業

ヲ創始セリ、而レテ今ヤ合衆國政府ニ於テモ亦同様ノ事業ヲ興ス可シトノ建議ヲ見ルニ至レリ、水道事業ハ我國ニ於テハ概シテ市團躰ノ所有ニ屬セリ、又瓦斯事業モ稀ニハ其所屬中ニ在リ、ウエスト・ヴァージニア州ノホエーリング市ハ千八百七十一年ニ私有瓦斯事業ヲ買收シテ市有トナシ、又フギラデルフヤ市ニ於テハ千八百八十六年ニ瓦斯事業ニ關スル爭論起リ、當時市内上流ノ有力家等カ買占策ヲ取リテ強大ナル抵抗ヲ爲シタルニモ拘ハラズ、遂ニ之ヲ市有トナスコトニ決定セリ、瓦斯供給ノ如キ事項ハ之ヲ市團躰ノ公共事業ト爲スヲ可トスルノ感情愈々發揚シ來ルノ勢アルコトハ敢テ明言スルヲ憚ラサルヘシ、而レテ夫ノ電信事業ヲ以テ中央政府ノ所屬ト爲スカ若シクハ其監督ノ下ニ立タシムルカニ付テ一般ノ輿望ハ蓋シ益々其熱度ヲ

高メ來ルモノ、如シ、合衆國內ノ市内鐵道線ニシテ公有ニ屬スルモノハ今日獨リニユイヨーク、ブルックリン橋上ニ於ケル一線アルノミ、然レモ我國諸市團躰ニ於テハ次第ニ市内鐵道ヨリシテ市歲入ヲ得ントスルノ意向ヲ呈セリ、ボルチモール市ノ歲入中其著大ナル割合ヲ占ムルモノハ鐵道馬車全線ノ總收入ニ賦課スル九分ノ特別税及ヒ他ノ諸會社ト同シク特別税ノ外ニ納ムル所ノ定期税ヨリ生スル收入トス、近來ニユイヨーク州ニテハ一法律ヲ以テ悉ク同州内ノ市ヲシテ市内鐵道ノ免許權ヲ拂下ケ其總收入ニ對スル徵税ノ割合ヲハ公然競爭ニ附レテ之ヲ定メサルヲ得サフシメタリ、現ニニユーイヨーク市長エー、エス、ヒウ井ット(A. S. Hewitt)氏ノ如キハ該市ニ於ケル速運機關(鐵道等ノ類)ハ市團躰ニ於テ之ヲ構造所有スヘキコ

トヲ主張セリ、而シテ人口八十萬以上ノ市ニ於テハ市有速運機關ヲ有スルコトヲ許可ス可キノ一議案ニニューヨーク立法部ニ提出セラレタリ、米國諸州ニ於テハ同方法ニ由リテ其歳入ノ大部分ヲハ瀛車鐵道ヨリ收得シ、其收入ノ割合益々増加セリ、而シテ各州中或ハ是等ノ收入ヲ以テ其經費全額ヲ支辨シ、或ハ殆ント其全額ニ近キ大部分ヲ支辨スルアリ、今日ニ當リテハ夫ノ電信、電話、運輸、市内鐵道等ノ諸會社ノ收入中ヨリ從前ヨリモ一層多額ノ徵收ヲ爲サントスルノ決意アルコト已ニ歴然タリ、是ヲ以テ米國ノ歲計案ニ於テスラモ租税ハ稍、重要ノ地位ヲ失ヒツ、アルノ徵候ヲトスルヲ得ヘキナリ、

次表ニ掲クルハ千八百八十年ヨリ同八十一年ニ至ル會計年度間ニ於ケル歐洲諸國ノ官有地及官林ヨリ生セル純收入ヲ示スモノ

ナリ、

千八百八十年ヨリ同八十一年ニ至ル官有地及官林收入表*

普魯西	四五、六一二、〇〇〇 <small>馬克</small>
バヴアリア	一九、六二五、〇〇〇 <small>全</small>
サクソニー王國	七、〇〇七、〇〇〇 <small>全</small>
ウユルテンベルグ	五、三三九、〇〇〇 <small>全</small>
バーデン	三、五三七、〇〇〇 <small>全</small>
澳西利	一、七四〇、〇〇〇 <small>全</small>
匈牙利	一一、四九七、〇〇〇 <small>全</small>
佛蘭西	二五、九一二、〇〇〇 <small>全</small>
伊太利	一一、二四七、〇〇〇 <small>全</small>
英國	六七〇〇、〇〇〇 <small>全</small>

* 此表ハロツシ
エル著「財政
學」第二版三
十四頁ヨリ抄
録ス、

次ニ掲クル表ニ於テハ其第一段及第二段ニ於テ千八百七十三年及千八百八十年ノ兩年ニ諸國カ其官有地及官林ノ利益ヨリ得タル歳入ノ割合ヲハ別々ニ示シ、又其第三段及第四段ニ於テハ千八百七十年及千八百八十四年ヨリ同八十五年ニ至ル年度トノ兩年度ニ於テ諸國カ其總テノ收利事業即チ所謂國家ノ總私收得ノ利益ヨリ生シタル歳入ノ割合ヲ示セリ、而シテ其利益ハ總收入中ヨリ全費用ヲ控除シテ計算シタルモノナリ、又千八百八十四年ヨリ同八十五年ニ至ル年度ノ割合ハ獨リ獨逸諸國中ノ五六ヲ舉ケタルニ止レリ、

國名	官有地及官林收入			收利事業全額ノ收入		
	一八七三年	一八七九年	一八七三年	一八七三年	一八八四—五年	
サクワニ	九・七	八・九	五四・七	七二・七〇		

* 第一段及第三段ハワグネル著『財政學』第二版第一部三百五十六頁ヨリ抄出ス、

第二段ハユスタス、ペルテス發行『千八百八十年年度年中行事』ヨリ錄ス、第四段ハシヨエンヘルヒ編纂『經濟學提要』第二版第三卷六十八頁ニ於ケルフォン、シエール著『國家有利事業論』ヨリ抄セリ、

國名	官有地及官林收入	收利事業全額ノ收入
ウニルテンベルグ	一三・二	九・九
バヴァリア	一七・三	一五・九
バーデン	七・一	三・九
普魯西	八・四	七・五
丁抹	二・九	四・六
瑞西	四・一	二・六
白耳義	一・〇	一・八
子ザラント	一・九	一・七
諾威	一・二	一・三
希臘	三・六	三・四
希臘	三・六	三・四
魯西亞	三・四	〇・四
伊太利	三・〇	二・〇

智利	セルヅ非ヤ	埃西利	葡萄牙	佛蘭西	英國	獨逸帝國	アルサス、ローレン
一・七	一・八	〇・五	〇・六	一・四	〇・六	……	……
二・三	……	〇・二	〇・二	一・九	……	……	……
八・三	六・六	四・九	四・七	三・九	二・五	……	……
……	……	……	……	……	七・六五	……	一五・二一

特ニ注意ヲ惹ク可キハ獨逸ノ國有鐵道ヨリ生スル純益ハ其國債ノ利子全額ヲ支拂フモ尙ホ餘リアルト是ナリ、次表ハ即チフォン、
ンエール(Von Scheel)氏ノ示セルモノニシテ馬克ヲ以テ之ヲ算セリ、

普魯西	國債利子高	國有鐵道純益高
ハヴアリヤ	一三五、三五八、〇〇〇	一六四、六八五、〇〇〇
サクソニー	四七、六四二、〇〇〇	三七、三一七、〇〇〇
ウユルテンベルグ	二二、六二二、〇〇〇	二七、一五八、〇〇〇
バーデン	一七、五〇三、〇〇〇	一二、八四八、〇〇〇
	一三、六〇六、〇〇〇	一二、一八一、〇〇〇

獨逸ニ於ケル輿論ノ要領ヲ代表スルモノトシテ國有鐵道及國家管理鐵道ニ關スルフォン、ンエール氏ノ意見ヲ舉グルモ亦無益ニ非サル可シ、普魯西カ私有鐵道ヲハ國有鐵道ニ歸セシメタルノ舉ハ果シテ其宜シキヲ得タルモノナルヤ否ヤハ千八百七十七年ニ於テ重大ナル一疑問ナリキ、教授フォン、ンエールハ千八百八十五

年ニ公ニセル一篇ノ論文中ニ説テ曰ク、鐵道ハ國有若クハ國家管理ト爲ス可キヤニ付キ痛切ナル論争ヲ試ム可キ機會ハ今ヤ實際經驗上ノ證明ニ依リテ全然一掃セラレ、歐洲諸國ニ於テハ實際國有若クハ國家管理ノ利ナルヲ決定セリト、市團體ノ統計表ハ歐洲ニ於テスラモ實ニ不完整ニシテ市カ其市有財産及其生産的事業ヨリ收得セル歳入ニ就テハ僅ニ箇々散亂セル事實ヲ示スニ過キス、然レトモ吾人ハ敢テ憚ル所ナク是等ノ歳入ハ益、増加シツ、アリト云フヲ得ヘシ、何トナレハ吾人ノ蒐集シ得ヘキ事實ハ殆ト皆現今ノ市ニ於テハ租税以外ノ財源ヨリ生スル收入益、増加スルノ狀勢アルヲ示セハナリ、巴里ニ於テ市有ノ生産的財産ヨリ生スル收入ハ頗ル巨額ニシテ其歳入ノ二割以上ヲ占ム、而シテ其財産ノ或部分ハ市ニ於テ直接

ニ之ヲ管理スレトモ其他ノ大部分ハ制限アル特許狀ヲ以テ會社ニ委任セリ、此特許狀タル其特許ノ期限終ルト同時ニ無報償ニテ其全財産ヲハ市ニ復歸セシム可シトノ條件ニ由リテ附與セルモノナリ、此期限中等ノ諸會社ハ巴里市ト共ニ其利益ヲ分ツヲ得ヘシ、レロソ、ポーリユノ思案ニテハ公共財産及ビ市ノ事業ヨリ生スル歳入ハ千九百五十年ニ至ル迄巴里市ノ經費ノ大部分ヲ支辨スヘク、同年後ハ僅ニ少額ノ直税ヲ要スルニ止ルヘント云ヘリ、巴里市ノ經費額ハ千八百八十二年ニ於テハ大約二億四千六百萬フランクナリキ、而シテ其内大約五千二百萬フランクハ市有財産及生産的事業ヨリ生シタルモノトス、又右ノ内大約千五百萬フランクハ夫ノ千九百五年ヲ以テ其特許期限ヲ終ル可キ瓦斯會社ノ支拂ヒシモノナリ、該會社ノ支拂高ハ其後更ニ増加シ千八百

八十五年ニ至リテ其額千七百四十九萬九千五百五十六フランクニ達セリ、

會場料及市場料ヨリ生スル收入ハ七百萬フランク以上ニ及ヘリ、又屠獸場ヨリハ年々三百三十三萬フランク以上ノ收入ヲ生シ、水道事業ヨリハ大約千五百五十萬フランク、公立運輸業ヨリハ五百萬フランク以上ヲ生セリ、

千八百八十六年ニ於ケル獨逸ライプツック市歲計表ノ示ス所ニテハ其租稅ヨリ生スル收入四百二十一萬八千七百七馬克ニ達スレトモ、之ト同時ニ其市有財産ニ對スル地代及收益ハ左ノ如キ額ヲ見ルナリ、

官有地純益	一五六、五八一馬克
山林	五八、〇五二金

水車場等 六〇〇五金

牧場等 三五、六六八金

獵業及漁業 三、一二七金

石鑛所 一一、九四九金

地代 五五、九六七金

總計 三二七、三四九金

尙ホ之ニ加フルニ瓦斯事業ノ豫定收益額百二萬七千四百四十三馬克ヲ以テセサル可ラス、此事業ノ收入ハ租稅以外ノ財源ヨリ生スル或他ノ收入ト共ニ全歲入ノ四分ノ一以上ヲ占ムルモノトス、ヌレンベルグ市ハ千八百八十三年ニ於テ其市有財産ヨリ十五萬千七百四十馬克ノ收入ヲ得、又其租稅ヨリ百六十萬三百五十三馬克ヲ收メタリ、

伯林ニ於テハ其經費ノ七割三分三厘九毛ハ租税ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ、之ト同時ニ瓦斯事業ハ大約一割五分ヲ出セリ、近來租税以外ノ財源ヨリ生スル市歳入ノ増加セルコトハ人口一萬以上ヲ有セル普魯西ノ四十市ニ於ケル市有財産及其收利事業ノ總收入ハ千八百六十九年ヨリ千八百七十六年ニ至ルノ間ニ其人頭割三百四十「フエンニーゲ」ヨリ千十四「フエンニーゲ」ニ昇リ、又同年間ニ於テ其純收入ノ人頭割三十四「フエンニーゲ」ヨリ四百三十四「フエンニーゲ」ニ昇レリトノ記述ニ於テ之ヲ見ルヘシ、普魯西ニ於テハ水道事業ハ悉ク終ニ公共事業トナレリ、又瓦斯事業ノ如キモ公立ハ私立ニ比シ二倍以上ノ生産ヲ爲セリ、而シテ是等ノ事業モ亦夫ノ水道事業ノ如ク漸ク市團體ノ所有ニ移ラントセリ、英國ノ市ニ於テハ近來ニ至リ瓦斯事業及市内鐵道線ヲハ市有ニ

*米國經濟協會
々報第二卷第
二號、教授フ
ランク、ジェー
グー、ノー、述
可公共事業ニ
關スル自治市
ノ權力

屬セシメントセリ、千八百八十三年乃至同八十四年ノ財政年度ニ於テ自治市府カ其水道事業ヨリ得タル金額ハ百九十二萬八千五百八十五磅ニシテ、都府衛生區ハ二十六萬七千八百十磅、地方衛生區ハ一萬九千六百六十六磅ナリキ、瓦斯事業ヨリ自治市府ハ三百五萬六千五百五十九磅ヲ得、都府衛生區ハ三十萬七千四百八十九磅ヲ得タリ、又自治市都府ハ運搬用車道(Tramways)ヨリ八萬千九百八十磅ヲ領收セリ、*

米國ノ州及市ニ於テ其收利事業ヨリ收得セル歳入ニ關シテ採蒐シ得ヘキ材料ノ如キハ本書ノ後篇ニ於テ之ヲ舉示ス可シ、

第四章 租税ノ作用ニ關スル概論

租税ハ往々通常歳出ヨリモ多額ノ收入

ヲ生ス

抑モ租税ナルモノハ其性質及結果ニ付キ熟思シタルトナキ人々ヨリ觀レハ寔ニ單純ナル事物ニ似タリト雖モ苟モ深ク各時代各邦國ノ財政制度ヲ検討セハ其關係ノ及フ所極メテ深遠ナルトニ付キ必スヤ大ニ感スル所ナキヲ得ザルヘシ、租税ハ其結果或ハ獨占(Monopoly)ヲ生スルヲ得ヘク、又之ヲ遏止スルヲ得ヘシ、或ハ富財ヲ四方ニ分配スルヲ得ヘク、又之ヲ一地方ニ聚合スルヲ得ヘシ、或ハ自由ト平等トヲ増進スルヲ得ヘク、又暴政ト專制トヲ起スニ至ルヲ得ヘシ、或ハ諸種ノ改良進步ヲ全フスルヲ得ヘク、又在來ノ弊惡ヲ增長シ各階級間ノ軋轢ヲシテ益々甚カラシムルヲ得ヘシ、即

予智者ノ妙計ヲ以テ之ヲ制セハ富財ヲ増殖シ州市ノ眞利益ヲ進
捗スルノ好機ハ悉ク之ヲ利用スルヲ得可ク愚者ノ拙策ヲ以テ之
ニ當ラハ社會ノ産業競争場裡ニ一大死撃ヲ加フルニ至ルヘシ以
テ其影響ノ容易ナラサルヲ知ルヘキナリ、

人或ハ主張シテ曰ク國家若シ余ヨリ十弗ヲ取り上ケナハ是レ唯
々余ハ十弗丈ケノ貧ヲ招ケリト云フニ過キサルノミ其他豈ニ深
ク論辯スルノ要アラシヤト想フニ謬妄ノ甚シキ此說ノ上ニ出ツ
ルモノナカル可シ蓋シ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ租税ハ之ヲ賦課シ
タル物躰如何其徵收ノ時期如何又ハ其用途如何等ニ由リテ其結
果ニ大差異ヲ生スルモノナリ又或ハ租税ヲ以テ單純ナル事物ト
見做シ左ノ如キ概説ヲ爲シテ怪マサル者アリ曰ク我社會中ノ或
部分ヨリ租税トシテ金錢ヲ徵收シ以テ其他ノ部分ノ爲メニ之ヲ

消費スルニ當リテハ取りモ直サス之ヲ支拂ヒタル吾等ノ如キハ
其額丈ケ貧窮ニ陥リタルモノナリ即チ若シ言ヒ得ヘクンハ吾等
ハ之ヲ受領スル人々ノ利便ノ爲ニ掠奪セラレタルモノナリト是
說ノ如キハ實ニ淺薄ニシテ毫モ事物根本ノ道理ヲ窺ハサルモノ
ナリ其謬妄ナル所以ノ如キハ前々章ニ於テ已ニ考察シタル所ニ
由テ明カナラン抑モ今日ニ當リ公民タル者皆深ク租税上ノ研究
ニ注意セサル可ラサル所以ニ就キ一例ヲ舉ケテ之ヲ示サハ其他
ノ理由亦愈々明カナル可シ余ハ教育上ノ目的ニ供スル租税ニ就
テ予ノ實驗ヲ舉ケントス是レ實ニ單純ナル好適例ナレハナリ余
ノ教育ハ多ク公立學校ニ於テ之ヲ受ケタリ今日ヨリ思フニ若シ
夫レ余ノ修學セル學校ニシテ租税ヲ以テ維持セラレサリントセ
ハ余ハ果シテ満足ニ學校教育ヲ完了スルヲ得タリレヤ否ヤヲ疑

フモノナリ、何トナレハ謝金ヲ以テ維持スル學校ノ如キハ組織ノ完全ナルニ從ヒ其費用ヲ支辨スルノ必要ヨリシテ其謝金愈高額ナラサルヲ得サレハナリ、

余カ教育上ヨリ得タル利益ハ余ニ取リテ大ニ金錢上ノ利益トナレリ、之ト同時ニ余カ之ヨリ得タル一身上ノ満足ノ如キハ固ヨリ代價ヲ以テ之ヲ量リ得可キニ非サルナリ、余ヤ已ニ納税者ノ一人トナレリ、而シテ未タ公立學校内ニ在ル兒童ヲ有セサルヲ以テ、今ヤ他人ノ兒童ノ爲メニ租税ヲ出シテ其教育ヲ補助シツ、アル者ナリ、若シ夫レ曾テ教育費トシテ徴收セラレタル租税中ヨリ余ガ其恩惠ヲ受ケタル額ノ二十倍ヲバ生涯公立學校ノ爲メニ支拂フ可キヲ命セラル、モ尙ホ余ハ大ニ利得アリタルヲ信スヘク、又米國ノ公立學校制度ヲ劃定シタル人々ニ向テ常ニ深ク感謝ノ

情ヲ表ス可キナリ、蓋シ余一箇人トシテ其利益ヲ享クルト共ニ社會モ亦同シク之ヲ享クルト云フ可シ、何トナレハ社會ハ其曾テ余ノ爲メニ支出セルヨリモ多額ヲ回收シ得可ケレハナリ、凡ソ教育上ノ費用ニシテ其宜ヲ得タルモノニハ概シテ此論旨ヲ應用スルヲ得ヘシ、抑モ人ハ生産ニ於ケル第一ノ要素ナリ、故ニ人若シ適當ナル身體智識ノ鍊磨ヲ經テ産業ニ從事セハ、其準備愈完全ナルニ從ヒ愈多量ノ經濟的物件ヲ生産シ得ヘク、又愈迅速ニ富財ヲ増殖スルヲ得ヘキナリ、是ヲ以テ現在一時ノ重擔モ要スルニ國市ノ稅源ヲ増加シ將來課稅ノ割合ヲ輕減スルノ結果ヲ見ルニ至ルヘキナリ、

租税ノ趨向ハ區々ナリ

租税ハ或ハ一私人ノ業務ニ干涉スルニ至ルノ結果ヲ見ルコトアル

ヘク、而レテ斯クノ如キ干涉ハ遂ニ獨占ノ弊ヲ生シ易キモノトス、然レトモ夫ノ教育上ノ目的ノ爲メニ賦課スル租税ノ如キハ却テ獨占ノ弊ヲ沮遏スルノ傾向アリ、何トナレハ教育ナルモノハ通常人ヲレテ其一箇人トレテモ又社會ノ一員トレテモ愈々満足ニ自己ノ利益ヲ保護スルノ力ヲ養成セシムルモノナレハナリ、

租税ト自由

抑モ租税ヲ賦課セラル、ハ果シテ喜フヘキトナリヤト問ハ、人皆覺ヘス否ト答フ、即チ世俗ハ租税ヲ以テ害毒ト相伴アモノトナセリ、諺ニ曰ク必ス來ルモノ只二者アリ、死ト租税』是ナリト、夫レ租税ハ或ハ往々重擔ノ甚レキモノトナリ、或ハ往々間接ニ其直接ノ結果ヨリモ一層不幸ナル影響ヲ來ストアルハ固ヨリ疑ヲ容レリルナリ、前々節ニ於テハ政府ノ與フル利便ノ點ヨリ考察シテ租税

ハ往々利便的ナルモノナルヲ明示シタリ、其租税ヨリ生スル利便タル今日吾人カ享有スル自由トノ關係ニ於テモ亦之ヲ知ルヲ得ヘレ、若夫レ租税ナルモノナカリセハ今日ノ自由制度ハ果シテ何時ニ於テ歐洲諸國ニ起ルヲ得タリシヤ明知シ難カル可レ、夫レ然リ實際是等ノ諸制度ハ主トシテ租税ノ力ヲ以テ開拓シ來リタルモノナルト已ニ歴然タリトス、諸君主ハ其從來ノ歳入ノ財源ニテハ到底其必需ヲ充スニ足ラサルヲ發見シ、臨時補助金ヲ請求セサルヲ得サルニ至レリ、而シテ是等ノ補助金ハ皆條件ヲ付シテ獻納セラレタリ、君主カ新歳入ヲ請求セサル可ラサルノ必要ニ遭遇スルト再三再四ニシテ、其度ヲ累ヌルニ從ヒ國內ノ人民モ亦之ニ對スル政權讓與ノ請求ヲ増加シ、終ニ英國ノ下院ハ其國民ノ財囊ヲ左右スルノ權ニ由リ女皇及ビ上院ニ凌駕セル強大ナル勢力ヲ有

スルニ至レリ、此事タル實ニ近世史ヲ解釋スルニ最も重要ナル關鍵ノ一ナリ、即チ夫ノ英國憲法制度ノ如キハ千二百十五年ノ大憲章ヨリ現時ニ至ルマテ、皆其課税權ノ上ニ建設セラレタルニ非サルハナシ、ジョン王ハ從來慣用レ來レル三種ノ封建的助金ヲ使用スルヲ許諾セラレタリキ、即チ其三種トハ王ノ擒虜トナリタル時、皇長子ノ元服ノ時、及皇長女ノ婚禮ノ時ニ納メシムル獻金はナリ、然レトモ該憲章ハ別ニ記シテ曰ク「何等ノスキユテーチ」(Scutage)又ハ助金モ我國ノ普通會議(Common Council of our realm)ノ外之ヲ國內ニ賦課スルヲ得スト、グリーン(Green)氏カ其著『英國人民小史』ニ於テ英國憲法制度ハ全ク此條章ニ賴ルト説キシハ寔ニ當レリ、夫ノ豪族ノ大會議(Great Council of the Barons)ノ如キハ君主カ其財政上ノ必要ニ迫ラレ千二百九十四年ニ於テ遂ニ已ヲ得ス大憲章ノ追

加案ヲ承認セサル可テサルニ至リ始メテ今日ノ議院トハナレリ、該追加案ハ『無諾課税律』ト稱セラレタルモノニシテ、之ニ由リテ議院ニ集合セル「ナイト」市民、及公民ノ承諾ヲ經ルニ非ツレハ國王ハ何等ノ租税ヲモ賦課スルヲ得ストノ規定同意セラレタリ、グリーン氏曰ク「議院内ニ起レル一變動ヨリレテ吾人ハ忽チ從來專ラ租税上ノ事柄ノミニ關係スルノ目的ヲ以テ召集セラレタル夫ノ市民カ其他ノ國務ニ關シテモ十分ニ討議參預スルニ至リタルヲ見ル、我憲法組織ノ機關ハ市民及郡ノ代議士カ千二百九十五年ノ大會議ニ參列スルヲ許サル、ニ至リテ始メテ完成セリ」ト、英國ノ議院制度ハ千六百二十八年ノ「權利請願」及千六百八十九年ノ「權利告表」ヲ以テ愈々鞏固トナレリ、權利請願ヲ草シタル國會ハチャールス一世ノ召集レタルモノニシテ、當時同王ノ一身ハ負債ト恥辱

トニ纏繞セラレ、曾テ專横ナル課税ニ抵抗シテ辛苦ヲ嘗メタル人々ノ監督ノ下ニ在リシナリ。該「請願」ニ於テハ明文律ヲ引證シテ專横ナル課税國債恩惠獻金等ノ事ニ反對シタリ、而シテ右ノ文中ニ於テ下院ハ國王ニ請フニ凡テ「議院」ノ決議ニ由リ人民ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ何人モ何等ノ贈遺貸金恩惠獻金租税又ハ其他同類ノ負擔ヲ課セラル、トナカルヘキト「以テセリ」權利告表「中ニハ左ノ如キ記載アリ、曰ク王室ノ爲メ又ハ其使用ニ供スルノ目的ヲ以テ議院ノ許容ナク其已ニ許容セラレタル又ハ許容セラルヘキ期限ヲ超過シ、若シタハ其手續ヲ履マシテ國王ノ特權ヲ楯トシ金錢ヲ徵收セントスルハ不法ナリ」ト「權利告表」ノ出タル後政費ノ供給ハ毎一年宛ニ提供スルトナリ、復タ「チャールズ二世及ジェームズ二世」ノ治世ノ際ニ於ケルカ如ク國王生涯ノ費用ノ供給ヲ

* グリオン著「英國人民小史」第四章及第九章、ロッシェル著「財政學」第六篇第三章第五十三節、ウ井ルソン著「國家豫算論」第一章發音、

ハ一時ニ許容スルトナキニ至レリ、而シテ陸軍ノ維持費及俸給費ヲ包含スル軍事條例ノ如キモ毎年一新セララル、トトナレリ、此時以來政費ヲ供給シ陸軍ノ維持練習費ヲ許容スルカ爲メニ議院ハ必スヤ毎年開會セサル可ラサルニ至レリ、グリオン氏ハ之ヲ以テ、「我國歴史上ニ發シタル憲法上ノ最大變動」ナリト説ケリ、實ニ今日下院ヲシテ其勢力上院ヲ凌駕センメ、甚シキハ貴族院廢止ノ脅迫ヲ爲スニ至ラシメタルモノ、畢竟下院カ歳入監督ノ全權ヲ掌握スルノ故ニ歸セスンハアササルナリ、其他財政ト自由トノ關係ニ對スル歴史上ノ實例尙多々アレトモ今茲ニ一々記述スルノ餘地ナシ、又一々之ヲ記述セハ讀者ヲシテ本書ノ直接ノ目的ヨリ遠サカラシムルニ至ル可シ、苟モ潛心シテ近世ノ歴史ヲ精讀セハ前述ノ關係ヲ證明ス可キ主要ナル事實頗

ル歴然タルヘキナリ、抑モ以上陳述シタル所ニ由リテ察スレハ凡
ク政治上ノ趨勢ニハ自ラ一利一害ノ伴フアリテ全然善良ナルモ
ノナク、又全然不良ナルモノナキ、已ニ明カナラン、強大ナル國王
ハ枉ケテ人民ニ向テ助金ト臨時献金トヲ哀請スルヨリモ寧ロ其
官有財産ヲ犧牲ニ供セリ、果敢勇壯ノ君主ハ其政權ノ一部ヲ脱離
スルモ人民ニ對シテ右ノ如キ請求ヲ試ムルヲ欲セサリシナリ、
現今ト雖モ潛心シテ仔細ニ當代政治ノ形勢ヲ觀察セハ若シ萬一
歐洲大陸ニ於テ租税ヲ課スルノ必要ナキニ至ラハ從來艱難辛苦
シテ漸ク獲得シタル人民ノ自由モ甚シキ危難ニ陷ル可シトノ感
ヲ起スヤ必セリ、然リト雖モ租税以外ノ財源ヨリ生スル歳入近來
次第ニ増加シタリトテ敢テ危惧ヲ抱クノ謂ハレナキカ如シ、何
トナレハ租税ハ今尙ホ莫大ノ額ヲ生セサル可ラサレハナリ、吾人

ノ眼ノ達スル所ニテハ將來ト雖モ亦同シカルヘシ、而シテ此避ク
可ラサル負擔ヘ其結果君主カ權勢ヲ振フノ障碍トナル可ク、此點
ニ於ケル租税ノ効用ハ甚タ其當ヲ得タルモノトス、其負擔重キニ
從ヒ其障礙愈々大ナリ、之ニ反シテ若シ悉ク租税ニ依頼シテ全歳
入ヲ得サルヘカラサルカ如キ必要ノ生スルアラハ或ハ恐ル可キ
革命ノ感情ヲ醸スコトナレト云フヘカラス、若シ夫レ政府ノ鞏固
ト平和ナル進歩トニシテ果シテ願フ可キ者ナリトセハ、今日公共
事業ヨリ生スル歳入ノ増加スルハ是レ時世ノ喜フ可キ兆祥ナリ、
合衆國政府ハ之ニ反シテ人民ノ以テ重擔ト見做セル租税ニ依頼
セシメテ充分ナル歳入ヲ收得スルモ是レ却テ人民ヲシテ畏レシ
ム可キ不利益ト危難アルヲ示スモノナリ、合衆國政府カ其間稅
ヨリ收得スル收入ノ額ハ其政府ノ必要額ニ超過スルモ人民多ク

ハ歳入以外ノ目的ヨリシテ尙ホ此税ヲ持續セシメテ望メリ、若シ合衆國政府ノ歳入ニシテ納税者カ直ニ其負擔ヲ自覺スヘキ直税ヨリ生シタルモノナリトセンカ、國會ノ全方針ハ忽チニシテ變動スルナル可シ、事情若シ然ラハ從來ノ經驗ニ徵スルニ今日政府ノ正當ナル用途ニ充ツルニ足ル可キ巨額ノ歳入ヲ期スルヲ得タル可キヤ否ヤ少シク疑ナキヲ得ス、合衆國政府ノ地位タル夫ノ官有財産又ハ生産事業ヨリ其全歳入ヲ收ム可キ政府ニ比スレハ或點ニ於テ一層不利ナルヤ蓋シ疑ナキナリ、英王カ米洲ノ植民地ヨリ租税ヲ徵收センコトヲ計リタルカ如キモ以上ノ所説ト相關聯シテ玆ニ舉グルヲ得ヘシ、此計畫タル其結果米英間ノ破裂ヲ來シ、遂ニ我自由ノ確立ヲ促スニ至リシコトハ人ノ能ク知ル所ナラン、又玆ニ注意スヘキコトアリ、即チ自由國ノ人民ハ輿論ノ贊成ヲ表シ

タル目的ニ對シテハ專制政府ノ下ニ生活セル人民ト反シ重税ト雖モ異議ナク服従スルノ風アルコト是ナリ、合衆國ノ歴史ハ又能ク之ヲ證明スルモノトス、

租税ト社會改良

ジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill) ハ政府ハ自然ニ生スル弊害ト不公平トニ對シテ及フ可キ限り之ヲ矯正スルコトヲ計ラサル可ラストノ原則ヲ論定シ、伯林ノ大學教授アドルフ・ワグネル (Adolf Wagner) ハ課税權ハ社會ニ於ケル富ノ分配ヲシテ一層平均至當ニ歸セシムルノ機關トシテ之ヲ使用セサル可ラストノ説ヲ唱導セリ、夫ノ累進税法ノ如キハ此目的ヲ達セントシテ主張セラレタル得意ノ一案ナリトス、又相續權、遺産權ノ制限論若シクハ支親族ノ無遺言相續廢止論ノ如キモ必竟是主旨ニ基テ唱説セラレタ

ルニ外ナラサルナリ、酒類營業權ニ對シテ高價ナル免許税ヲ課スルカ如キモ社會改良ノ一手段ナリトシテ主張セラル、モノナリ、ヘンリー、ジョー、ルチノ地租策ノ如キ、モ唯單ニ税法改良ヲ企圖シタルニ過キサルモノトシテ解釋セラレタリ、勿論已ニ前々章ニ於テ説明シタルカ如ク氏ハ斷シテ大躰上課税權ナルモノ、存在ヲ許容セザリシニハ相違ナキモ先ツ右ノ如ク考察スルヲ得ヘシ、シユーンデイー(Thydes)ハ曰ヘリ政治ニ對シテ毫モ注意ヲ惹カサルノ人民ハ危險ナル市民ナリト、人若シ租税ナルモノハ其關係スル所非常ニシテ驚クヘキモノアルコトヲ考察セハシユーンデイーズナラサルモ租税ノ原則ニ對シテ毫モ注意ヲ惹カサルノ人ハ是レ危險ナル公民ナリト呼號セサルヲ得サルニ至ラン、

第五章 租税ノ種類

租税ノ分類肝要トナレリ

前々章ニ陳述シタル所ヲ以テ見レハ古代ニ於テハ租税ヲ分類スルノ必要極メテ尠カリシコト明白ナリ、當時ニ在リテハ唯其僅々タル數種ノ租税ヲ擧ケテ之ヲ説明スレハ足リタルノミ、蓋シ諸國民諸國及諸市カ租税ノ部類ト稱シテ適當ナルモノヲ有スルニ至リタルハ現世紀以後ノ事ナリトス、然リト雖トモ今日ニ及ンテハ其ノ種類甚々多キヲ加ヘ一々其種類ヲ區分排列シ、而シテ各種ニ就テ其重モナル性質ヲ擧グルニ非サレハ能ク課税ノ事ヲ了解スル能ハサルニ至レリ、近世産業社會ノ豊富充實ナル恰モ自然界ニ於ケルカ如ク其關係複雜ニシテ學者カ之ヲ研究スルニモ自然界ノ事物ニ對スルト同様ノ方法ニ依頼シテ之ニ當ラサルヲ得サル

ナリ、

重農學派 (Physiocrats) ノ分類

シャーン、ブダーンハ其著『共和政論』ノ第六卷ニ於テ直税及間税ノ事ヲ説ケリ、然レモ此區別タル前世紀ニ於ケル重農學派ナル佛國經濟學者ノ唱導ニ由リテ洽テ世人ノ知ル所トナリタルカ如ク、重農學派ハ新富ヲ生スル唯一ノ富源ハ土地ノミナルヲ以テ眞箇ノ生産業ハ獨リ農業ニ止ルヲ唱導シタリ、其説ク所ニ據ルニ農業ハ獨リ勞力及ヒ資本ニ對スル報酬ヲ生スルノミナラス、更ニ其剩餘即チ地代ナル者ヲ生スト云ヘリ、而シテ此地代コソ彼等カ純收入物ト稱シタル者ナリ、彼等ハ在來ノ富ヲ増加スルヲ得ヘキモノハ只此純收入物即チ地代ノミナレハ租税ハ必スヤ皆此地代中ヨリ支拂ハシメサルヘカラストノ理ヲ明カニセンコトヲ努メタ

* 其三家ヲケ
子一、グール
子一及ビチユ
ルゴートス、

リ、其ノ意タル假令人身、營業若シクハ貨物等ノ上ニ之ヲ課スルトスルモ實際其負擔ハ遂ニ土地所有者ノ頭上ニ轉移セラル、ニ過キサルヘント云フニ在リ、此故ニ彼等ハ地代ニ課スル單一ノ租税ヲ主張シ、此租税ハ其實際ノ負擔者カ之ヲ支拂フ者ナルヲ以テ稱シテ直税ト呼ヘリ、其他ノ租税ハ悉ク之レヲ間税ト稱シタリ、即チ是等ノ租税ニ於テハ其負擔ハ順次ニ轉移セラレ、結局最初ニ之ヲ支拂ハサリシ人即チ適當ノ語ヲ以テ云ヘハ、是ニ之ヲ立換セサリシ人之ヲ支辨スルニ至ルヲ以テナリ、右重農學派ノ下シタル租税ノ區別ハ政治行政ノ實際上ニ於テモ將タ又學理上ニ於テモ一般ニ行ハル、分類ノ原則トナリタリ、普通ノ説ニ據ルニ最初ニ租税ヲ課セラレタル人其終極ノ負擔ヲ引受クルトキハ之ヲ直税ト云ヒ最初ニ之ヲ支拂ヒタル人更ニ之ヲ他人ニ轉移スル時ハ之ヲ間

税ト云フモノトス、已ニシテ重農學派カ間税ト稱シタル租税モ半ハ直税タリ半ハ間税タルノ性質ヲ具フト論セラル、ニ至レリ、是レ後世ノ學者カ租税ノ分配法(Incidence of taxation)ニ對スル見解區々ナルニ由レリ、

其他ノ分類

地代ニ課スル租税コソ他ニ轉移セサル唯一ノ租税ナレトハ現今經濟學者ノ信セサル所ナリ、然リト雖モ租税ノ分配法ニ至テハ久シク學者ノ論争點タリシモノトス、蓋シ名實二種ノ負擔者間ニ於ケル租税ノ分配ニ就テモ分類ノ舊原則ニシテ尙ホ行ハル、限リハ右ノ問題ニ對スル種々ナル學者ノ說ニ由リ其論斷自ラ區々ナラサルヲ得ス、又此分配上ノ議論モ租税ノ分配法ニ關スル新説出ツルニ從ヒ各變動ナキヲ得サルナリ、近來學者漸ク此分類モ稍

不穩當ノ點アリテ深ク證據スルニ足ラサルヲ觀破シ更ニ他ノ新原則ヲ索メテ之ヲ分類センヲ期スルニ至レリ、而シテ學者中或ハ新語ヲ採用シテ租税ノ主要ナル種類ヲ分チ、或ハ舊來ノ語ヲ保存スルモ其意義解釋ヲ異ニスルモノアリ、以下一二學者ノ分類ヲ舉テ之ヲ考究スルヲ得策ナルヘシ、

ハイデルベルグ大學教授ラウ(Rau)ハ租税全躰ヲ分テ實價査定税(Assessed tax)及消費税(Expenditure tax)ノ二種トナセリ、氏ハ實價査定税ヲ解シテ實價査定即チ評價ヲ基礎トシテ課スル租税ナリト云ヘリ、即チ課税セラル、物躰ノ實價ヲ査定即チ評價スルモノトス、又消費税ヲ解シテ食物衣服其他同類ノ消費品ニ課スル租税ナリト云ヘリ、即チ直譯スレハ「一個人カ之ヲ消費セントスルノ意思ヲ以テ取引スル場合ニ於テ課スルノ租税ナリ」トス、

此分類ニ對シテハ二様ノ異論ヲ唱フルヲ得ヘシ、即チ此分類ハ悉ク租税ヲ網羅スルニ足ラサルヲ及ヒ其二種ノ租税ノ真相ニ付テ注意ヲ與ヘサリシト是レナリ、即チ若シ此分類ニ據ルトキハ夫ノ諸種ノ印紙税ノ如キハ二者何ツレノ中ニモ包含セシムル能サル可ク、又夫ノ貨物ニ課スル租税ノ如キモ往々被税物躰ノ實價ニ基ケルコトアレハナリ、

元老院議員シヤーマン(Sherman)ハ千八百七十一年合衆國元老院ニ於ケル收入税ニ關スル演說中ニ於テ偶然ニモ租税ヲハ左ノ二種ニ區別セリ、^{*}即チ所有物税及消費税是ナリ、此分類ニ對シテモ前者ト同一ノ異論ヲ唱フヘシ、而レテ序テナカラ茲ニ附言スヘキハ財産ト所得トハ判然之ヲ區別セサルヘカラサルト是ナリ、直税ト間税トノ區別ハ已ニ汎ク一般ニ行ハレタルモノナレハ成

*千八百七十九年ニヨリ、
一、ケル登刊氏ノ「財政并租税ニ關スル演說及報告」ヲ

ルヘク之ヲ保存スルヲ可トス、然レトモ各種ノ租税ヲ解釋スルニハ他種ノ租税トノ區別ヲ判然タラシメサル可ラス、而レテ稍々想像的ニ傾ケル理論ヨリモ寧ロ世間普通ノ事實ニ適合スルコトヲ主トスヘキナリ、此故ニ近來愈々精確ニ直税及間税ヲ解釋センコトヲ努ムルニ至レルハ是レ正當ナル針路ニ向フモノト云フヘシ、而レテ是等ノ中著名ナルハ以下ノ二定義トス、

ホール、レロアー、ポリューハ其著「財政學」ニ於テ左ノ定義ヲ降セリ、
「直税トハ租税ノ負擔ヲ受ク可キ人カ即時ニ支拂フ可キモノト立法者ノ期スル租税ナリ、是等ノ租税ハ直ニ納税者ノ資産若クハ歳入ノ上ニ課スルモノトス、而レテ納税者ト國庫トノ中間ニ立ツ者ヲ排除シ、以テ其租税ト納税者ノ資産若クハ其納税ノ能力トシテ精密ナル比例ヲ保タシムルヲ要ス、」

之ニ反レテボリユ一ハ間税ノ定義ヲ降シテ曰ク、

『間税トハ其負擔ヲ受ク可キ人カ即時ニ支拂フ可キモノト立法者ノ期セサル租税ナリ、而シテ立法者ハ歳入若クハ資産ト是等ノ租税トノ比例ヲ保タシメシテ求メサルナリ、立法者ハ是等ノ租税ヲハ其之ヲ課セラレタル人ヲシテ循環的ニ其負擔ヲ受クヘキモノト思惟シタル人ニ轉移セシメシテ望ムモノトス、又納税者ト國庫トノ中間ニ立ツ者アリテ存スルナリ』ト、

此定義ニ據レハ所得税、地租、動産税、相續税、贈與税、馬税、及車税ハ直税中ニ包含セラレ、貨物税、印紙税、公正證書登記料若クハ記録料ハ間税中ニ入ルモノトス、

此定義ニ就テモ亦異議ヲ唱フルヲ得ヘシ、抑モ立法者ノ意思ト云フカ如キ性質甚タ漠然タル者ヲ以テ學理的思想上ノ區別ト爲ス

カ如キハ決シテ其宜ヲ得タル者ニ非ス、又所謂租税負擔ノ轉移ニ關シテモ其事實往々模糊トシテ正確ナラサルモノアリ、曾テ小賣代價五十仙ニテ賣捌ケル或專賣特許賣藥ノ瓶ニ課シタル二仙ノ租税ハ果シテ消費者之ヲ支拂ヒタリシカ、將々又製造者之ヲ支拂ヒタリシカ、立法者カ此租税ヲ廢スルニ當リ消費者製造者ノ二者中其孰ツレヲ救濟セントシタルカ、到底明答ヲ與フルヲ能サルヘシ、

教授クニ一スハ以下ノ定義ヲ降セリ、余ノ見ル所ヲ以テスレハ此定義採擇スヘキカ如シ、

『直税トハ人ノ財産及業務ニ於ケル實價査定ニ基テ課スル租税ナリ、即チ直接ニ納税者ノ一身上ニ課スルモノナリ、間税トハ右ノ如キ査定ニ基ツカサル租税ナリ、然レトモ直接實價査定即チ

*此定義ハクニ
一スノ定義第
記ヨリ露出ス

評價ニ非サル他ノ證據ニ依リテ被税物躰若シクハ租税ノ財源
(生産的財産)ノ存在ヲ推定レ得ヘキ場合ニ於テ課スル租税ナリ。
此定義ハ租税ヲ支拂フヘキ實力ノ生スル財源ニ由リテ之ヲ區別
セルモノナリ、土地ハ所得ヲ生スルノ故ヲ以テ課税セラルヘク、而
シテ租税ハ其所得ヨリ支拂ハルヘキモノナリ、是レ即チ租税ノ財
源ナリトス、快樂ニ供スルカ爲メニ飼養スル用馬ノ如キハ固ヨリ
所得ノ財源ニ非ス、然レトモ之ニ據リテ其所有主ハ其租税ヲ拂ヒ
得可キ所得ヲ有スルヲ推定レ得ヘキナリ、即チ租税ノ財源ノ存
在ハ明白ナル事實ニ據リテ之ヲ推定スルモノトス、是レ實ニ彼重
農學派カ租税分類ノ原則ト爲レタルモノト一様ナリ、之ヲ要スル
ニ重農學派及クニースノ所說ニ據ルニ直税ハ租税ノ財源ニ課ス
ルモノナリト云フニ在リ、

余ノ見ル所ヲ以テスレハ夫ノ租税ハ其負擔ヲ受ク可キ人直接ニ
之ヲ支拂フヤ、若シクハ間接ニ之ヲ支拂フヤノ如キハ頗ル肝要ナ
ラサルニ非サルモ、決レテ租税分類ノ主眼トスヘキモノニ非サル
ナリ、只夫レ被税經濟的物件ノ性質如何ニ由リテ物(Things)ニ課ス
ル租税ノ區別ヲ定ム可キノミ、若シ果シテ斯クノ如クセハ他種ノ
租税ハ便宜ニ從テ是等ノ周圍ニ排列セシムルヲ得ヘキナリ、
不動産税及所得税ノ直税ナルヲハ一般ニ承認スル所ナリ、財産及
所得ハ實價査定ヲ受クルモノニレテ之ニ對スル租税ハ或一定ノ
比例ニ從テ賦課セラル、モノトス、然レトモ所得ト財産トハ必シ
モ同一ノ比例ヲ以テ課税セラル、モノニ非サルナリ、
間税ハ飲食衣服等ノ消費品即チ米國ニ於テ常ニ貨物(Commodities)
ト稱スルモノニ課スル租税ナリ、只間税ニハ之ニ附帶セル一ノ事

情アリ、即チ此種ノ租税ハ概テ其營業者ヨリ支拂ハル、ト是ナリ、而レテ營業者ハ其商品ノ原價ニ加フルニ前ニ支拂ヒタル租税ノ額ト其利息トヲ以テスルモノトス、然レトモ其事必スレモ常ニ然ルニ非ス、何トナレハ立法者ノ意思タル大抵ノ場合ニ於テハ營業者ヲレテ其負擔ヲハ更ニ他ニ轉移セシメントスルニアル、ト明カナルニモセヨ、時トシテハ營業者自ラ其租税ノ負擔ヲ受ケサルヲ得サルノ地位ニ立ツ、トアレハナリ、然リト雖モ例セハ余カ自ラ自用ノ書籍ヲ輸入スルニ當リ其價格ニ對シテ余ノ支拂ヘル租税ハ余カ外國取引營業者ノ手ヨリ之ヲ買ヒタル場合ト同シク正シク間税ナリ、去レトモ余ハ常ニ此方法ニヨリテ益セリ、何トナレハ此方法ニ由ルトキハ余ハ關稅ニ對シ其利息ヲ支拂フヲ要セサルヲ以テナリ、巴里市民カ他所ヨリ市内ニ食用品ヲ積ミ入ル、トキハ

市役吏ノ爲ニ課税セラル可シ、而シテ其食用品ノ自用ノ爲メナルト販賣ノ爲メナルトヲ問ハス之ニ課シタル租税ハ間税ナリ、又此定義中ニハ關稅及内國稅(Internal revenue tax)ヲモ包含ス、是等ノ租税ハ經濟學者カ間税ナル語ヲ使用スルニ當リ主トシテ其念頭ニ置クモノナリ、

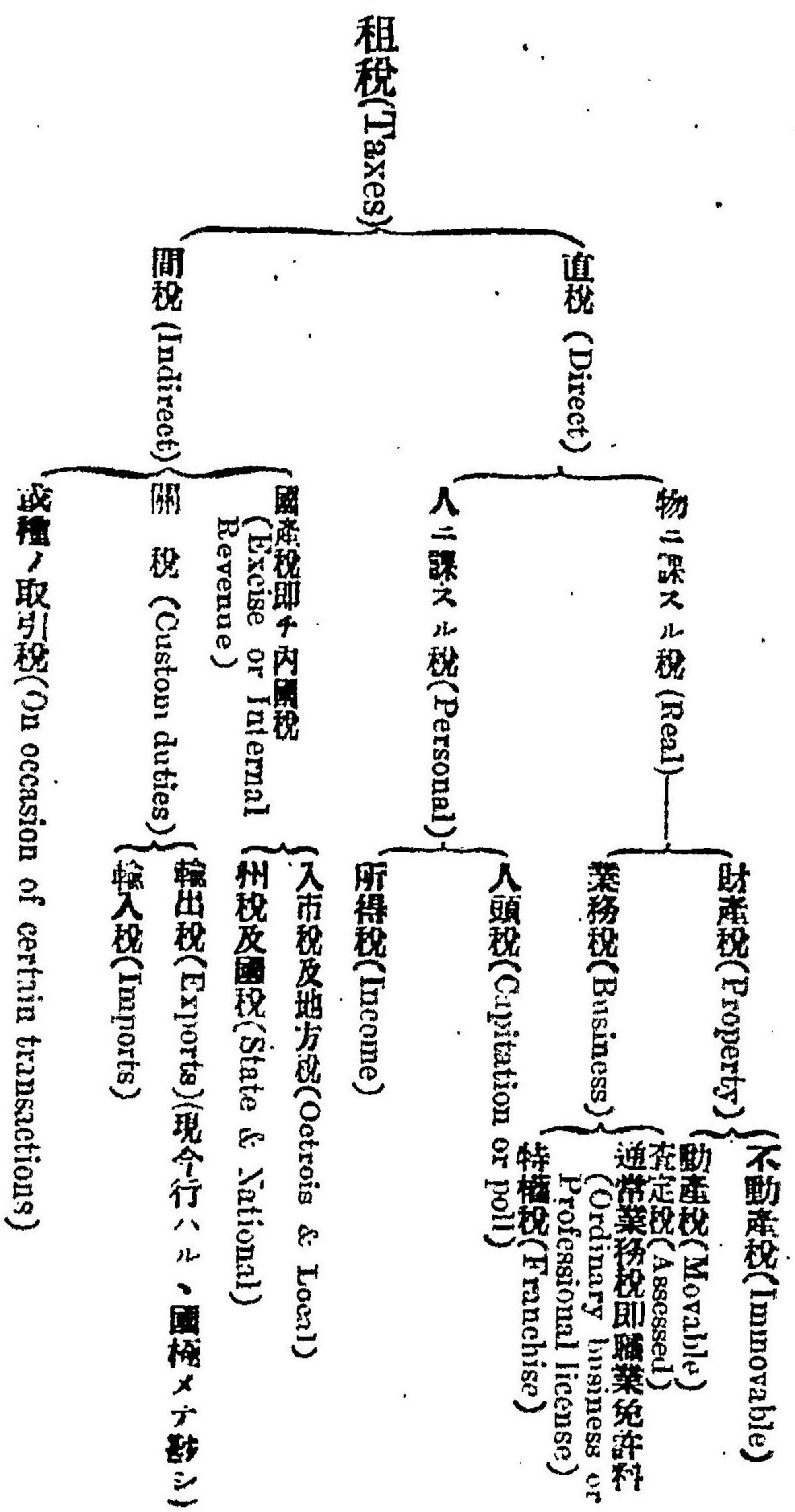
間税ノ法ハチャールス二世ノ朝ニ於テ議院カ「土地ヲ有スル郷士ノ特權ヲ動カス、トナクシテ王室ニ對スル彼等ノ封建的義務ヲ解キ」是等ノ義務ニ更フルニ麥酒、葡萄酒、煙草及酒精ニ課スル租税ヲ以テシタルノ時ニ起レリ、而シテ是等ノ租税ハ皆消費品税ナリキ、
今ヤ前陳ノ直税ノ定義中ニ加フルニ他ノ普通ニ直税ト稱シタル租税ヲ以テスルトキハ其定義更ニ愈々完全トナルヘシ、又是等ノ租税タル前述ノ直税ト共通ナル或一種ノ性質ヲ具フルヲ見ル可キ

*
ウ井ルン著
『國家豫算論』

ナリ、即チ例セハ是等ノ租税ハ自然人、假定人ヲ問ハス被税者ノ名簿ヲ要スルヲ含蓄シ、又間税ノ場合ニ於ケルヨリモ更ニ一層納税者ノ能力ニ比例シテ賦課スルカ如キ是ナリ、直税ハ往々或ハ一人ノ資産全額ノ實價ヲ査定スルヲアリ、或ハ其所得全額ノ實價ヲ査定スルヲ一層多ク、又或種ノ財産全額ヲ評價スルヲ蓋シ更ニ普通ナリトス、然ルニ間税ニ至テハ箇々特殊のニシテ被税物ノ實價ヲ査定スルヲナクシテ定額ノ負擔ヲ課スルモノトス、即チ例セハ砂糖一磅ニ付キ税金幾許ト云フカ如シ、又或ハ單ニ一物ノ價格ヲ量リテ之ヲ課シ、其納税者若シクハ租税負擔者ノ之ヲ所有シ、或ハ之ヲ所有セサル自餘ノ財産ノ價格ニハ敢テ關係セサルナリ、夫レ然リ故ニ余ハ右ニ述ヘタルモノヲ掲ケテ直税ノ定義トナスヘシ、

直税トハ商業、何種ノ商業的業務ヲモ包含ス、職業 (Professions) 消費品以外ノ經濟的物件ヨリ成レル財産及所得ニ課スル租税ナリ、此定義中ニハ犬馬、車等ノ如キ奢侈品税若シクハ相続税及贈與税ヲモ包含セリ、

間税トハ之ニ反シテ消費品即チ今日通常ノ意義ニテ稱スル貨物ニ課スル租税、及小切手支拂又ハ證書若シクハ質入抵當ノ登録等ノ如キ或種ノ取引ノ場合ニ課スル租税ナリ、左表ニ據リテ讀者ハ以上ノ分類及其二種ノ分類中ニ於ケル種々ナル細別ヲ了解スルヲ得ヘシ、



是ヨリ右ノ表ニ就テ説明セン、
直税ハ更ニ之ヲ二大部類ニ分テリ、即チ物ニ課スル税及人ニ課ス

ル税ノ二種ナリトス、然リト雖モ茲ニ注意スヘキハ右等ノ語ハ合衆國ニ於テ通常行ハル、意義ヲ以テ使用シタル者ニ非サルト是ナリ、物ニ課スル税トハ「Real」ナル語ノ指示スルカ如ク物(Things)ノ上ニ課スルモノナリ、地租ノ如キハ其一例トス、即チ地租ハ土地其物ニ屬スル一種ノ負擔ニシテ其所有者如何ノ如キハ毫モ關係スル所ナキナリ、千八百八十七年ノ年度ニ於テボルチモール市ニ於ケル土地ハ州用及市用ノ爲メ地價百弗ニ付キ一弗七十八仙七五ノ割合ヲ以テ課税セラレタリ、而シテ其所有者ノ一身ニ關スルトニ至テハ全ク度外ニ附セラレタリ、諸市ノ土地所有者中ニハ一千弗ノ價格アル土地ヨリシテ他ノ所有者ニ比シテ二倍乃至三倍ノ收入ヲ獲ルノカヲ有シタルモノアリシラン、然レトモ此事實ハ以テ査定官ヲシテ酌量スル所アラシムル能ハサリシナリ、又其所有者中ニ

ハ其土地ノ大半ヲ舉ケテ負債ノ抵當ト爲シ置ク者モアル可ク之ト同時ニ毫モ斯カル義務ヲ負ハスレテ純然タル所有者タル者モアルヘレ然レトモ是レ亦同シク査定ノ問題外ニ屬スルヲナリキ、業務税ハ職業(Pursuits)ニ課スルモノナルカ故ニ是レ又物ニ課スル税ト見做サル、モノトス、租税ノ性質中人ナル原素愈著シキニ從ヒ愈人ニ課スル税ニ近似スルニ至ルモノナリ、若レ夫レ一種ノ職業ニ従事スル人ニシテ其職業ノ故ヲ以テ毎年或定額ノ租税ヲ課セラル、モ其人ノ一身上ノ情狀如何ノ如キハ毫モ之ニ關係セサルナリ、夫ノ資本ノ使用若シクハ地代家屋料ノ價額ニ基ツキテ課スル租税ニ就テモ亦以上ノ如ク論スルヲ得ヘシ、即チ是等ノ場合ニ於ケル租税ハ物ニ課スルモノナリ、茲ニ謂ヘル物ナル語ハ最廣ノ意義ヲ用ヒ取引及職業等ヲ包含ス、若レ夫レ曾テニユー、イン

グランド植民政府ニ於テ實行シタルカ如ク商人若シクハ醫師ノ一身上ノ技能ヲ量リ、之ニ據リテ其租税ノ額ヲ増減セシムルニ至テハ是レ大ニ人ニ課スル税ニ近キモノナリ、果シテ然ラハ人ニ課スル税ハ人ノ一身上ニ課スルモノニシテ所得税ハ此租税中ノ主要ナルモノトス、今日ニ至リテハ夫ノ人頭税ハ一般ニ陳腐トシテ排斥セラレ、諸地方ニ於テモ多クハ之レヲ廢止シタリ、所得税ノ本義上ヨリスレハ其ノ税源如何ニ拘ハラス一人ノ所得ニ賦課スルモノナリ、其所得タル或ハ土地或ハ家屋或ハ株式或ハ職業等何ツレヨリ生スルヲ問ハサルナリ、人カ其年々ノ歳入ヲ獲ルヤ或ハ一方ノ財源ヨリシ、或ハ他方ノ財源ヨリシ、固ヨリ區々一定セサルナリ、要スルニ所得税ハ人ノ一身ニ纏繞スル一種ノ租税ニシテ人ニ課スル税ト稱シテ適當ナルモノナリ、

以上ノ區別ハ實際上甚々重要ナリ、夫ノ地租ノ如キハ其土地ノ質入抵當トハ毫モ關係ヲ有セサルモノトス、何トナレハ地租ハ土地ナル一ノ物ニ課スル負擔ニレテ、其實入抵當ノ事實ノ如キハ是レ所有者ノ一身上ニ屬スル事柄ナレハナリ、然リト雖モ質入抵當ナルモノハ其土地ト共ニ只一稅源ヲ表示スルニ過キサレヲ以テ、此理由及ヒ後節ニ論究ス可キ自餘ノ理由ニヨリ其課稅ヲ除カル、
 正當ナルヘシ、之ニ反レテ所得稅ノ場合ニ於テハ其所得中ヨリ質入抵當ノ利子トシテ支拂ヒタル分丈ケヲ控除セシムヘキモノトス、何トナレハ右ノ利子タル其所得ヲ減削スルモノナレハナリ、即チ所得ナルモノハ收入中ヨリ業務ノ費用ヲ支出シテ後ニ殘リタル剩餘ナリ、然レトモ夫ノ借家料ノ如キ人ニ屬スル費用ニ至テハ所得稅ヲ支拂フニ先チ其所得中ヨリ之ヲ控除セシムルコト固

ヨリ正當ニ非ス、何トナレハ所得ハ元來人ニ屬スル經費ノ爲メニ存スルモノナレハナリ、

財産稅ハ不動産稅、動産稅ノ二者ニ分テリ、是レ即チ合衆國ニ於テ Real property 稅及 Personal property 稅ト稱スルモノナリ、

業務稅ハ一ノ評價ニ對スル割合、即チ例セハ業務ニ使用セル資本全額ニ對スル或一種ノ割合ニ依リテ賦課セラル、トキハ實價査定稅トナリ、又一種ノ職業ニ従事スル特權ニ對スル定額負擔ナルトキハ通常ノ營業稅トナルモノトス、是レ南部諸州ニ於テ普通ニ行ハル、モノニレテ往々使用資本ノ額ニ應シテ課稅ノ高低ヲ定ム、即チメーリーランド州ノ如キハ業務ニ従事スル人々ノ資金額ニ應シテ大躰數級ニ區別シ、而シテ其級別ニ從ヒ營業稅ノ高低ヲ定ムルナリ、其營業稅タル一種ノ定額アリテ其營業ノ收入ニ割合

マサチューセツ州公文
 律第三項第
 十一章第三節

セル負擔ニ非ス、而レテ物々交換若シクハ販賣ニ從事スル人々ニ課スルモノハ十二弗ヨリ百五十弗ニ至ルノ間ナリトス、特權稅ハ會社ノ特權ニ課スル租稅ナリ、此租稅タル資本若クハ不動産ニ課スルモノニ非ス、又其他ノ附加稅ヲ免ル、モノニ非ス、即チ一ノ特權ニ對シテ賦課セラル、モノトス、^{*}合衆國ニ於テハ鐵道ニ課稅スルニ特權稅ヲ以テスルヲ通例トスルニ至レリ、而レテ其稅率ハ常ニ其總收入額ニ割合スルモノニシテ、一哩ニ對スル總收入ノ高ニ從テ差アリトス、

間稅ハ或ハ内國消費ノ爲メニ内國ニ於テ製造若シクハ生産セシムル物件ニ賦課シ、或ハ内國市場ニ出入スル輸出入ノ貨物ニ賦課シ、又或ハ或種ノ取引ノ場合ニ於テ賦課スルモノナリ、米國ニ於ケル内國稅(Internal revenue tax)ハ合衆國政府之レヲ徵收スルカ故ニ國稅

千八百八十八年
年
ラント租稅
委員會報告
三十八頁ヲ看

(National tax)タリ、此租稅ヲ賦課スル重モナル貨物ハ酒類及各種ノ煙草ナリトス、諸州ニ於テハ此種ノ租稅ヲ使用スルニ困難ナル事情アリ、其理由他ニ非ス、第一ニ合衆國政府已ニ之ヲ使用シタルノミナラス、實際更ニ之ヲ賦課スヘキ餘地ヲ剩サ、ルナリ、第二ニ或一州ニシテ其州内ニ於テ生産若シクハ製造スル貨物ニ課稅スルトキハ自然ニ其營業ヲ他州ニ驅逐スルニ至ルヘク、且ツ他州トノ境上ニ於テ州内ニ入り來ル貨物ニ對シ保護稅ヲ課スルカ如キハ合衆國憲法ノ許サ、ル所ナレハナリ、然リト雖モ或種ノ貨物稅ハ或州中ニ存スルヲ發見スヘシ、歐洲大陸ノ諸市ニ於テハ其市内ニ輸入シ來レル食品ニ課稅シテ歲入ヲ得ルヲ常トセリ、夫ノ巴里市等ノ如キニ於テハ故ラニ其周圍四方ニ幾多ノ小徵稅所ヲ設置シ、恰モ是レ小關稅署タルノ觀ヲ爲セリ、

關稅ハ國外ニ輸出スル物件ニ賦課スルヲアルヘシ、即チアラシク、西印度諸島中ノ或部及其他ニ於ケルカ如シ、合衆國ニ於テハ關稅ハ合衆國憲法ニ依リテ輸入稅ノミニ制限セタリ、

租稅ハ或種ノ取引起レル時、特ニ財産轉移ノ場合ニ於テ賦課セラル、
トアリ、手数料ノ如キハ證書登錄、質入抵償、借地ノ約定、質入抵償ノ解除等ノ場合ニ於テ徵收セラル、モノナリ、裁判手数料モ亦同シ、此項中ニ入ルモノトス、其他引出小切手、爲換手形、約束手形及其他諸種ノ證書類ニ要スル印紙稅ノ如キモ亦同シ、

近世ノ財政學者ハ謝金ナル語ヲ以テ左ノ如キ意味ニ解セリ、即チ謝金トハ官吏カ或一個人ノ利益ノ爲ニ盡シタル特別ノ勞役ニ對シ、其一個人ノ納ムル特別ノ報酬ニシテ、其勞力タル假令ト公共一般ノ爲ニ盡シタルモノナルニモセヨ、其謝金ノ額ニシテ實費ヲ超

過セサルトキハ之ヲ納ムル人ニ取リテ特別ノ利益アルヘキモノナリト云フニ在リ、民事裁判所ノ勞役ノ如キ以テ例證トナスニ足ルヘシ、抑モ法庭ニ出テ、飽マテ自己ノ權利ヲ維持スルノ人ハ公衆一般ニ對シ利益ヲ及ホスモノト見做サル、ナリ、今茲ニ一難題アリトセンニ、我隣人ニシテ直ニ自ラ法庭ニ出テ、其是非ヲ決定スルトキハ、余ヲシテ故ラニ冗漫ナル訴訟ヲ起シ、其費用ヲ抛ツニ至ラシメサルヘシ、然リト雖モ人ノ法庭ニ向テ其勞役ヲ煩スヤ、之ニ依リテ特別ノ利益ヲ享クルモノト見做サル、カ故ニ、其人ヲシテ特別ノ負擔ヲ爲サシム可キハ固ヨリ當然ノ事ナリト論セラル、ナリ、謝金ハ實費ノ全額ヲ償フカ、若シクハ只其幾部分ヲ償フニ止ルヲアラン、然レトモ若シ其實費ヲ充スモ尙餘剩アリテ官府ニ取テ利益ヲ生スルニ至レハ是レ已ニ間稅ト見做シテ可ナルモノ

ナリ、謝金ハ往々斯クノ如キ有様ニ歸シタルヲアリテ土地轉移授受ノ如キ或種ノ取引ノ圓滑ヲ妨害シ、爲メニ大ニ有害トナリタルヲアリキ、司法上ノ公務ニ對シテ高額ノ手数料ヲ徴收スルカ如キハ是レ取リモ直サス法律ノ保護ヲ以テ富豪者以外ニハ全ク川ナカラシムルモノナリトノ故ヲ以テシヨシ、スチユアト、ミル及ヒ其他ノ諸學者之ヲ論斥シタリ、

一ノ取引ニ課スル租税ノ如キハ實際直税トナルヘキナリ、故ニ若シ證書登記ノ手数料ニシテ移轉スヘキ土地ノ價格ニ比例シテ其徴收額ニ差等ヲ立ツルトキハ、是レ已ニ所有變更ノ場合ニ課スル直税タルニ外ナラス、ワシントン府ニ於ケル專賣特許手数料ハ其收入額特許局ノ實費ヲ充スモ尙餘裕アルナリ、而シテ右ノ特許手数料中ニ於ケル實費超過額ハ取リモ直サス間税ナリト云フヲ得

ヘシ、其理由タル他ナシ、元來專賣特許局ハ專賣特許出願者各個人ノ利便ノ爲メニ維持セラル、モノニ非スレテ、第一ニ公益ノ爲メニ設ケラル、モノナルヲ以テナリ、

米國ノ諸大市ニ於テハ謝金ハ莫大ノ收入ヲ生セリ、數年前フ^{ワシントン}府中ノ某役場ニ於テハ其所有主ニ對スル謝金ノ收入一年十萬弗ニ及ヘリト云フ、又ニ^{ニューヨーク}府ニ於テモ其收入一年五萬弗及七萬五千弗ニ至ルモノアリト流説セリ、然レトモ諸市府ニ於テハ一般ニ公務上ヨリ生スル謝金ヲ以テ官吏ノ報酬トナスヲ廢シ定額俸給ヲ與フルノ方針ヲ取リタリ、是ヲ以テ謝金ハ更ニ國庫ニ向テ轉入スルヲトナレリ、若シ謝金ニシテ其特別勞役ノ費用ヲ支辨スルニ要スル手数料ニ超過スルトキハ即チ是レ間税トナルモノナレハ其結果一種ノ苛税トナルヲ實ニ勘シトセサルナ

行政上ニ於ケル租税ノ分類

租税ハ官務ノ書式上往々直税及間税ノ二者ニ區分セララル、然レトモ此分類タル概テ學理上ノ原則ヨリモ寧ロ實際ノ便利ニ基ツケルニ外ナラス、租税ハ最初ニ於テ已ニ直税間税ノ二者ニ區分セラレタリ、勿論其理由タル第一種即チ直税ハ納税者全ク之ヲ負擔シ、後者即チ間税ニ至テハ其負擔ハ納税者ヨリ更ニ他人ノ肩ニ轉移セララル、ニ至ルト云フニ在リシナリ、然リト雖モ後年ニ至リ租税ハ往々其管理者如何ニ由リテ區別セラレ、直税吏之ヲ管理スルトキハ之ヲ直税ト稱シ、間税吏之ヲ管理スルトキハ之ヲ間税ト稱シタリキ、

ポール、レロアー、ポリユーハ佛國現行ノ行政法ニ適合スヘキ定義

ハ左ノ如シト云ヘリ、即チ曰ク、

『直税ハ直接ニ一身上若シクハ富財ノ所有又ハ其享用ノ上ニ課セラル、モノナリ、又定期ニ徴收セラル、モノニシテ特別ノ場合ニ於テ賦課セラル、モノニ非ス、』

『間税ハ證書行爲若シクハ交換ノ場合ニ於テ徴收セラル、モノナリ、又納税者ニ取リテハ不定期不時ナル場合ニ於テ徴收セララル、モノトス、』

レロアー、ポリユーカ以上ノ定義ヲ以テ性質上全然別異ナル事物ヲ集メテ一群トナシ之ヲ分類シタルモノナリトシテ之ニ反對シタルハ頗ル其當ヲ得タルモノナリ、佛國行政法ニ於テハ相續税贈與税ノ如キハ結局自餘ノ財産税ト同様ナルニモ拘ハラズ之ヲ間税ノ中ニ分類シ、又麥鹽及馬鈴薯ニ課スル租税トハ其作用ヲ同セ

サルニモ關セス是等ト同一類トナセリ、
 要スルニ租税ノ分類ニ就テハ各國皆特別ノ性質ヲ有スルヲ知
 ルヘク、又其彙類法タル何國ニ於テモ蓋シ多少偶然ニ出タルモノ
 ナルヲ知ルヘシ、

亞米利加合衆國憲法上ノ分類ノ如キハ實ニ一種奇異ナルモノナ
 リ、右憲法ノ條章中ニ曰ク『代議士及直税ハ人口ニ比例シテ各州ニ
 配附セラルヘシ』ト、玆ニ所謂直税ナルモノハ只是レ不動産税及奴
 隸税ノミヲ意味スルモノナリト判決セラレタリキ、此故ニ前内亂
 ノ際國會カ所得税ヲ課スルヤ之ヲ以テ間税ト見做レタリキ、豈ニ
 奇異ナラスヤ、

自餘ノ分類法

租税ハ被税ノ物躰若シクハ人ニ關シ、或ハ課税即チ負擔ノ辭柄ト

*
 ショエンベル
 日編纂『經濟
 學提要』第一
 版第二卷百五
 十頁

ナサレタル事柄ニ關シテ種々ニ區別セララル、モノトス、又其他ノ
 標準ニ依リテモ之ヲ區分スルヲ得ヘシ、即チ租税ハ比例税(Proportional tax)/累進税(Progressive tax)、逆進税(Regressive tax)及迂進税(Digressive tax)トナスヲ得ヘシ、

比例税トハ被税物ニ對シ終始一樣ノ割合ヲ以テ賦課スルモノヲ
 稱ス、累進税トハ課税セラルヘキ財産若シクハ所得ノ價格ノ増加
 スルト共ニ其税率ヲ高ムルモノヲ云フナリ、今之ヲ例解センニ幾
 許ノ所得ニ對シテモ悉ク一分ノ割合ヲ以テ賦課スルモノハ比例
 税ナリ、然ルニ千弗以上二千弗以下ノ所得ニ對シテハ其税率ヲ一
 分トナシ、二千弗以上ノ所得ニ對シテハ之ヲ二分トナスモノハ累
 進税ナリトス、而シテ其累進ノ度タル昇騰無限ナルヲ得ヘク、又之
 ヲ或程度ノ割合ニ止ムルヲ得ヘシ、逆進税トハ被税財産ノ減少

ニ從ヒ其稅率ノ割合増加スルモノヲ云フナリ、メーリーランド州ノ營業免許稅ノ場合ノ如キ即チ是ナリ、
 迂進稅トハ或一定ノ額マテハ課稅ヲ免除シ、而シテ其定額以上ノ超過額ニ對シ均一ナル稅率ヲ以テ賦課スルモノナリ、即チ六百弗以下ヲ以テ免除額トナシ、之ニ超過スル悉皆ノ所得ニ課スル一分ノ所得稅アリトセンニ、其超過額ニ課スルモノ、ミ之ヲ稱シテ迂進稅ト云フ可シ、其稅率ノ累進實ニ微々タルモノナリ、例セハ千二百弗ノ所得ニ對シテハ其稅率一分ノ二分ノ一トナリ、一千八百弗ノ所得ニ對シテハ一分ノ三分ノ二ノ割合トナルカ如シ、其稅率ノ累進夫レ斯クノ如ク遅々タルカ故ニ迂進稅即チ遠速ニ累進セサル稅ト稱スルモノトス、又或ハ徐進稅 (Progressional tax) ト稱セラレタルヲアリ、

ウオーカー著

『經濟學』第
二版第六部第
十六章

通常稅 (Ordinary tax) 即チ定期稅 (Regular tax) 及ヒ非常稅 (Extraordinary tax) 等ノ如キニ至テハ其語ノ示ス所ニヨリテ其意義十分ニ明解セラレヘキナリ、

又租稅ハ配附稅 (Apportioned tax) 及割合稅 (Percentage tax) ノ二種ニ區分スルヲ得ヘシ、配附稅トハ州、郡、府及市等ノ如キ諸種ノ政治區域ニ配當スルノ租稅ナリ、直接合衆國稅ノ如キ以テ例證トナスヘシ、右ニ述ヘタル如クナルヲ以テ是等ノ租稅ハ人口ニ應シテ各州ニ配當セサル可ラス、而シテ其賦課ノ割合ノ如キハ其配當ヲ受ケタル後各州ニ於テ之ヲ決定セサル可ラス、ニユー、イングランド州ニ於ケル郡稅及州稅ハ更ニ之ヲ其諸府ニ配附セシム、然レトモ其配附ノ割合ハ従前ノ財産評價額ニ基ツケリ、
 メーリーランド州ニ於ケル租稅ハ割合稅ナリトス、州内ノ財産ハ

悉ク或一定ノ稅率ニ依リテ賦課徵收セラレ、敢テ地方諸政治區ニ配附スルコトナレ、茲ニ注意スヘキコトアリ、即チ配附稅ノ場合ニ於テハ其徵收額豫メ決定シ居レトモ、其課稅ノ割合ニ至テハ自ラ多少ノ變動アルヲ免レス、又之ニ反シテ割合稅ノ場合ニ於テハ其收入ノ高多少不定ナレトモ其稅率ニ至テハ一定不變ナルコト是ナリ、

第六章 直稅及間稅ノ比較

間稅ハ主トシテ貨物(Commodity)ニ課スル租稅ナリ、

間稅ハ概テ貨物ニ課スルモノナリトス、即チ換言スレハ飲食衣服及ヒ其他ノ消費品、若シクハ消費品ヲ製造スル爲メニ使用スル粗製品及ヒ器械ニ課スルモノナリ、之ヲ稱シテ間稅ト云フ所以ノモ、他ナレ、是種ノ租稅タル最初ニ之ヲ支拂ヒタル人更ニ之ヲ他人ニ轉移スルヲ當トスレハナリ、例セハ鹽、砂糖、石炭等ノ輸入者ハ之ヲ合衆國ノ領内ニ輸入スルニ當リ、是等ノ貨物ニ對スル租稅ヲ支拂ヒ、其稅額ヲ以テ右ノ原價ニ附加シ、以テ之ヲ他ノ人即チ卸賣商ニ賣渡スヘシ、卸賣商ハ更ニ其稅額及ヒ其支拂ノ爲メニ立換ヘタル金額ノ利子ヲ附加シテ小賣商ニ賣渡スヘシ、而シテ小賣商ハ最

後ニ之ヲ吾等ニ賣渡スニ至ルモノトス、去レトモ、此時ニ及テハ其租税ハ既ニ幾多ノ轉回ヲ經テ恰モ丘上ヨリ轉落スル雪珠ノ如ク層一層ニ累積シ來リタルモノナリ、小賣商ニ取リテハ右ノ税額ハ其卸賣商ニ支拂ヒ且更ニ消費者ナル吾等ニ賣却レテ利益ヲ得ヘキ代價中ノ幾部分ヲ爲シタルヤ已ニ判知ス可ラサルナリ、夫レ斯クノ如クレテ間税ハ幾回トナク循環シ、一人ハ更ニ之ヲ他人ニ轉移シ、其負擔ハ愈々増加シテ遂ニ真正ノ納税者ノ肩ニ落ルモノトス、之ヲ以テ間税ハ夫ノ租税ノ四原則中ノ一ニ背クノ租税ナリト云フ可レ、何トナレバ此租税タル其國庫中ニ收納スル額ヨリモ過多ノ金額ヲ納税者ノ財囊ヨリ取り去ルモノナレハナリ、即チ實ニ濫費多キ租税ナリ、是レ決シテ理論一偏ノ說ニ非ズ、其事實上斯ノ如クナルハ自己ノ從事セル業務上ノ作用ヲ解スル有識ノ商

人ニ就テ之ヲ質サハ、何人ニテモ忽チ釋然思ヒ半ハニ過クルモノアラシ、

間税ハ均一ノ原則ニ背ク

右ノ外租税ノ原則トシテ承認セララル、ハ和税ノ高ハ之ヲ賦課スル度毎ニ納税ノ能力即チ國內ノ公民カ享有スル收入ニ比例シテ算出セサル可ラサルト是レナリ、是レ即チ租税ノ均一 (Equality of taxation)ト稱セララル、モノナリ、政府ハ吾等一同ニ對シ悉ク均一ニ其負擔ヲ課セサル可ラス、夫ノ誠實ニ査定シ誠實ニ徵收シタル所得税ノ如キハ能ク此原則ノ本義ニ適合スル者トス、果シテ然ラハ間税ノ場合ニ於テハ如何、間税ハ元來物品消費税ナリ、然レトモ彼税品ノ消費額ハ果シテ所得ノ多寡ニ比例スルモノナルヤ、吾人ノ鹽ヲ輸入スルヤ其價格ニ對シ殆ント五割ノ課税ヲ受クヘシ、然レ

トモ富者ハ果シテ貧者ヨリモ多量ノ鹽ヲ消費スルヤ、吾人ハ果シテ其家計ノ裕カナルニ從ヒ其肉汁中ニ混入スル鹽量ヲ増加スルニ至ルヤ、否々之ニ反シテ貧人ノ消費スル鹽量ハ却テ富者ノ消費スルモノニ比シテ更ニ大ナリト云フヲ得ヘシ、何トナレハ富者ハ別ニ自餘ノ調味料ヲ使用スレトモ、鹽ハ往々貧人ノ享有スル唯一ノ加味物ナレハナリ、吾人ハ此種ノ租税ニ於テ夫ノ所謂逆進税ナル者ヲ見ル、逆進税ハ所得ノ減少ニ從ヒ増加スルモノニシテ最悪最不正ノ租税ナリ、砂糖税ハ課税ノ割合其價格ノ七割五分以上ニ昇ル、而シテ我政府ノ歳入ノ大部分ハ此税源ヨリ生スルモノトス、是レ又租税原則上ニ於テ前者ト異ナルナシ、勿論此場合ニ於テハ砂糖ノ價格ニ應シテ税率ニ差アルヲ以テ、其量ノ累加スルニ從ヒ多額ノ租税ヲ支拂フニ至ル可ク、且ツ資産ニ富ム人民ハ貧民ヨリ

モ多量ヲ消費スルハ蓋シ疑ヲ容レサルナリ、去レトモ税率及消費分量ノ多寡ノ如キハ決シテ所得ノ多寡ト符合スルモノニ非ス、一年一萬弗ノ所得ヲ有スル人ハ果シテ一萬五千弗ノ所得ヲ有スル人ヨリモ少量ノ砂糖ヲ消費スルヤ否ヤ疑ナキヲ得ス、假令ヒ然リトスルモ蓋シ敢テ劣等ノ砂糖ヲ消費セサルナリ、一年二十萬弗ノ所得ヲ有スル人ト雖モ二千弗ノ所得ヲ有スル人ノ二十倍ヲモ消費スルヲナカルヘシ、何ツ況ンヤ其一百倍ヲヤ、故ニ吾人ハ此場合ニ於テモ尙ホ逆進税ナル者ヲ見ル、然レトモ今ヤ數歩ヲ譲リ試ニ夫ノ一年千五百萬弗ノ歳入ヲ生スル絹布輸入税ヲ舉ケヨ、是レ實ニ間税中ニ於テ最モ公平ナルモノ、一ナルカ如シ、其税率ハ大抵五割ナリトス、絹布ハ今日ニ於テハ敢テ分外ノ奢侈品トハ稱シ難シ、而シテ一年三千弗ヲ以テ一族ヲ維持スル一法律家ノ負擔スル

税額ハ全躰ノ比例上三十萬弗ノ所得ヲ有スル富豪家ノ上ニ出ツ、斯カル例證ハ更ニ之ヲ續掲スルノ要ナレ、近來民主的思想ノ進歩ト共ニ累進税法ノ觀念ハ愈々世人ノ好意ヲ得ルトナレリ(其正否如何ハ今茲ニ論スルヲ須ヒス)而シテ世界中民主主義ノ行ハル、ト他ニ比類ナキ或邦國(即チ瑞西ノ諸カントン)ニ於テハ近來財產及所得ニ對シ累進税法ヲ採用シタリ、然ルニ我合衆國政府ハ依然トシテ今尙ホ全ク逆進税制度ニ依頼スルハ何ツヤ、然レトモ以上ノ所論尙ホ未タ悉サ、ル所アリ、請フ試ミニ何種ヲ問ハス租税上ノ著書ヲ披キテ其間税ノ利ヲ説ケル議論ヲ觀ヨ、其劈頭第一ニ人ノ注意ヲ惹クモノ果シテ何事ヲ、他ナシ、即チ現今文明諸政府ニ對スル需要ハ頗ル多ク、人民ハ直税ヲ喜ハス、且ツ富裕ノ人士ハ所得ニ比例セル高價ノ直税ニ反抗スルヲ以テ、少資産ノ

人民中ヨリ巨額ノ出金ヲ爲サレムルニ非サレハ實際今日ノ政府ヲ維持スルニ由ナク、而シテ彼等ニ課税スル唯一ノ方法ハ間税ニ依ルニ外ナレト云フニ在リ、換言スレハ租税ヲ物品ノ代價中ニ混入セシメ、而シテ其物品ノ購買者ヲシテ必スヤ其租税ヲ支拂ハサルヲ得サレムルト云フニ在ルナリ、又茲ニ留意スヘキハ初メ我國ニ於テ繼受シタル夫ノ英國ノ間税法ハ殆ント二百年以前チヤールス二世ノ廢敗セル世ニ於テ生シタルモノナルト是ナリ、當時政府ノ費用ハ封建借地法ニヨリテ所有セル土地ノ上ニ課セラレタリ、然ルニチヤールス二世朝ノ議院ハ僅ニ二票ノ多數ニ由リ土地ヲ有スル郷士ノ特權ヲ動カスコトナクシテ悉ク王室ニ對スル彼等ノ封建的義務ヲ解除シ、而シテ更ニ國家ニ對シ右ノ填補トシテ麥酒、酒精、葡萄酒、煙草及其他ノ諸品ニ國產税ヲ課シタリ、是レ吾

*
ウ井ルソソ若
『國家豫算論』

國(英國)現今間税制度ノ濫觴ナリ、斯クノ如クニシテ貴族社會ハ其
所有地ニ於ケル特別ノ負擔ヲ脱シ、以テ吾國(英國)近代ノ財政史上
ノ大勢ヲハ全ク一變セシムルニ至レリトハ實ニ英國ノ一財政學
者ノ説ク所ニ非スヤ、*

間税ト貧苦

間税ト貧苦トハ自ラ相關聯スル所アリ、是レ又宜ク注意スヘキ
ナリ、直税ノ場合ニ於テハ凡テ之ヲ賦課スヘキ最低ノ區限ヲ立ツ
ルモノトス、米國諸州ニ於テハ其區限概テ百弗ヨリ五百弗ニ至ル
ノ間ニ在ルヲ常トセリ、即チ換言スレハ其價格以下ノ財産ニハ課
税セサルナリ、

然ルニ間税ニ至テハ之ヲ賦課スルニ當リ、或ハ其憐ム可キ寡婦カ
囊底ヲ叩キテ得タル最後ノ一弗タルカ、或ハ一萬弗ノ所得中ニ於

ケル僅々一弗ナルカノ如キハ毫モ措テ問ハサルナリ、唯物價ヲ騰
貴セシメ從テ所得ノ價格ヲ減殺シ、而シテ既ニ貧苦ニ瀕スル人々
ヲレテ一轉忽チ身ヲ苦境ニ投セシムルアルノミ、夫レ斯クノ如ク
シテ或階級人民ノ高尚ナル立身ノ奮發心ヲ水泡ニ歸セシメ、以テ
世ノ文明ヲレテ自然ニ陋卑ニ流レシムルニ至ルモノトス、豈ニ管
是レノミナランヤ、若シ夫レ此租税ニシテ人ノ社會ニ於ケル産業
的要素タルノ價格ヲ毀損スルアラシカ、其當初租税トシテ取り上
ケタルモノヲ以テ却テ更ニ賑恤トシテ之ヲ返付スルノ奇觀ヲ生
スルニ至ラン、痴モ亦甚シカラスヤ、

間税ハ商業ヲ障礙ス

間税徴收ノ費用ハ實ニ多額ニシテ偵察者及申告者ノ一隊ヲ設ク
ルノ必要アリ、夫レ斯クノ如クシテ人民ノ自由ニ干渉スルヤ一ト

シテ商業ヲ障礙スルニアラサルハナレ、加之ナラス又之レカ爲メニ間税ハ其國庫中ニ收納スルヨリモ多額ノ金錢ヲ人民ノ囊中ヨリ取り上ケ去ルニ至ルモノトス、

間税ト獨占(Monopoly)

抑モ現今ノ諸國ニ適用スヘキ概言ヲ爲サンニ間税ハ世ノ營業ヲシテ少數者ノ專有ニ歸セシムルノ趨向アリタリト論スルヲ得ヘシ、是レ實ニ間税ヨリ生スル最モ不良ナル結果ノ一ニシテ、又夫ノ租税ヲ賦課セラル、ヲ希望スル一種ノ人アルガ如キ奇觀ヲ呈スル所以ナリトス、

煙草製造者及、ホヰスキ「酒釀造者ノ如キハ其生産スル貨物ニ課セラル、現行ノ間接合衆國税ヲハ飽マテ之ヲ保維セン「ヲ懇望セリ、之ト同時ニ既ニ獨占ノ利ヲ握リタル夫ノ「マツチ製造者ノ如キ

モ千八百八十三年ニ於ケル「マツチ」税廢止ニ反對シ、立法部内ノ運動者ヲロシント「ン府ニ派出シテ大ニ斡旋スル所アリタリ、去レトモ其全ク徒勞ニ屬セシ「ハ實ニ世ノ幸ナリキ、

抑モ間税カ大仕掛ナル諸製造業ヲ利スル所以ノモノ其理由蓋シ少シトセス、今其一例ヲ舉ケンニ合衆國ニ於テハ「管テ「マツチ」製造者ニ對シ同税支拂ノ爲メ其箱ニ貼用スヘキ印紙ノ多額ヲ一時ニ拂ヒ受クルトキハ政府ニ於テ之ヲ割引シ、而シテ其割引ノ割合ハ其印紙ノ高ト共ニ増加セシメタリキ、若シ該製造者ニシテ自ラ其印紙トスヘキ離形ヲ調製シテ之ヲ提出シ、而シテ更ニ一時ニ之ヲ拂ヒ受クル時ハ内國稅委員ハ右ニ付キ五十弗以上五百弗以下ノ金額ニ對シテハ五分、五百弗以上ニ對シテハ一割ノ割引ヲ與フルヲ得ルノ權限ヲ有シタリキ、是ヲ以テ獨占ノ趨向ヲ避ントスルモ到

底得可ラサルナリ、又該製造者ニシテ其上納ニ付キ確實ナル保證ヲ提出スル時ハ特別ニ六十日間ノ信用ヲ與ヘタリキ、蓋シ往時ニ在リテハ家内若シクハ小店ニ於テ小仕掛ニ「マッチ」製造ノ業ヲ爲スハ何人ニテモ極メテ容易ナル事ナリシモ、今ヤ其營業ハ全ク獨占者ノ掌裡ニ歸スルニ至リタリ、右ノ外大仕掛ナル自餘ノ諸商品製造者ニ對シテモ同様ノ割引ヲ許シタリ、^{*}以上ノ割引タル素ヨリ間税ニ固有ナル状態ニハ非サルモ説明ノ爲メ例證トシテ茲ニ舉タルモノナリ、何トナレハ元來貨物稅徵收ノ規則タル多クハ大製造者若シクハ大販賣者ヲ利スルノ状態ヲ有スルヲ常トスレハナリ、葉卷煙草、紙卷煙草及ヒ其他諸種ノ煙草ヲ製造スルハ固ヨリ容易ノ業ニシテ、往時ニ在リテハ葉卷煙草及普通ノ煙草ヲ製造スルノ業ハ全國到ル處ニ行ハレ、南部諸州ノ煙草耕殖者ハ其製造業ト耕

^{*}合衆國改正
律ニ第三十五
項第十條

殖業トヲ兼帶スルヲ得タリシナリ、其業ヲ爲スヤ唯一臺ノ板、一口ノ鉋、丁、少許ノ貼糊及其他二三ノ簡單ナル器械ヲ要スルニ過キザリキ、然ルニ今ヤ之ニ從事スルニ當リテハ租稅支拂ノ爲ニ保證書ヲ差出サ、ル可ラス、其營業ヲ爲スヤ成規ノ方法ヲ遵奉セサル可ラス、又諸帳簿類ヲ保存シ置カサル可ラサルナリ、夫ノ印紙割引等ノ事ハ姑ラク措キ、凡ソ是等ノ事皆大營業者ヲ利スルニ非サルハナシ、又巨額ノ資本ヲ要スルカ如キモ更ニ小産者ニシテ其營業ニ從事スル者ヲ妨制スルモノナリ、夫レ斯クノ如クナルヲ以テ少數ノ大製造者ハ全ク合衆國內ニ於ケル該營業ヲ壟斷スルトナリ、而シテ彼等ハ今ヤ其自ラ納ムル租稅ノ廢止ニマテモ反對スルニ至リタリ、

製造所用ノ爲メ巴里市内ニ送入スル石炭ニシテ若シ其購入セラ